

中 間 市
子ども・子育てに関するニーズ調査

報 告 書

平成 26 年 3 月

中 間 市

目 次

はじめに 調査の概要	1
1. 調査の目的	2
2. 調査対象・方法及び回収率	2
第1章 総括	3
1. アンケートについて	4
第2章 子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果	5
就学前児童	6
1. 住まいの地域	6
(1) 住まいの地区について	6
2. 家族の状況	6
(1) 子どもの年齢	6
(2) 子どもの人数	7
(3) 調査票の回答者	7
(4) 調査票の回答者の配偶関係	8
(5) 子どもの子育てを主にしている人	8
3. 子どもの育ちをめぐる環境	9
(1) 子育てに日常的に関わっている人・機関	9
(2) 子どもの子育てに最も影響すると思われる環境	10
(3) 子どもをみてもらえる親族・知人	11
(4) 祖父母等の親戚に子どもをみてもらっている状況	12
(5) 友人・知人に子どもをみてもらっている状況	13
(6) 子育ての相談ができる人や場所の有無	14
(7) 子育ての相談ができる人・機関等	14
4. 保護者の就労状況	15
(1) 保護者の就労状況	15
(2) 就労している保護者の1週あたりの「就労日数」、1日あたりの「就労時間」	16
(3) 就労している保護者の家を出る時間と帰宅時間	18
(4) 就労している保護者のフルタイムへの転換希望（パートタイム、アルバイト等）	20
(5) 就労していない、またはこれまで就労したことがない保護者の就労希望	21
(6) 就労を希望する保護者の就労希望形態	22
5. 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況	24
(1) 子どもの定期的な教育・保育の事業の利用	24
(2) 子どもが平日に利用している教育・保育の事業	24
(3) 子どもが平日に定期的に利用している教育・保育の事業の利用状況	25

(4) 子どもが平日に定期的に利用する教育・保育の事業の利用状況の意向	28
(5) 現在、利用している教育・保育事業の場所	30
(6) 平日に定期的に教育・保育の事業を利用している理由	31
(7) 子どもが定期的な教育・保育の事業を利用していない理由	32
(8) 子どもの平日の教育・保育の事業として定期的に利用したい事業	33
(9) 教育・保育事業を利用したい場所	34
6. 中間市の子育て支援事業	35
(1) 子どもの現在の中間市子育て支援センター「くるり」の利用状況	35
(2) 子どもの現在の中間市子育て支援センター「くるり」の利用意向	37
(3) 中間市の子育て支援事業	39
7. 土日・休日や長期休暇中の「定期的」な教育・保育事業の利用希望	41
(1) 子どもの土曜日の、定期的な教育・保育の事業の利用意向	41
(2) 子どもの日曜日・祝日の、定期的な教育・保育の事業の利用意向	42
(3) 土曜日と日曜日・祝日に、教育・保育事業をたまに利用したい理由	44
(4) 幼稚園を利用している子どもの、長期の休暇期間中の教育・保育の事業の利用意向	44
(5) 幼稚園を利用する子どもの、教育・保育事業をたまに利用したい理由	46
8. 病気の際の対応（平日の教育・保育の利用者のみ）	47
(1) 子どもの病気やケガの時の、平日の定期的な教育・保育の事業の利用状況	47
(2) 子どもの病気やケガの時の、通常の仕事が利用できない場合の対処方法	47
(3) 病気やケガで学校を休んだ場合の対処日数	48
(4) 病児・病後児保育事業の利用意向	48
9. 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用状況	49
(1) 私用、病気・通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用している事業	49
(2) 不定期に事業を利用していない理由	50
(3) 宿泊を伴う一時預かり等の事業の利用意向	51
(4) 利用したい事業の望ましい事業形態	52
(5) 保護者の用事により、子どもを泊まりがけで家族以外に預けた経験	53
(6) 子どもを親族・知人に預けた場合の預けやすさ	54
10. 小学校就学後の放課後の過ごし方（5歳以上の子どものみ）	55
(1) 子どもの放課後の過ごし方の意向	55
(2) 学童保育の放課後の利用時間帯の意向	56
(3) 学童保育の日曜・祝日の利用と利用時間帯の意向	57
11. 育児休業制度や短時間勤務制度など職場の両立支援制度	59
(1) 育児休業制度の取得経験	59
(2) 育児休業制度を取得していない理由	59
(3) 育児休業給付と保険料免除についての認知度	61
(4) 育児休業制度取得後の職場復帰	61
(5) 育児休業制度から職場に復帰したタイミング	62
(6) 育児休業制度から職場復帰した時の子どもの月齢	63
(7) 育児休業制度から職場復帰する時の子どもの月齢の意向	64

(8) 育児休業制度から職場復帰した時の短時間勤務制度の利用状況	65
(9) 短時間勤務制度を利用しなかった、できなかった理由	66
(10) 子どもが1歳までに育児休業制度を取得する意向	67
(11) 育児休業制度から、希望の時期に職場復帰しなかった理由（早く復帰）	68
(12) 育児休業制度から、希望の時期に職場復帰しなかった理由（遅く復帰）	69
1 2. 子育てに関する悩みや不安	70
(1) 子育ての楽しさ	70
(2) 心理的な子育ての悩み	70
(3) 環境的な子育ての悩み	71
(4) 仕事と子育ての両立の上で困難と感ずること（就労者のみ）	72
1 3. 中間市の子育て支援	73
(1) 中間市の子育ての環境や支援の満足度	73
(2) 将来の中間市での子育ての意向	73
(3) 子育て情報の入手方法	74
(4) 子育ての充実に望むこと	75
小学生児童	76
1. お住まいの地域	76
(1) 住まいの地区について	76
2. 家族の状況	76
(1) 子どもの学年	76
(2) 子どもの人数	77
(3) 調査票の回答者	77
(4) 調査票の回答者の配偶関係	78
(5) 子どもの子育てを主にしている人	78
3. 子どもの育ちをめぐる環境	79
(1) 子どもをみてもらえる親族・知人	79
(2) 祖父母等の親戚に子どもをみてもらっている状況	80
(3) 友人・知人にお子さんをみてもらっている状況	81
(4) 子育ての相談ができる人や場所の有無	82
(5) 子育ての相談ができる人・機関等	82
4. 保護者の就労状況	83
(1) 保護者の就労状況	83
(2) 就労している保護者の1週あたりの「就労日数」、1日あたりの「就労時間」	84
(3) 就労している保護者の家を出る時間と帰宅時間	86
(4) 就労している保護者のフルタイムへの転換希望（パートタイム、アルバイト等）	88
(5) 就労していない、またはこれまで就労したことがない保護者の就労希望	89
(6) 就労を希望する保護者の就労希望形態	90
5. 病気の際の対応	92
(1) 病気やケガで子どもが学校を休んだこと	92

(2) 病気やケガで学校を休んだ場合の対処方法.....	92
(3) 病気やケガで学校を休んだ場合の対処日数.....	93
(4) 病児・病後児保育事業の利用意向.....	93
6. 宿泊を伴う一時預かり等の利用.....	94
(1) 宿泊を伴う一時預かり等の事業の利用意向.....	94
(2) 保護者の用事により、子どもを泊まりがけで家族以外に預けた経験.....	95
(3) 子どもを親族・知人に預けた場合の預けやすさ.....	96
7. 放課後の過ごし方.....	97
(1) 子どもの放課後の過ごし方の意向.....	97
(2) 学童保育の放課後の利用時間帯の意向.....	98
(3) 学童保育の日曜・祝日の利用と利用時間帯の意向.....	98
(4) 平日の学童保育の利用状況.....	100
(5) 土曜日の学童保育の利用状況.....	101
8. 子育てに関する悩みや不安.....	102
(1) 子育ての楽しさ.....	102
(2) 心理的な子育ての悩み.....	102
(3) 環境的な子育ての悩み.....	103
(4) 仕事と子育ての両立の上で困難と感ずること（就労者のみ）.....	104
9. 中間市の子育て支援.....	105
(1) 中間市の子育ての環境や支援の満足度.....	105
(2) 将来の中間市での子育ての意向.....	105
(3) 子育て情報の入手方法.....	106
(4) 子育ての充実に望むこと.....	107

アンケートについて

本アンケートは統計上、次の点において数値に違いがありますが、統計結果の間違いではありません。

① 回答数の合計について

設問中「複数回答」と記述のある箇所は1人あたり複数回答された設問です。よって、回答数計が回答数（人）を上回ります。

② 割合の合計について

統計結果中、割合の合計値が100%にならない箇所がありますが、割合を小数点第2位を四捨五入していることによるものです。

③ アンケート回収数と回答数が一致しない部分について

アンケート回収数と回答数（人）が一致しない部分は、アンケートの設問に対して回答されていない箇所があることによります。

はじめに 調査の概要

1. 調査の目的

本市では、「中間市次世代育成支援行動計画【後期計画】」を平成22年3月に策定し、「地域の和による 子育てを支えるまち なかま」を基本理念に施策を推進してきました。

子育て支援サービスの利用状況をはじめ、保護者の子ども・子育てに関する意向等を把握し、子ども・子育て支援事業計画の策定に資することを目的として、「子ども・子育て支援に関するニーズ調査」を実施しました。

2. 調査対象・方法及び回収率

(1) 調査対象について

- ① 就学前児童保護者・・・1,460人
- ② 小学生児童保護者・・・1,009人

(2) 調査方法について

- ① 対象者の保護者に調査を行いました。
(兄弟姉妹がいる場合は、末子を対象としています。)
- ② 郵送により、調査票の配布・回収を行いました。

(3) 回収率について

アンケート調査における回収率は以下のとおりです。

	配布数	有効回収数	有効回収率
就学前児童保護者	1,460件	566件	38.77%
小学生児童保護者	1,009件	604件	59.86%
計	2,469件	1,170件	47.39%

第1章 総括

1. アンケートについて

今回実施した子ども・子育て支援に関するニーズ調査は、本市における子育てや育児の状況、保護者の子育て支援に対するニーズなどについて把握し、今後策定する子ども・子育て支援事業計画の基礎資料とすることを目的としています。

アンケートでは子育てに関する以下に示す項目について調査を行っています。

- ① お住まいの地域とご家族の状況について
- ② 子どもの育ちをめぐる環境について
- ③ 保護者の就労状況について
- ④ 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況について
- ⑤ 中間市の子育て支援事業の利用状況について
- ⑥ 土日・休日や長期休暇中の「定期的」な教育・保育事業の利用希望について
- ⑦ 病気の際の対応について
- ⑧ 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用状況について
- ⑨ 放課後等の過ごし方について
- ⑩ 育児休業や短時間勤務制度など職場の両立支援制度について
- ⑪ 子育てに関する悩みや不安について
- ⑫ 中間市の子育て支援について

第2章 子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果

就学前児童

1. 住まいの地域

(1) 住まいの地区について

〈問1〉

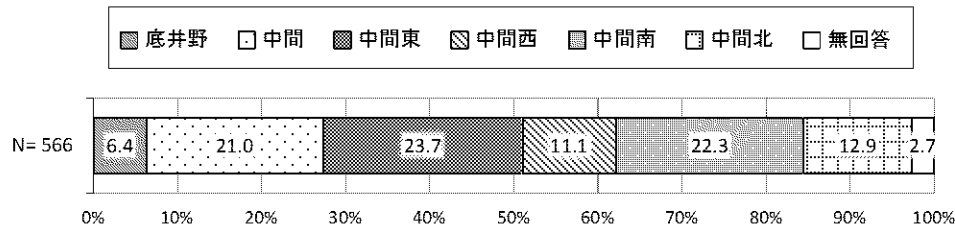
アンケート調査の対象となった保護者の住まいの地区（小学校区）については、「中間東地区」が最も多く、全体の23.7%となっています。続いて、「中間南地区」（22.3%）、「中間地区」（21.0%）となります。

■ 住まいの校区

N= 566

	実数(人)	構成比(%)
底井野	36	6.4
中間	119	21.0
中間東	134	23.7
中間西	63	11.1
中間南	126	22.3
中間北	73	12.9
無回答	15	2.7
合計	566	100.0

■ 住まいの校区



2. 家族の状況

(1) 子どもの年齢

〈問2〉

子どもの年齢は、「0歳」が103人、18.2%と最も多く、次いで「1歳」が99人(17.5%)、「5歳」が85人(15.0%)と続きます。0～2歳は285人(50.4%)で、3～5歳(229人、40.4%)より人数が多くなっています。

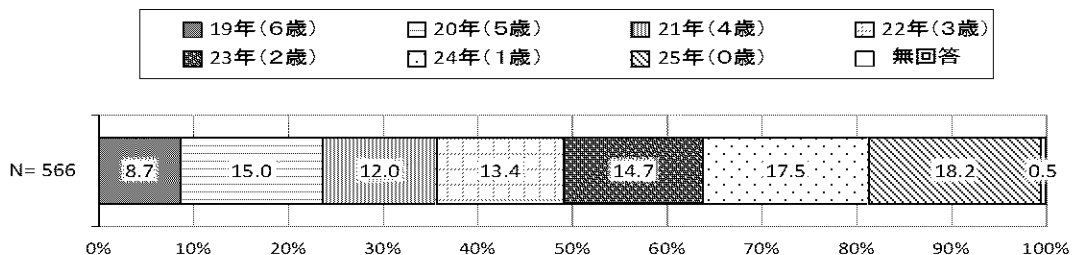
■ 子どもの年齢

N= 566

	実数(人)	構成比(%)
19年(6歳)	49	8.7
20年(5歳)	85	15.0
21年(4歳)	68	12.0
22年(3歳)	76	13.4
23年(2歳)	83	14.7
24年(1歳)	99	17.5
25年(0歳)	103	18.2
無回答	3	0.5
合計	566	100.0

(平成26年1月現在)

■ 子どもの年齢



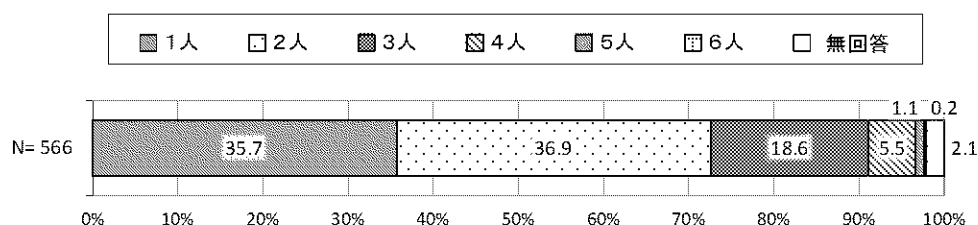
(2) 子どもの人数

〈問3〉

子どもの人数は「2人」と答えた人が最も多く、36.9%を占めています。続いて「1人」と答えた人も多くみられ35.7%あり、1～2人で72.6%となっています。

末子の生まれた年では、「平成22年（3歳）」が8.7%と最も多く、次いで「平成23年（2歳）」や「平成25年（0歳）」でそれぞれ8.5%となっています。

■ 子どもの人数



■ 末子の生まれた年

N= 566

	実数(人)	構成比 (%)
16年（9歳）	1	0.2
17年（8歳）	2	0.4
18年（7歳）	3	0.5
19年（6歳）	30	5.3
20年（5歳）	42	7.4
21年（4歳）	29	5.1
22年（3歳）	49	8.7
23年（2歳）	48	8.5
24年（1歳）	36	6.4
25年（0歳）	48	8.5
無回答	278	49.1
合計	566	100.0

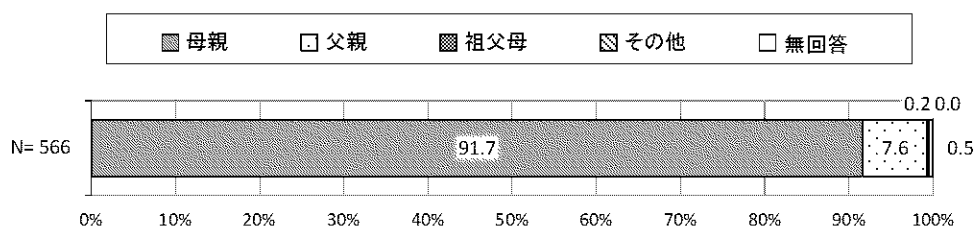
（平成26年1月現在）

(3) 調査票の回答者

〈問4〉

調査票の回答者は、「母親」が91.7%と大多数を占めており、続いて「父親」（7.6%）と続きます。回答したのは、大多数が母親ということが分かります。

■ 調査票の回答者

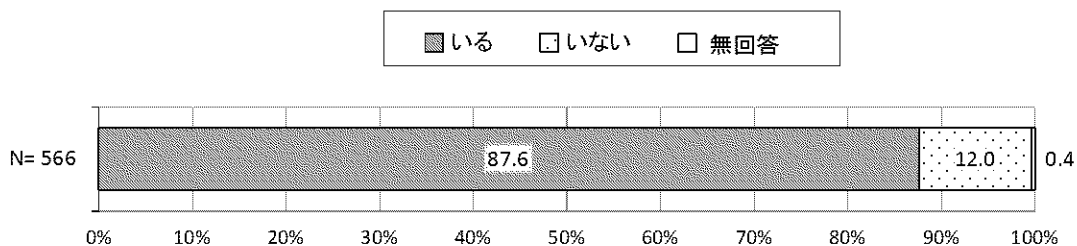


(4) 調査票の回答者の配偶関係

〈問5〉

配偶者がいると回答した人は、87.6%と半数以上を占めており、12.0%の人がいないと回答しています。

■ 回答者の配偶関係

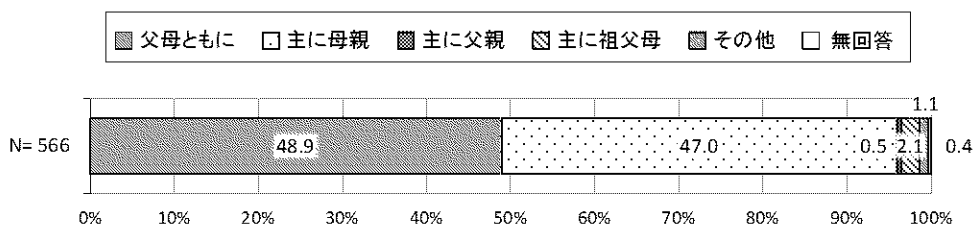


(5) 子どもの子育てを主にしている人

〈問6〉

子どもの子育てを主にしている人としては、「父母ともに」が最も多く、48.9%となり、次いで「主に母親」が47.0%となり、「父母ともに」と「主に母親」で95.9%を占めます。

■ 子どもの子育てを主にしている人



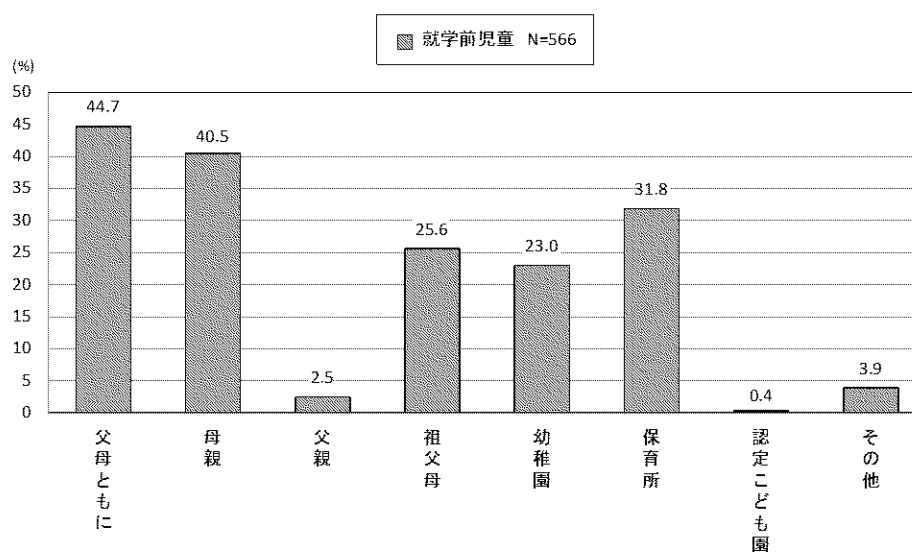
3. 子どもの育ちをめぐる環境

(1) 子育てに日常的に関わっている人・機関（複数回答）

〈問7〉

子育てに日常的に関わっている人や機関としては、「父母ともに」と答えた人が44.7%と最も多く、次いで「母親」(40.5%)、「保育所」(31.8%)、「祖父母」(25.6%)と続きます。「父親」という回答に関しては、2.5%と非常に低い結果となっています。教育・保育機関としては、保育園に次いで「幼稚園」(23.0%)となり、「認定こども園」は0.4%という回答もみられます。

■ 子育てに日常的に関わっている人・機関

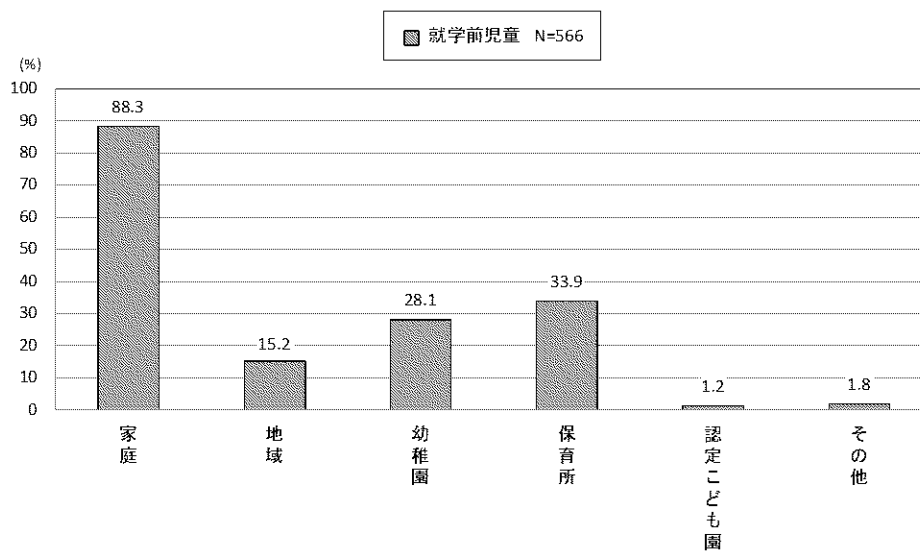


(2) 子どもの子育てに最も影響すると思われる環境（複数回答）

〈問8〉

子育てに影響する環境としては、「家庭」が最も多く、88.3%と80%を越えており、次いで「保育所」(33.9%)、「幼稚園」(28.1%)、「地域」(15.2%)と続きます。

「家庭」同様に、普段子どもが通う「保育所」や「幼稚園」も子育てに影響すると捉えていることがうかがえます。「認定こども園」もわずかですが、1.2%の回答があります。

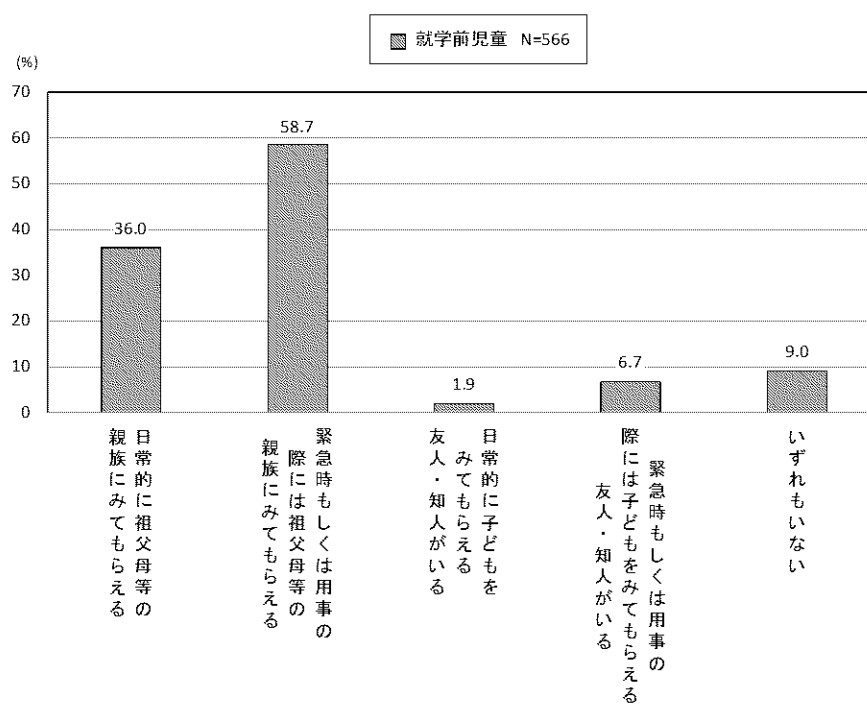
■ 子育てに最も影響する環境

(3) 子どもをみてもらえる親族・知人（複数回答）

〈問9〉

子どもをみてもらえる親族・知人については、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」と答えた人が58.7%で最も多く、次いで「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」(36.0%)、「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」(6.7%)と続きます。「いずれもない」の回答も見られますが、緊急時には、祖父母等の親族にみてもらえる人が半数いることがうかがえます。また、36.0%の人が日常的に祖父母等の親族にみてもらえると回答していることから、身近な環境に祖父母等がいることが推察されます。

■ 子どもをみてもらえる親族・知人



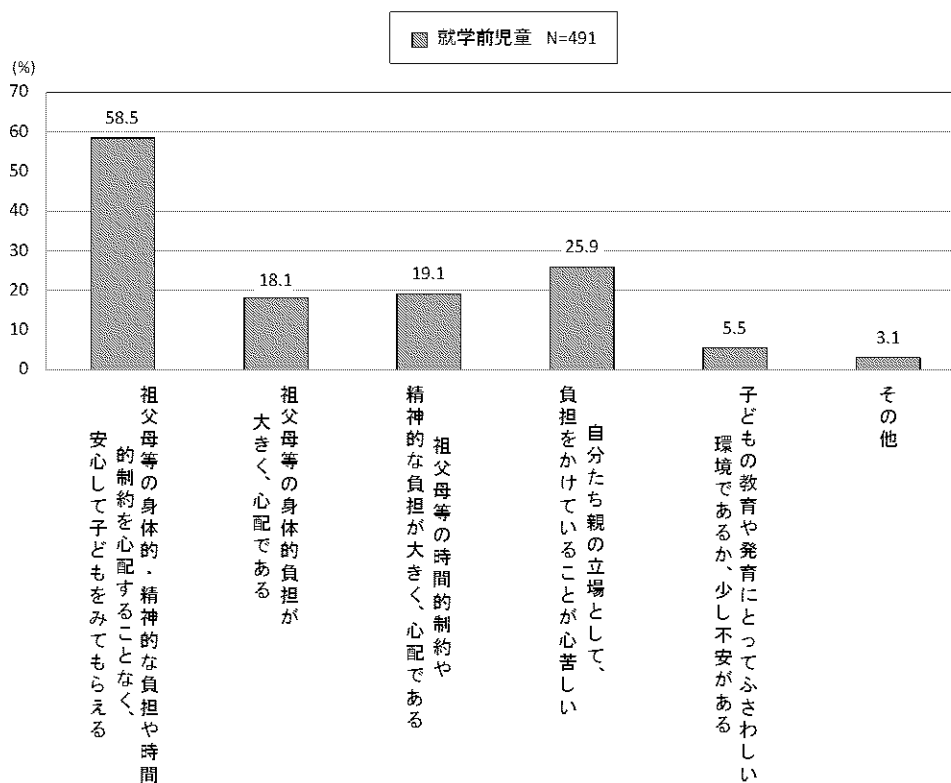
(4) 祖父母等の親戚に子どもをみてもらっている状況（複数回答）

〈問 9-1〉

祖父母等の親戚に子どもをみてもらっている状況について、「祖父母等の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」と回答した人が58.5%と最も多くなっています。

また、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」(25.9%)、「祖父母等の時間的制約や精神的な負担が大きく、心配である」(19.1%)という人も比較的多くみられ、「時間的制約や精神的な負担」の割合が高くなっていることがうかがえます。

■ 親戚に子どもをみてもらっている状況

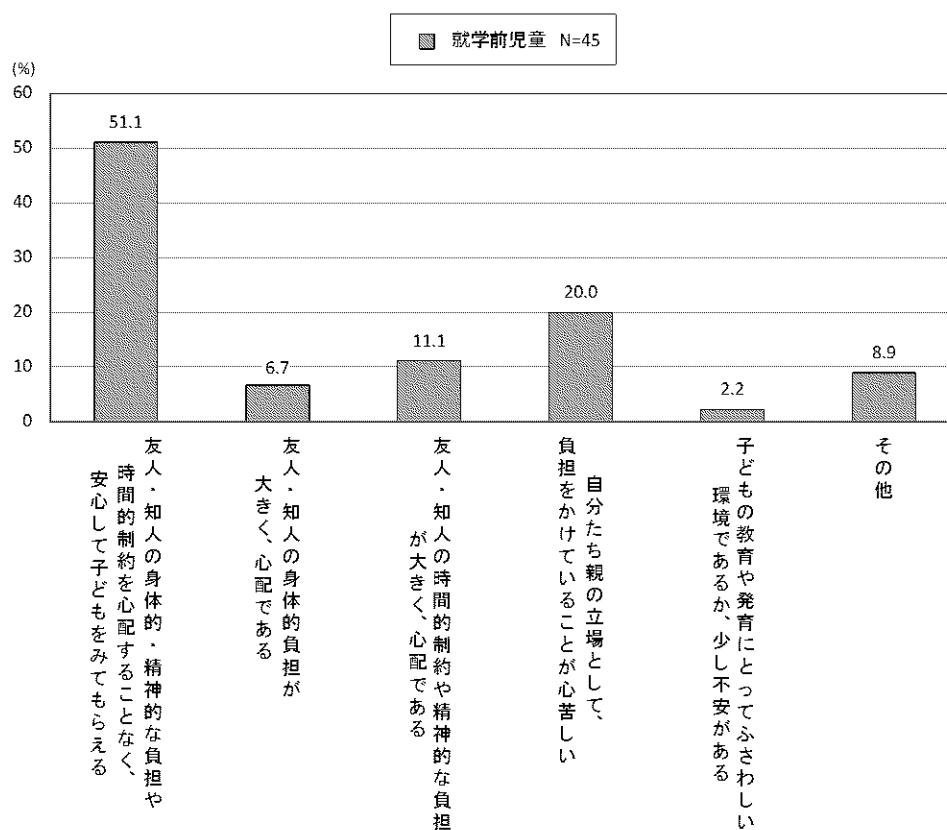


(5) 友人・知人に子どもをみてもらっている状況（複数回答）

〈問9-2〉

友人・知人に子どもをみてもらっている状況について、祖父母等に預ける場合と同様に「友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」と回答した人が51.1%と最も多くなっており、次いで「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」（20.0%）、「友人・知人の時間的制約や精神的な負担が大きく、心配である」（11.1%）となっています。「子どもの教育や発育にとってふさわしい環境であるか、少し不安である」という回答も2.2%みられます。

■ 友人・知人に子どもをみてもらっている状況

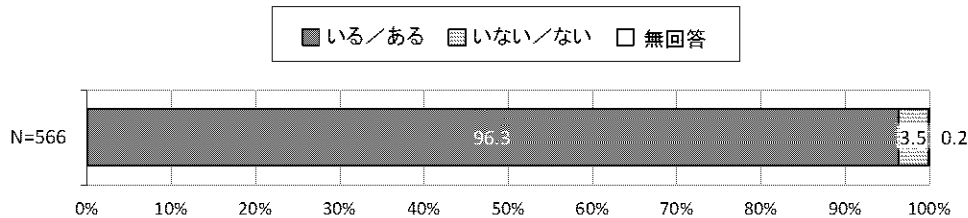


(6) 子育ての相談ができる人や場所の有無

〈問 10〉

子育てに関する相談ができる人や場所の有無について、気軽な相談先があると回答した人が、96.3%と最も多くなっており、相談先がないという回答は3.5%みられます。

■ 子育ての相談ができる人や場所の有無

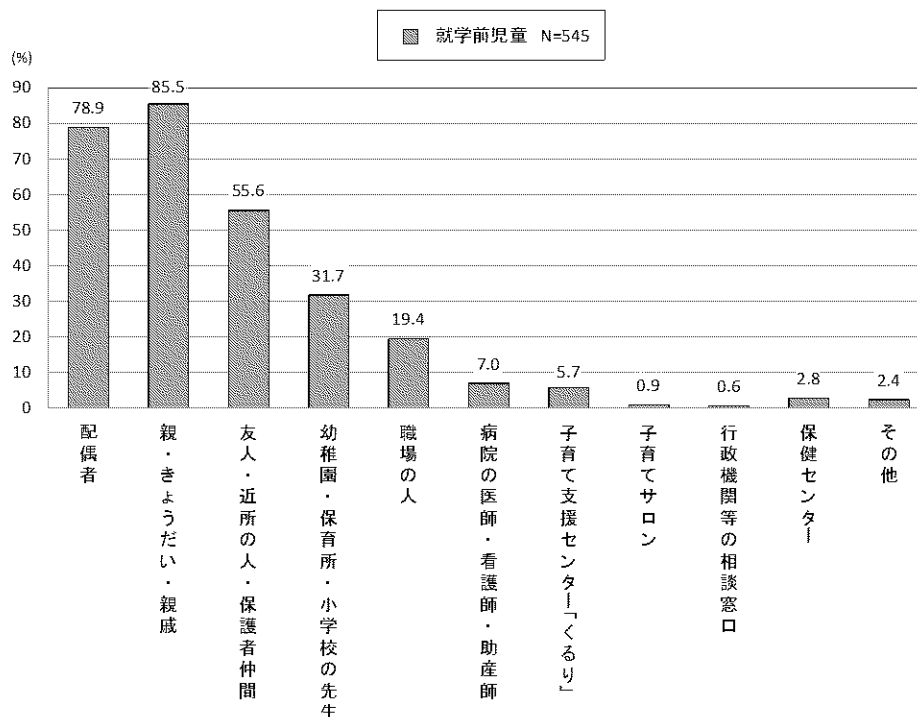


(7) 子育ての相談ができる人・機関等（複数回答）

〈問 10-1〉

子育ての相談ができる人・機関等について、「親・きょうだい・親戚」(85.5%)、「配偶者」(78.9%)、「友人・近所の人・保護者仲間」(55.6%)と、身近な人を主な相談相手としてあげていることがうかがえます。また、保育所・幼稚園に相談している保護者もみられます。子育て支援センターなどの子育て支援機関や行政機関等の相談窓口という回答は低いことから、相談しやすい環境づくりが必要と考えられます。

■ 子育ての相談ができる人・機関等



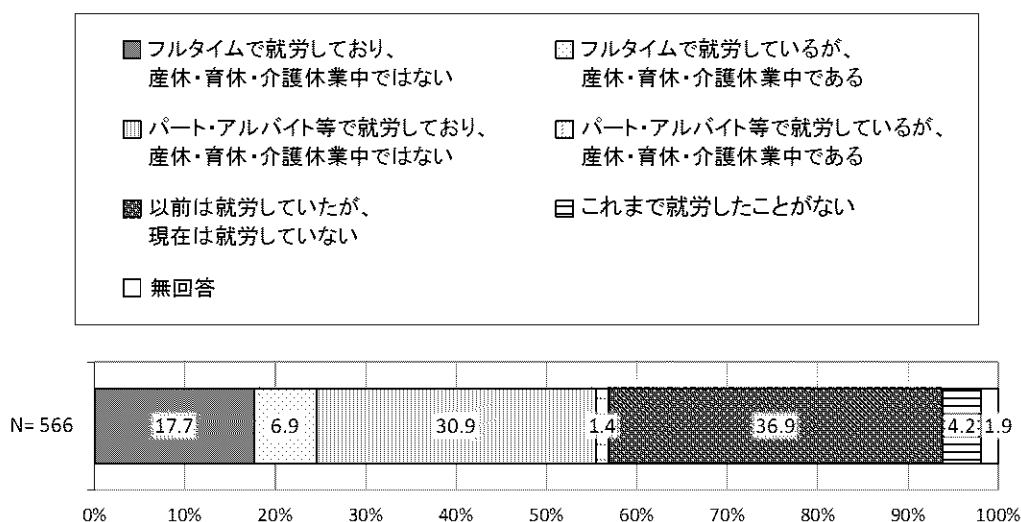
4. 保護者の就労状況

(1) 保護者の就労状況

〈問12〉

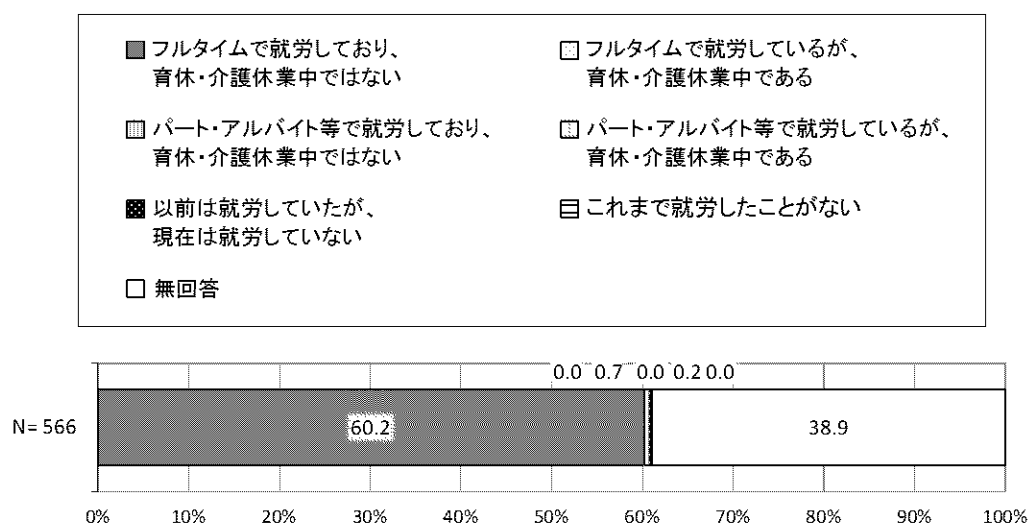
母親の就労状況としては、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が36.9%で最も高く、次いで「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」(30.9%)、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」(17.7%)と続き、「パート・アルバイト」と「フルタイム」での就労を合わせると48.6%となり、約半数の人が就労していることがうかがえます。

■ 就労状況（母親）



父親の就労状況としては、「フルタイムで就労しており、育休・介護休業中ではない」が最も多く、60.2%となります。

■ 就労状況（父親）

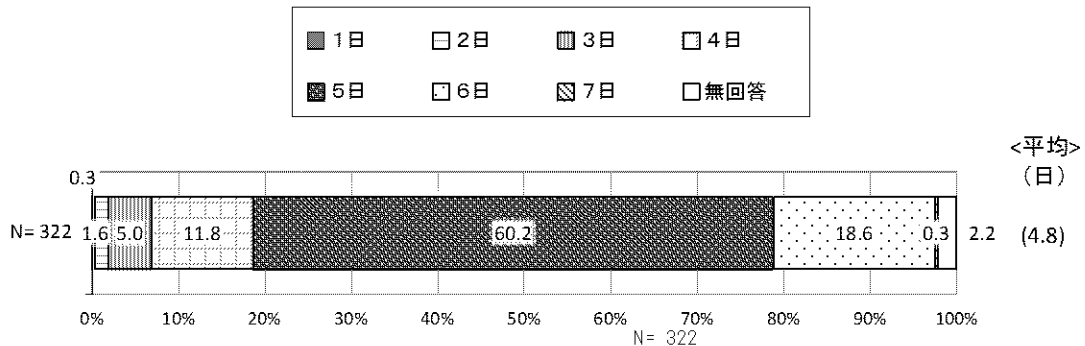


(2) 就労している保護者の1週あたりの「就労日数」、1日あたりの「就労時間」

〈問 12-1〉

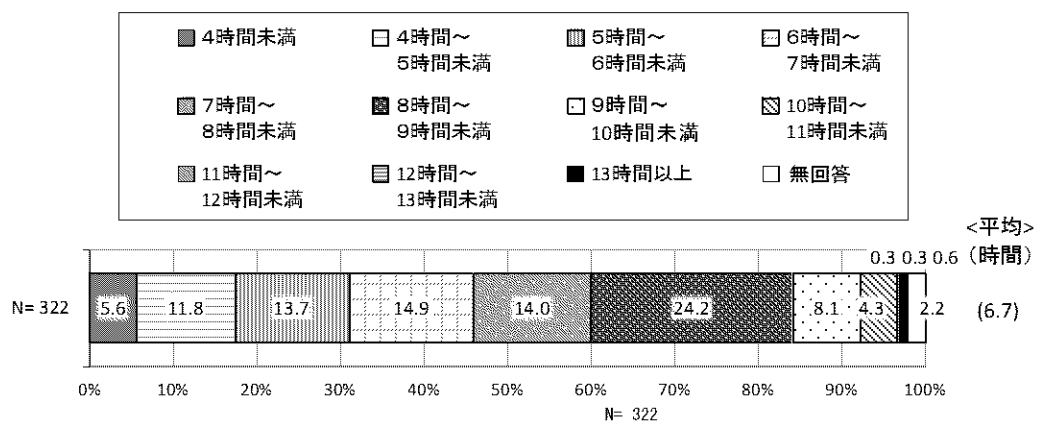
就労している母親の1週あたりの就労日数として最も多かったのは「5日間」(60.2%)、次いで「6日間」(18.6%)であり、平均で4.8日間となります。また、1日あたりの就労時間として最も多かったのは「8時間～9時間未満」(24.2%)であり、平均で6時間40分となります。

■ 1週あたりの「就労日数」(母親)



	実数(人)	構成比(%)
1日	1	0.3
2日	5	1.6
3日	16	5.0
4日	38	11.8
5日	194	60.2
6日	60	18.6
7日	1	0.3
無回答	7	2.2
合計	322	100.0
平均(日)	4.8	-

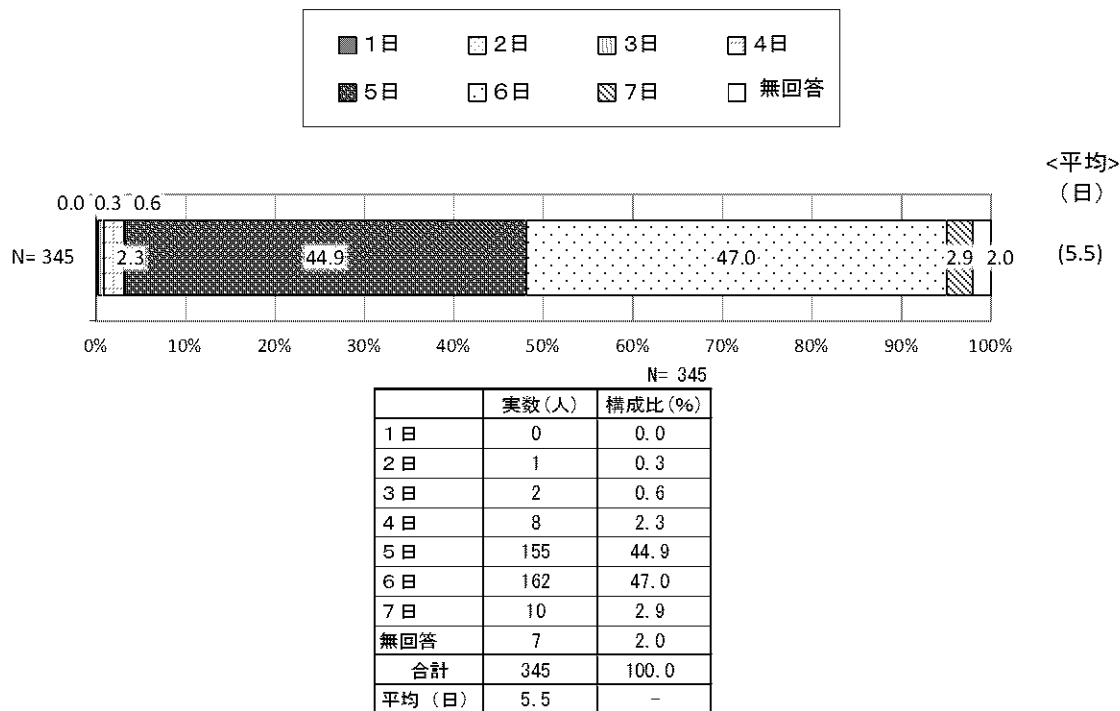
■ 1日あたりの「就労時間」(母親)



	実数(人)	構成比(%)
4時間未満	18	5.6
4時間～5時間未満	38	11.8
5時間～6時間未満	44	13.7
6時間～7時間未満	48	14.9
7時間～8時間未満	45	14.0
8時間～9時間未満	78	24.2
9時間～10時間未満	26	8.1
10時間～11時間未満	14	4.3
11時間～12時間未満	1	0.3
12時間～13時間未満	1	0.3
13時間以上	2	0.6
無回答	7	2.2
合計	322	100.0
平均(時間)	6.7	-

就労している父親の1週あたりの就労日数として最も多かったのは「6日間」(47.0%)、次いで「5日間」(44.9%)であり、平均で5.5日間となります。また、1日あたりの就労時間として最も多かったのは「8時間～9時間未満」(25.8%)であり、平均で10.0時間となります。13時間以上は10.1%みられます。

■ 1週あたりの「就労日数」(父親)



■ 1日あたりの「就労時間」(父親)



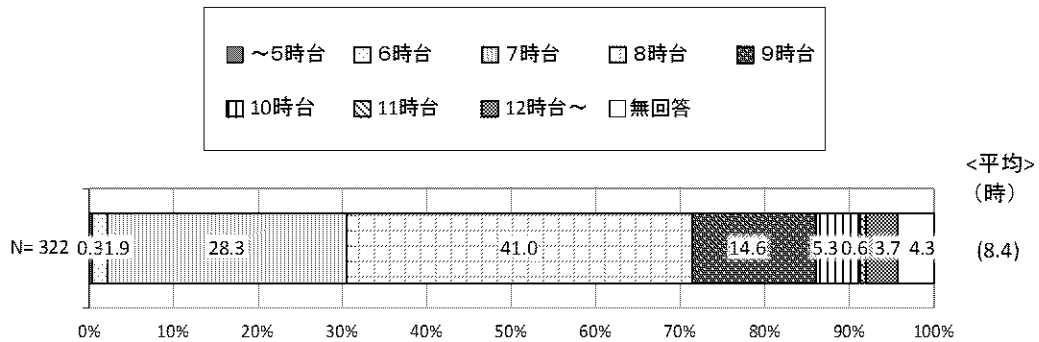
(3) 就労している保護者の家を出る時間と帰宅時間

〈問 12-2〉

母親の家を出る時間は「8時台」が41.0%と最も多く、次いで「7時台」(28.3%)、「9時台」(14.6%)となり、平均で8時20分頃となります。

帰宅時間は「～16時台」が39.8%と最も多く、続いて「18時台」(25.5%)、「17時台」(18.0%)となり、平均で16時40分頃となります。中には23時台以降という回答も0.3%みられます。

■ 家を出る時間（母親）

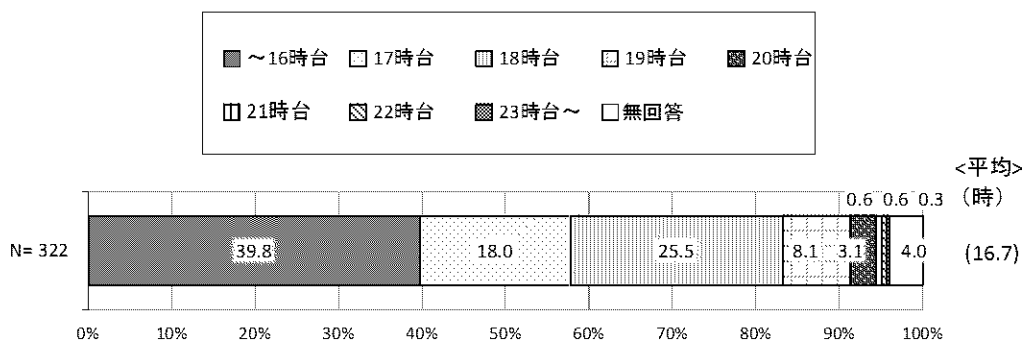


<平均>
(時)
(8.4)

N= 322

	実数(人)	構成比(%)
～5時台	1	0.3
6時台	6	1.9
7時台	91	28.3
8時台	132	41.0
9時台	47	14.6
10時台	17	5.3
11時台	2	0.6
12時台～	12	3.7
無回答	14	4.3
合計	322	100.0
平均(時)	8.4	-

■ 帰宅時間（母親）



<平均>
(時)
(16.7)

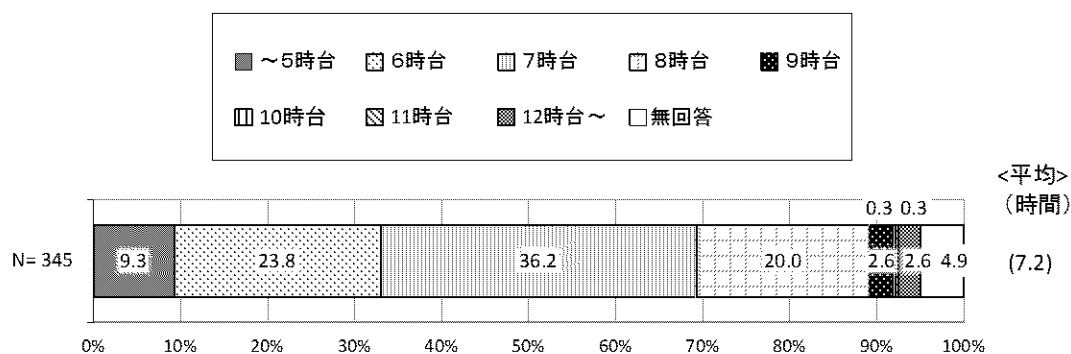
N= 322

	実数(人)	構成比(%)
～16時台	128	39.8
17時台	58	18.0
18時台	82	25.5
19時台	26	8.1
20時台	10	3.1
21時台	2	0.6
22時台	2	0.6
23時台～	1	0.3
無回答	13	4.0
合計	322	100.0
平均(時)	16.7	-

父親の家を出る時間は「7時台」が36.2%と最も多く、続いて「6時台」(23.8%)、「8時台」(20.0%)となり、平均で7時頃となります。

帰宅時間は「19時台」が22.3%で最も多く、続いて「18時台」(20.6%)、「20時台」(15.7%)、「21時台」(11.9%)となり、18～21時台で70.5%を占め、平均で19時頃となります。

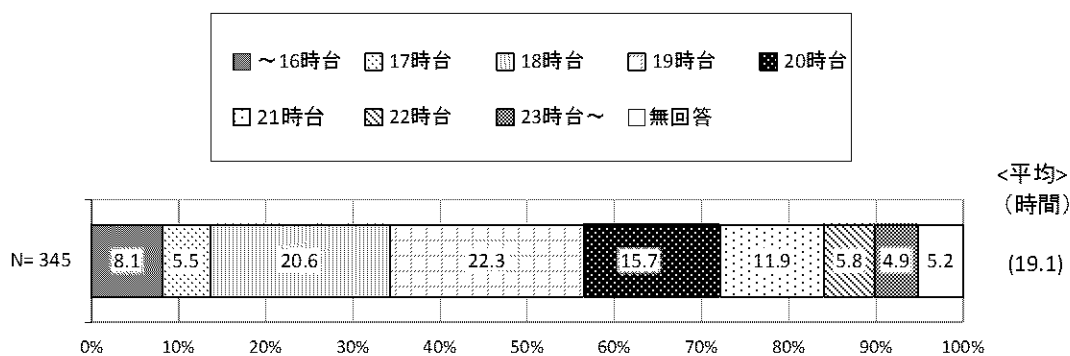
■ 家を出る時間（父親）



N = 345

	実数(人)	構成比(%)
~5時台	32	9.3
6時台	82	23.8
7時台	125	36.2
8時台	69	20.0
9時台	9	2.6
10時台	1	0.3
11時台	1	0.3
12時台~	9	2.6
無回答	17	4.9
合計	345	100.0
平均(時)	7.2	-

■ 帰宅時間（父親）



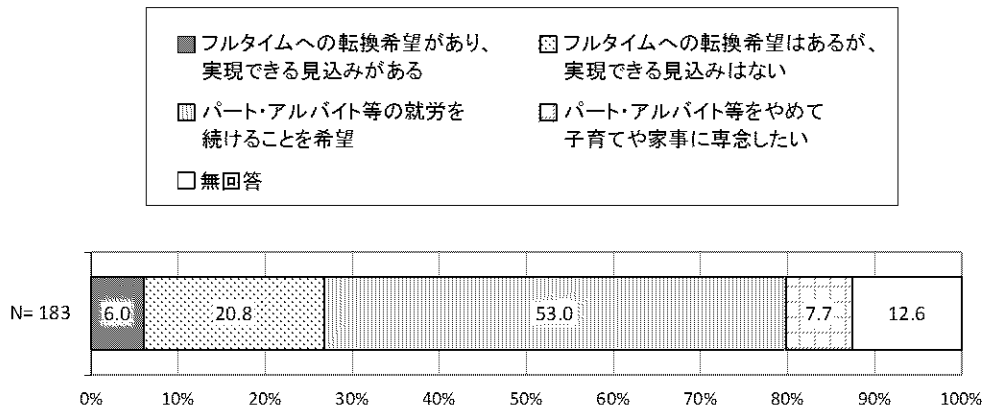
N = 345

	実数(人)	構成比(%)
~16時台	28	8.1
17時台	19	5.5
18時台	71	20.6
19時台	77	22.3
20時台	54	15.7
21時台	41	11.9
22時台	20	5.8
23時台~	17	4.9
無回答	18	5.2
合計	345	100.0
平均(時)	19.1	-

(4) 就労している保護者のフルタイムへの転換希望（パートタイム、アルバイト等）

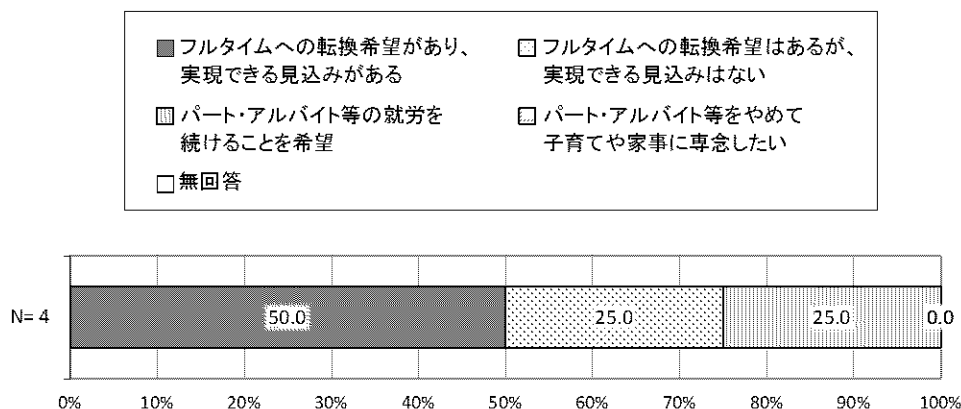
〈問13〉

パートタイム・アルバイト等として就労している母親について、「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」(6.0%)、「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」(20.8%)を合わせた26.8%がフルタイムへの転換希望があると回答しています。最も多い回答としては、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」(53.0%)と半数の人が回答しています。

■ フルタイムへの転換希望（母親）

パートタイムやアルバイト等として就労している父親は少ないのですが、小学生児童の父親4人の回答を得ています。

フルタイムへの転換希望としては、「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」(50.0%)が多く、「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」という回答とあわせて75.0%となり、フルタイムへの転換希望者が多いことがうかがえます。

■ フルタイムへの転換希望（父親）

(5) 就労していない、またはこれまで就労したことがない保護者の就労希望

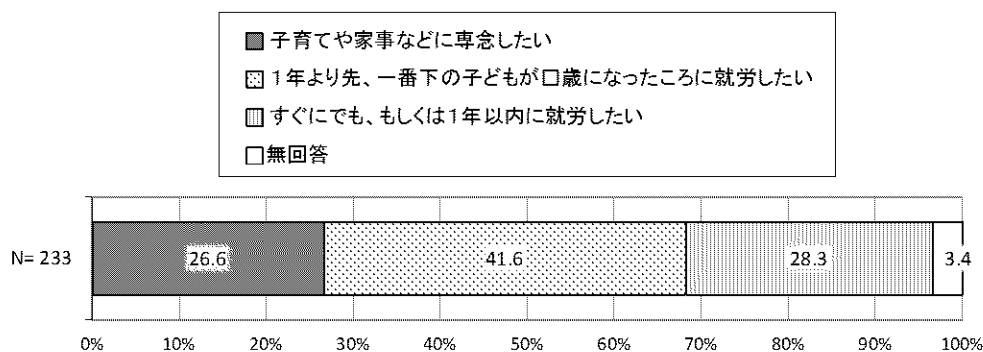
〈問 14〉

現在就労していない母親について、「1年より先、一番下の子どもが〇歳になったところに就労したい」あるいは「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」と回答した母親が全体の69.9%を占めており、就労を希望していることがうかがえます。

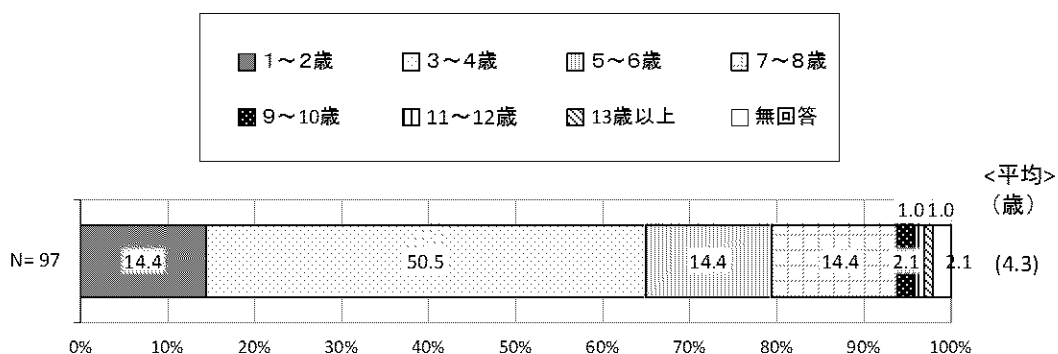
子どもが何歳を迎えたら就労を希望するかを調査した結果、「3～4歳」という回答が50.5%、続いて「1～2歳」、「5～6歳」、「7～8歳」がそれぞれ14.4%となり、平均は4.3歳となっています。

父親の回答は1人ですが、無回答となっています。

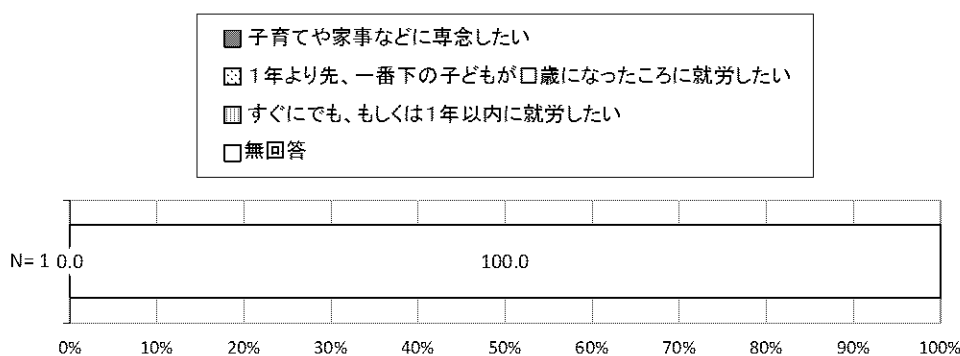
■ 就労希望（母親）



■ 子どもが何歳を迎えた時に就労を希望するか（母親）



■ 就労希望（父親）（無回答）



■ 子どもが何歳を迎えた時に就労を希望するか（父親）

（該当なし）

(6) 就労を希望する保護者の就労希望形態

〈問 14〉

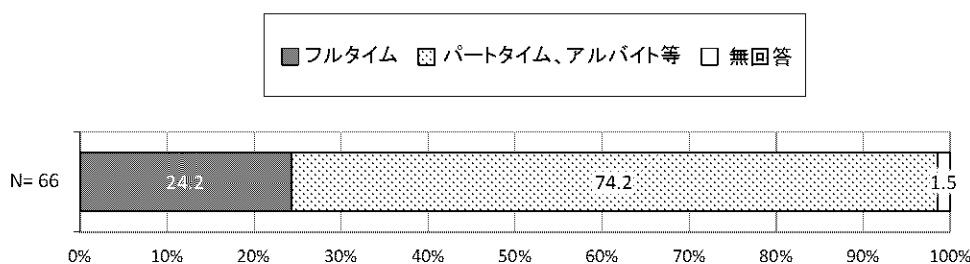
母親の希望する就労形態は、「パートタイム・アルバイト等」が多く 74.2%で、次いでフルタイム (24.2%) となります。

パートタイム・アルバイト等として希望する就労日数としては多い順に、「4日」(40.8%)、「5日」(32.7%)、「3日」(22.4%) となり、平均は 4.1日で、4日間就労を希望する人の割合が高い傾向がみられます。

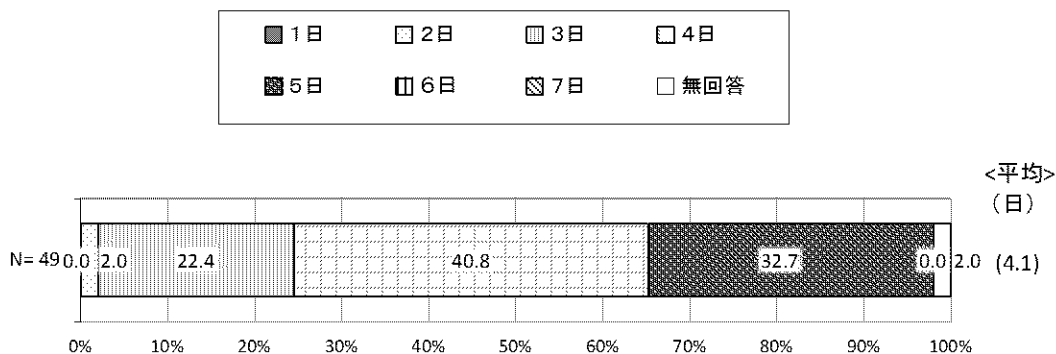
母親のパートタイム・アルバイト等として希望する就労時間としては多い順に、「5時間～6時間未満」(49.0%)、「4時間～5時間未満」(24.5%)、「6時間～7時間未満」(18.4%) となり、平均は 5.0時間で、7時間～8時間未満を希望する人も 6.1%みられます。

父親に関しては、該当なしとなっています。

■ 希望する就労形態 (母親)



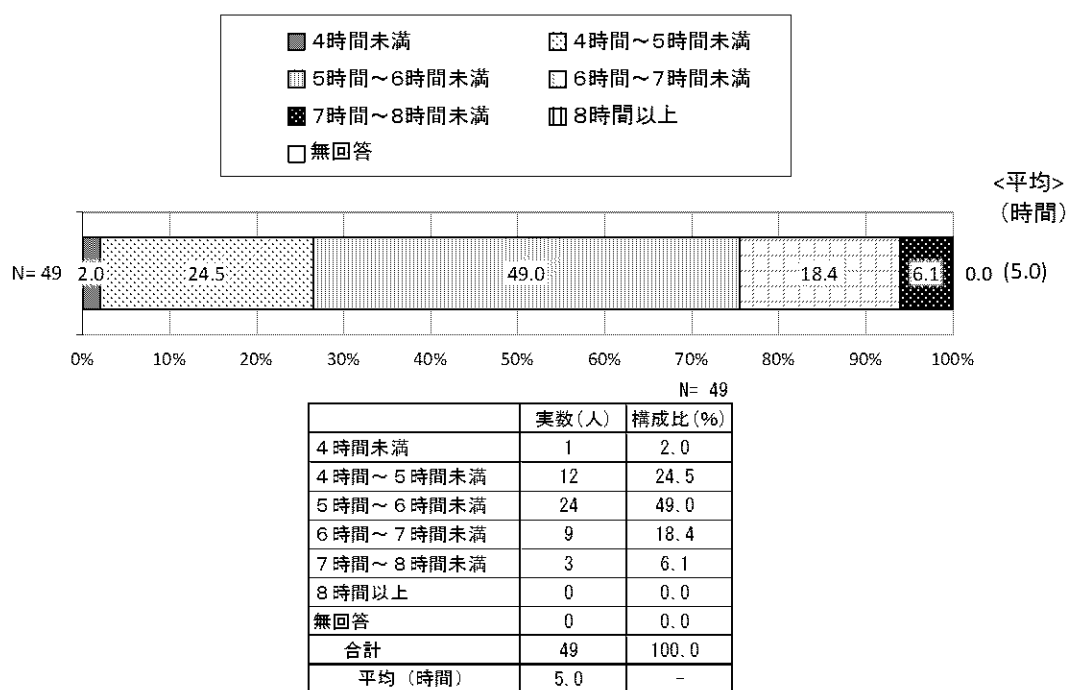
■ パートタイム・アルバイト等として希望する就労日数(母親)



N= 49

	実数(人)	構成比(%)
1日	0	0.0
2日	1	2.0
3日	11	22.4
4日	20	40.8
5日	16	32.7
6日	0	0.0
7日	0	0.0
無回答	1	2.0
合計	49	100.0
平均(日)	4.1	-

■ パートタイム・アルバイト等として希望する就労時間数（母親）



■ 希望する就労形態（父親）

■ パートタイム・アルバイト等として希望する就労日数(父親)

■ パートタイム・アルバイト等として希望する就労時間数（父親）

(該当なし)

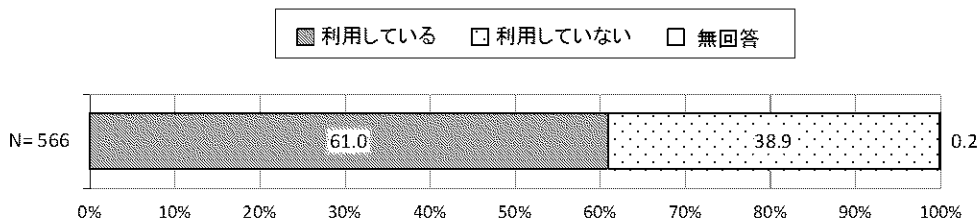
5. 平日の定期的な教育・保育事業の利用状況

(1) 子どもの定期的な教育・保育の事業の利用

〈問 15〉

定期的な教育・保育の事業を利用している人は、回答者の61.0%、利用していない人は38.9%という結果になっています。

■ 定期的な教育・保育の事業の利用

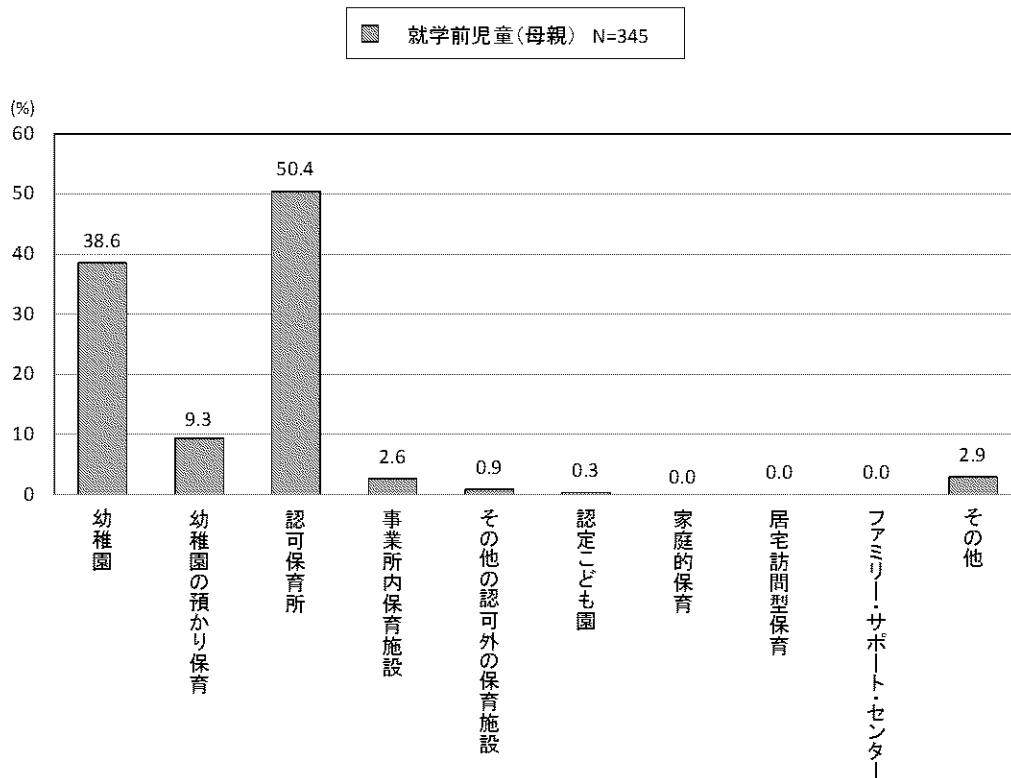


(2) 子どもが平日に利用している教育・保育の事業（複数回答）

〈問 15-1〉

平日に利用している教育・保育の事業として、「認可保育所」が50.4%で最も多くみられ、次いで「幼稚園」(38.6%)となっています。

■ 平日に利用する教育・保育の事業



(3) 子どもが平日に定期的に利用している教育・保育の事業の利用状況

〈問 15-2(1)〉

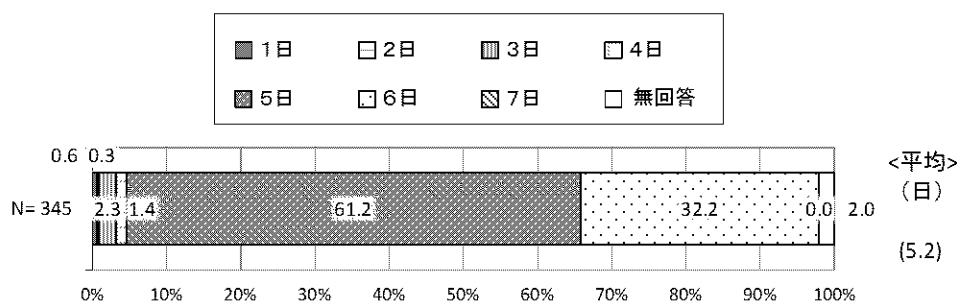
平日の定期的な教育・保育の事業の利用状況について、利用日数としては「5日」(61.2%)が最も多く、次いで「6日」(32.2%)となっています。

利用時間としては、「6～7時間未満」(21.4%)が最も多く、次いで「8～9時間未満」(20.0%)、「7～8時間未満」(19.7%)、「9時間～10時間未満」(15.4%)となっており、平均時間は7.5時間で、8時間以上の利用が44.4%となっています。

利用開始時間については、「8時台」(44.1%)が最も多く、次いで「9時台」(34.8%)となっており、平均が8時30分頃で、8～9時台で78.9%となります。

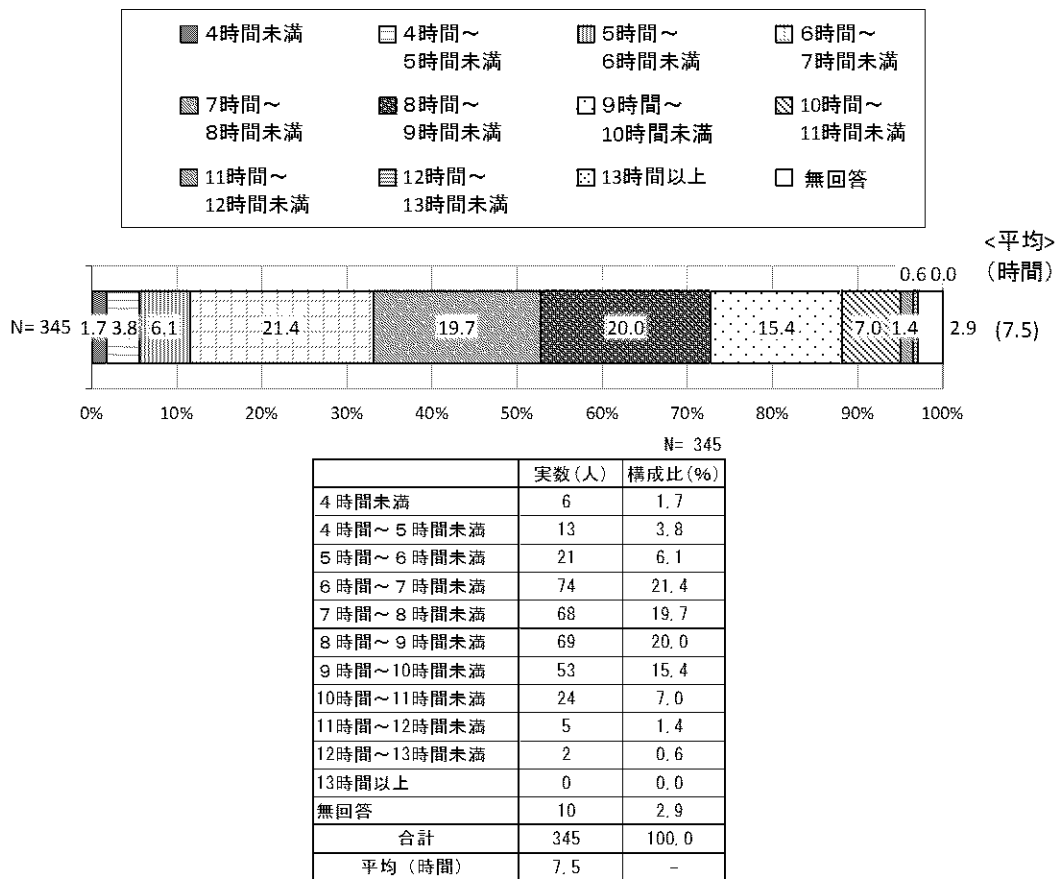
利用終了時間については、「17時台」(26.1%)が最も多く、次いで「16時台」(25.2%)となっており、平均が16時頃で、16～17時台で51.3%となります。

■ 平日に定期的に利用する教育・保育の事業の利用日数

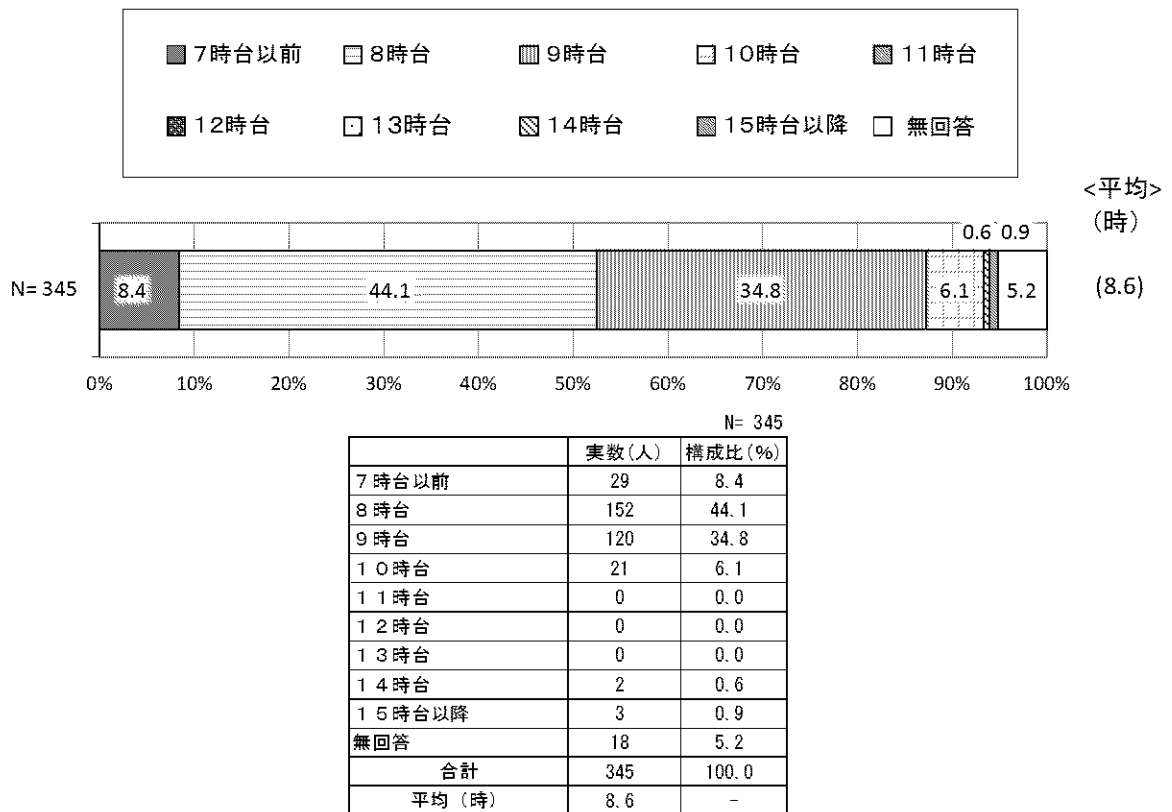


N= 345		
	実数(人)	構成比(%)
1日	2	0.6
2日	1	0.3
3日	8	2.3
4日	5	1.4
5日	211	61.2
6日	111	32.2
7日	0	0.0
無回答	7	2.0
合計	345	100.0
平均(日)	5.2	-

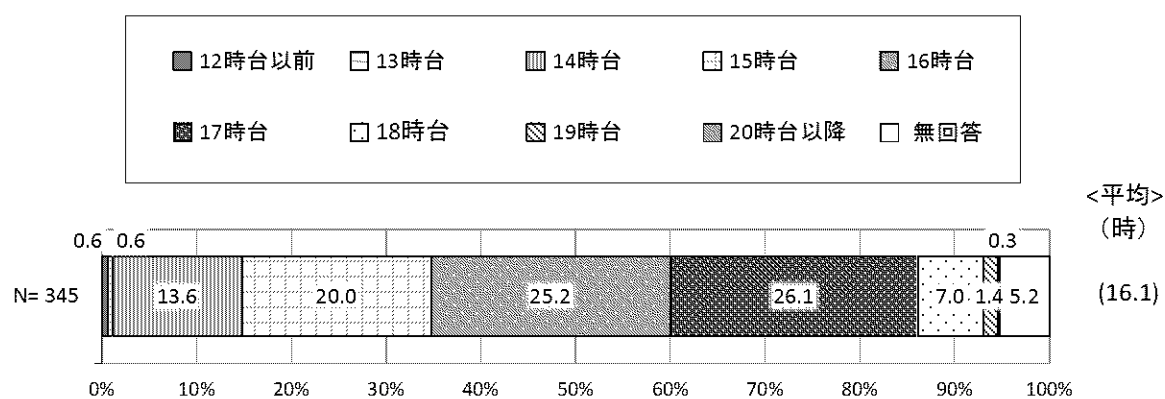
■ 平日に定期的に利用する教育・保育の事業の利用時間



■ 平日に定期的に利用する教育・保育の事業の利用開始時間



■ 平日に定期的に利用する教育・保育の事業の利用終了時間



N= 345

	実数(人)	構成比(%)
12時台以前	2	0.6
13時台	2	0.6
14時台	47	13.6
15時台	69	20.0
16時台	87	25.2
17時台	90	26.1
18時台	24	7.0
19時台	5	1.4
20時台以降	1	0.3
無回答	18	5.2
合計	345	100.0
平均(時)	16.1	-

(4) 子どもが平日に定期的に利用する教育・保育の事業の利用状況の意向

〈問 15-2(2)〉

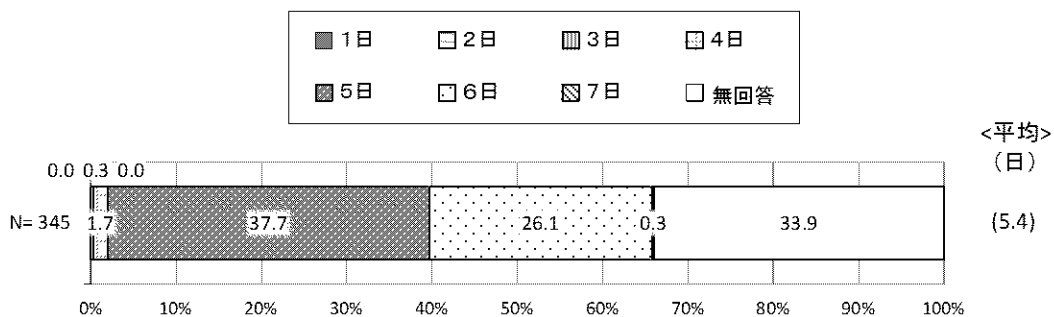
平日の定期的な教育・保育の事業の利用については、利用日数としては「5日」(37.7%)が最も多く、次いで「6日」(26.1%)となっています。

利用時間としては、「8時間～9時間未満」(16.2%)が最も多く、次いで「7時間～8時間未満」(13.9%)、「9時間～10時間未満」(10.4%)、「6時間～7時間未満」(10.1%)となっており、平均時間は8.0時間で、8時間以上の利用は37.8%となります。

利用開始時間については、「8時台」(31.6%)が最も多く、次いで「9時台」(20.9%)となっており、平均が8時30分頃で、8～9時台で52.5%となります。

利用終了時間については、「17時台」(17.4%)が最も多く、次いで「16時台」(17.1%)となっており、平均が16時30分頃で、16～17時台で34.5%となります。

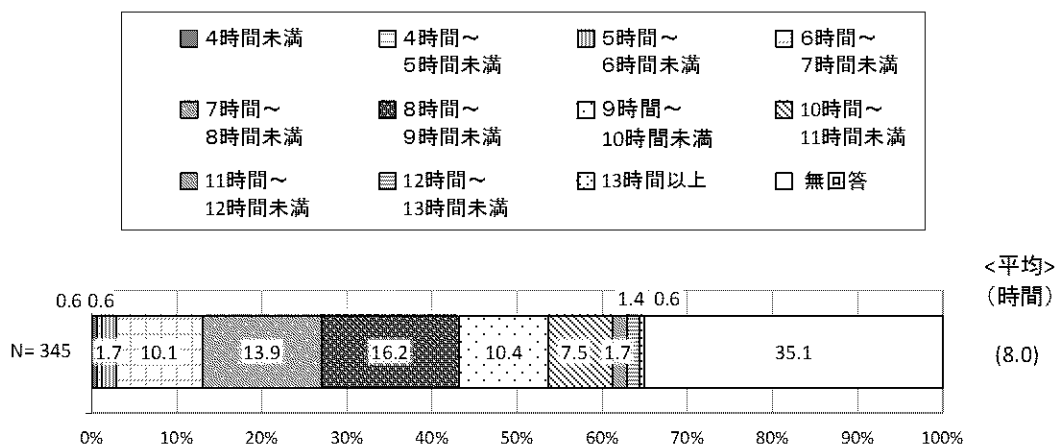
■ 平日に定期的に利用する教育・保育の事業の利用日数の意向



N= 345

	実数(人)	構成比(%)
1日	0	0.0
2日	1	0.3
3日	0	0.0
4日	6	1.7
5日	130	37.7
6日	90	26.1
7日	1	0.3
無回答	117	33.9
合計	345	100.0
平均(日)	5.4	-

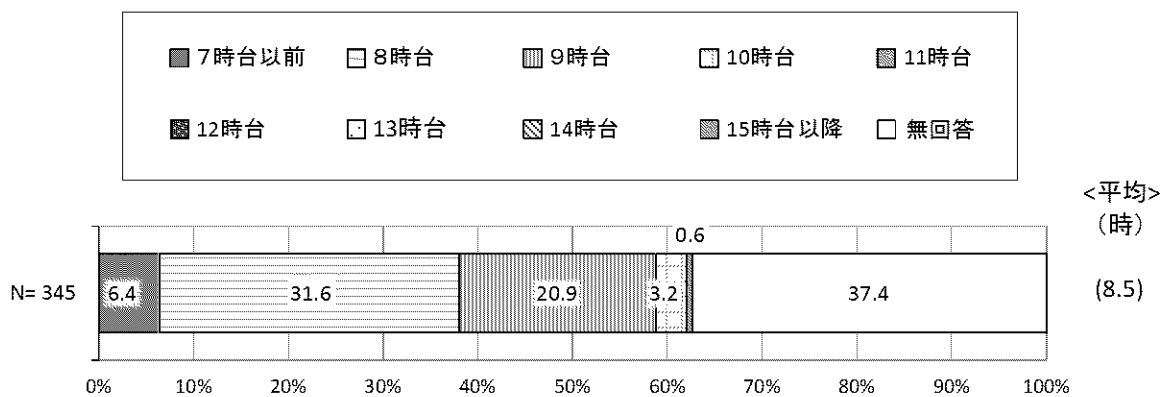
■ 平日に定期的に利用する教育・保育の事業の利用時間の意向



N= 345

	実数(人)	構成比(%)
4時間未満	2	0.6
4時間～5時間未満	2	0.6
5時間～6時間未満	6	1.7
6時間～7時間未満	35	10.1
7時間～8時間未満	48	13.9
8時間～9時間未満	56	16.2
9時間～10時間未満	36	10.4
10時間～11時間未満	26	7.5
11時間～12時間未満	6	1.7
12時間～13時間未満	5	1.4
13時間以上	2	0.6
無回答	121	35.1
合計	345	100.0
平均 (時間)	8.0	-

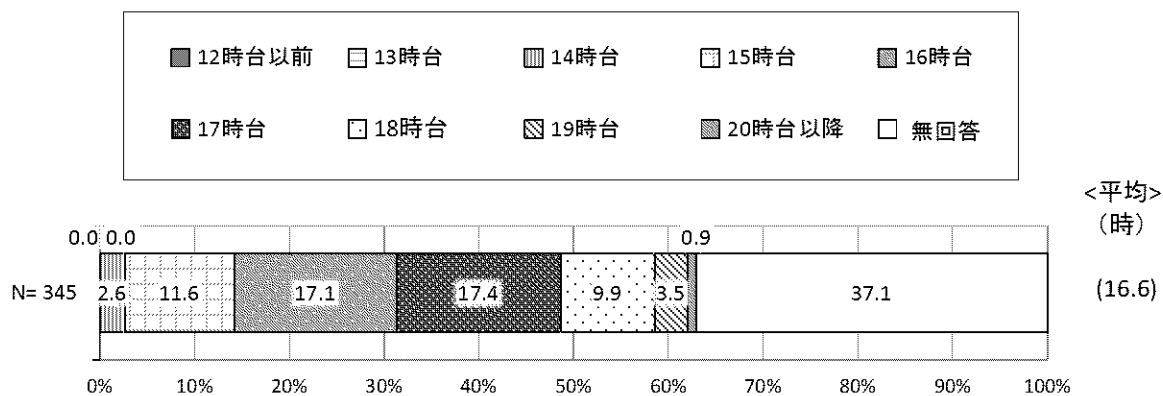
■ 平日に定期的に利用する教育・保育の事業の利用開始時間の意向



N= 345

	実数(人)	構成比(%)
7時台以前	22	6.4
8時台	109	31.6
9時台	72	20.9
10時台	11	3.2
11時台	0	0.0
12時台	0	0.0
13時台	0	0.0
14時台	0	0.0
15時台以降	2	0.6
無回答	129	37.4
合計	345	100.0
平均 (時)	8.5	-

■ 平日に定期的に利用する教育・保育の事業の利用終了時間の意向



N = 345

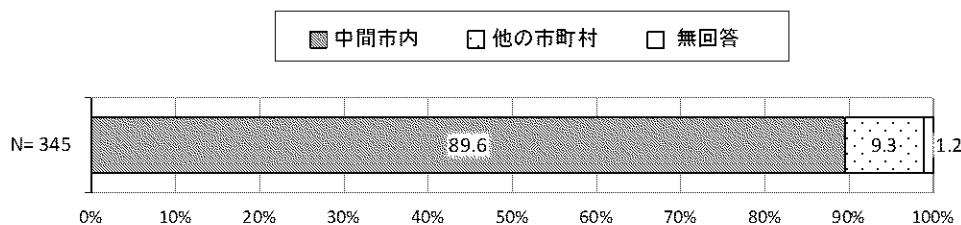
	実数(人)	構成比(%)
12時台以前	0	0.0
13時台	0	0.0
14時台	9	2.6
15時台	40	11.6
16時台	59	17.1
17時台	60	17.4
18時台	34	9.9
19時台	12	3.5
20時台以降	3	0.9
無回答	128	37.1
合計	345	100.0
平均 (時)	16.6	-

(5) 現在、利用している教育・保育事業の場所

<問 15-3>

現在、教育・保育事業を利用している場所としては、「中間市内」が 89.6%、「他の市町村」が 9.3%となっています。

■ 利用している教育・保育事業の場所

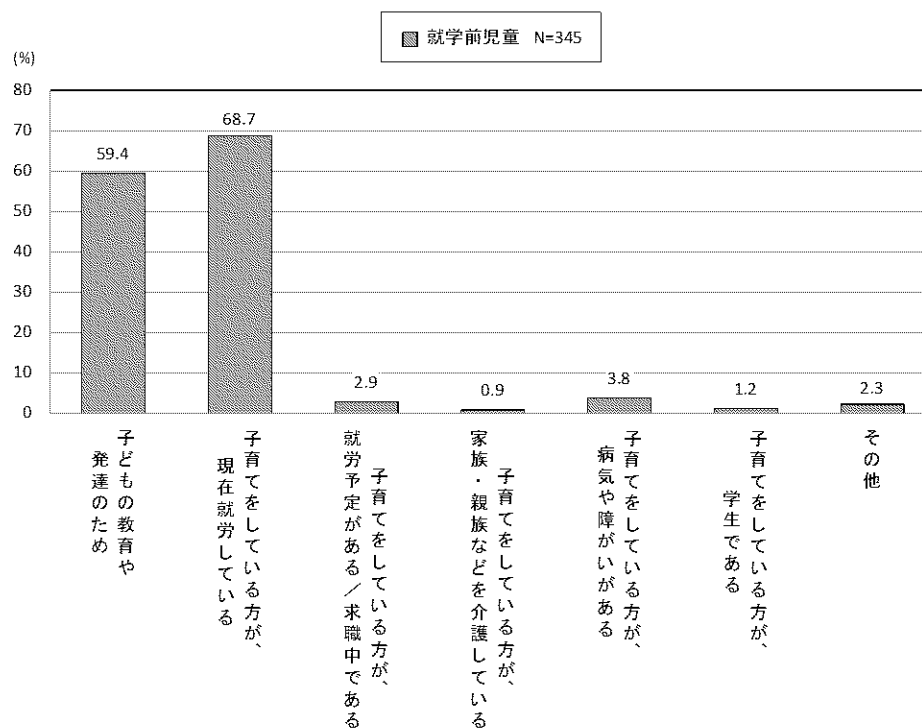


(6) 平日に定期的に教育・保育の事業を利用している理由（複数回答）

〈問 15-4〉

平日に定期的に教育・保育の事業を利用する理由としては、「子育てをしている方が、現在就労している」が 68.7%と最も多く、次いで「子どもの教育や発達のため」(59.4%) となり、就労だけではなく、教育や発達のために事業を利用している人が半数いることが分かります。

■ 教育・保育の事業を利用する理由



(7) 子どもが定期的な教育・保育の事業を利用していない理由（複数回答）

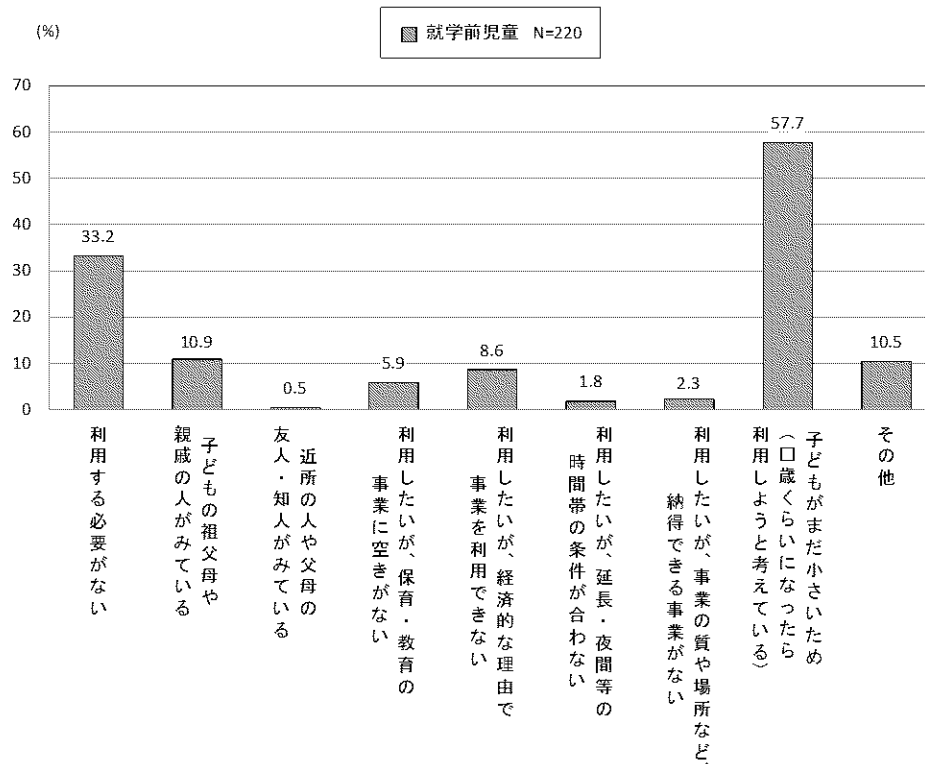
〈問 15-5〉

定期的な教育・保育の事業を利用していない理由としては、「子どもがまだ小さいため」（57.7%）と回答した人が最も多く、次いで「(子どもの教育や発達のため、子どもの母親か父親が就労していないなどの理由で) 利用する必要がない」（33.2%）、「子どもの祖父母や親戚の人がみている」（10.9%）と続きます。利用意向はあるものの、事業に空きがないことや経済的な理由で利用していない人もいることがうかがえます。

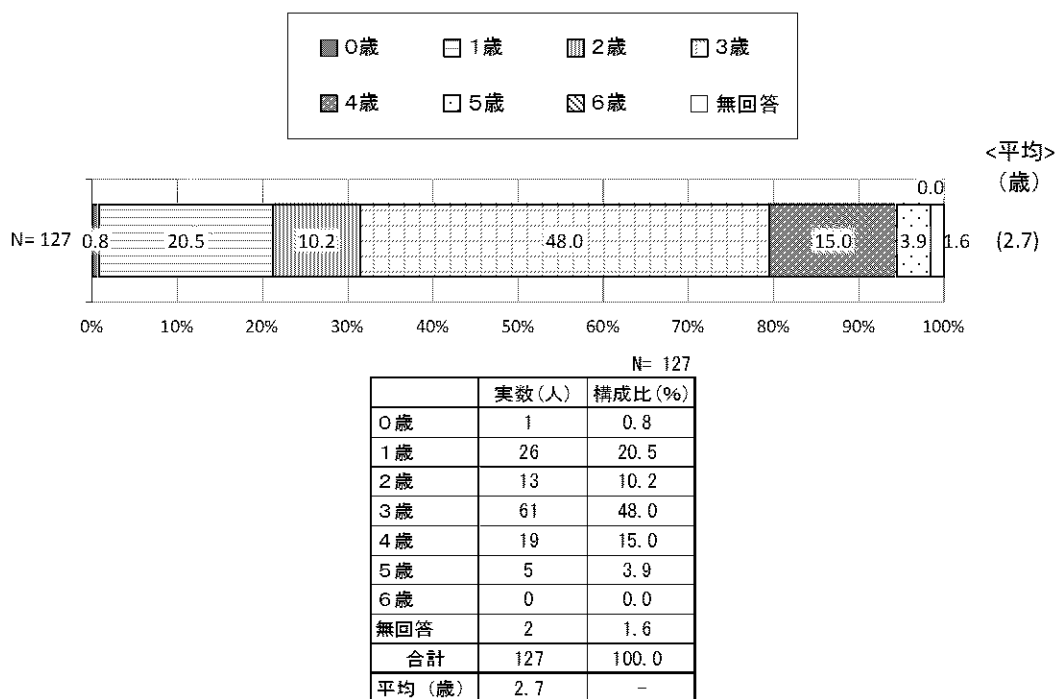
また、その他として「利用したいが反対されるため」、「色んな病気をもらってくるから」、「何が利用できるのかまだわからない」、「中間市では通わせたくない」、「仕事が見つからないと預けられない」、「育休中だから」といった回答があります。

子どもが何歳になったら定期的な教育・保育事業を利用したいかを調査した結果、「3歳」が48.0%と最も多く、次いで「1歳」（20.5%）、「4歳」（15.0%）となり、平均2.7歳と考えていることがうかがえます。

■ 教育・保育の事業を利用していない理由



■ 子どもが何歳になれば教育・保育の事業を利用したいか

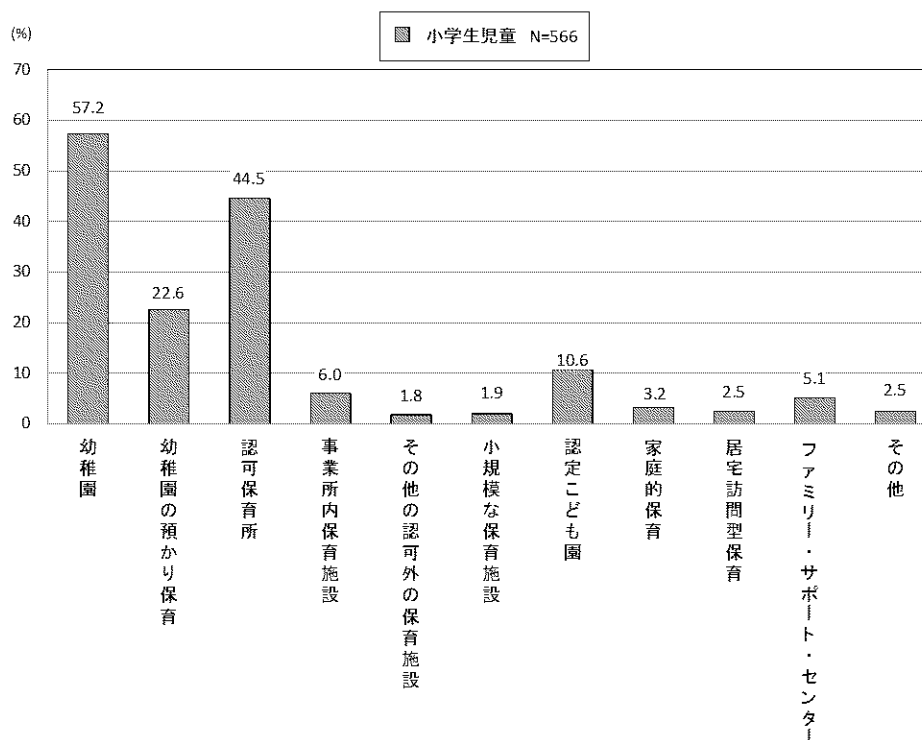


(8) 子どもの平日の教育・保育の事業として定期的にご利用したい事業（複数回答）

〈問16〉

平日の教育・保育の事業として定期的にご利用したい事業については、「幼稚園」(57.2%)が最も多く、次いで「認可保育所」(44.5%)、「幼稚園の預かり保育」(22.6%)、「認定こども園」(10.6%)と続きます。実際の利用よりも、幼稚園、幼稚園の預かり保育、認定こども園などの利用意向は高くなっています。

■ 平日に定期的にご利用したい教育・保育の事業

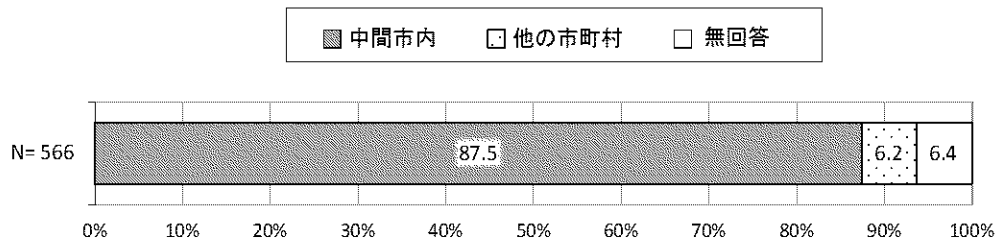


(9) 教育・保育事業を利用したい場所

〈問 16-1〉

教育・保育事業を利用する場所の意向としては、「中間市内」が 87.5%、「他の市町村」が 6.2%となっています。

■ 教育・保育事業を利用したい場所



6. 中間市の子育て支援事業

(1) 子どもの現在の中間市子育て支援センター「くるり」の利用状況

〈問17〉

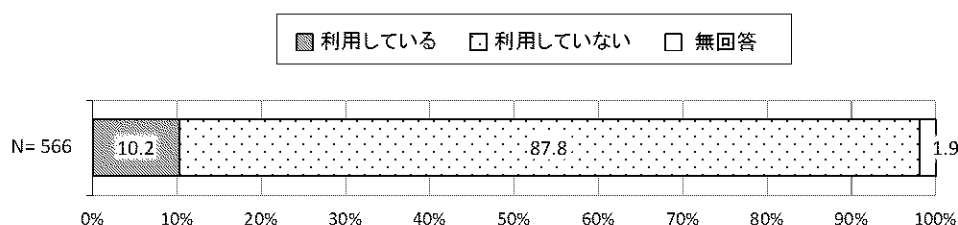
子育て支援センター「くるり」を利用していると回答した人は10.2%、「利用していない」と回答した人は87.8%となっています。

子育て支援センター「くるり」の利用者の1週あたりの利用頻度としては、「1回」(5.5%)になっており、1ヶ月あたりの利用頻度としては、「1回」(44.8%)が最も高く、次いで、「2回」(17.2%)という結果になっています。

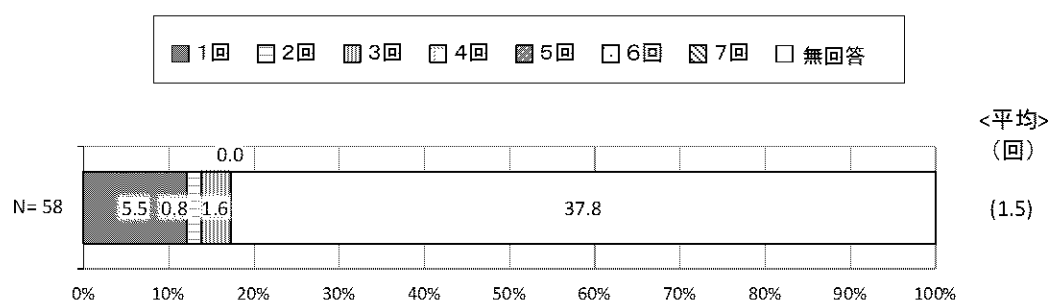
また、利用していない理由として、「利用する必要がない」(52.1%)が最も高く、その他を除き、「利用したいが、近くにない」や「利用したいが、開館日が少ない」がそれぞれ2.8%となっています。状況としては、近くになかったり、開館日が少ないために利用していない人がいることが分かります

その他として「あまりよく知らない」、「仕事をしているので連れていけない」、「まだ小さいため、外出は控えている」、「利用したいが、入りづらい」、「利用しにくかった」「連れていく暇がない」といった回答があります。

■ 子育て支援センター「くるり」の利用状況

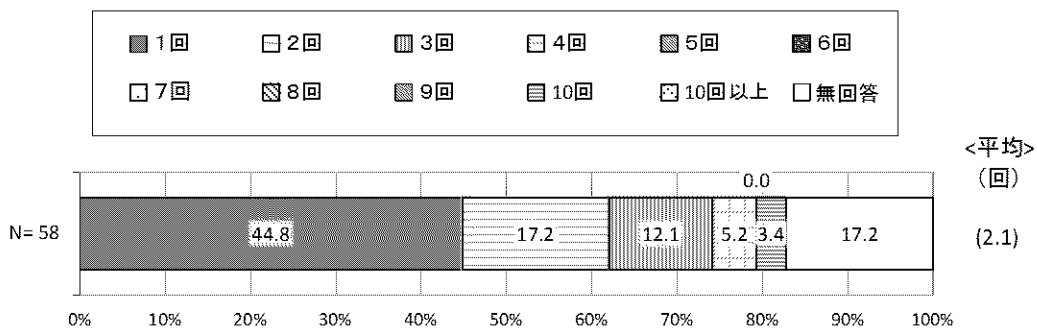


■ 子育て支援センター「くるり」の利用頻度（1週あたり）



	N= 58	
	実数(人)	構成比(%)
1回	7	5.5
2回	1	0.8
3回	2	1.6
4回	0	0.0
5回	0	0.0
6回	0	0.0
7回	0	0.0
無回答	48	37.8
合計	58	45.7
平均(回)	1.5	-

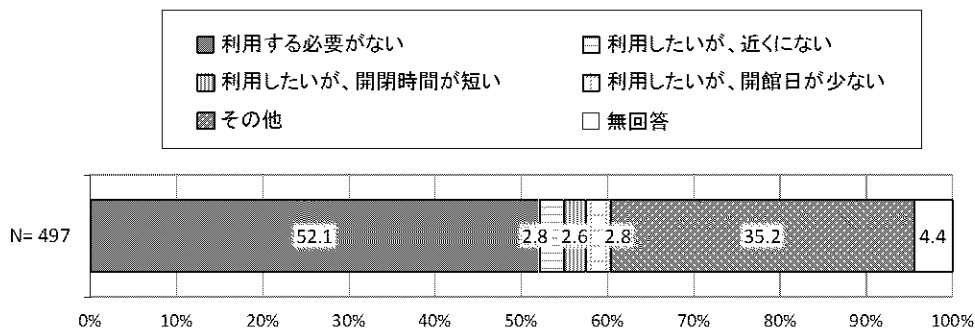
■ 子育て支援センター「くるり」の利用頻度（1ヶ月あたり）



N= 58

	実数(人)	構成比 (%)
1回	26	44.8
2回	10	17.2
3回	7	12.1
4回	3	5.2
5回	0	0.0
6回	0	0.0
7回	0	0.0
8回	0	0.0
9回	0	0.0
10回	2	3.4
10回以上	0	0.0
無回答	10	17.2
合計	58	100.0
平均 (回)	2.1	-

■ 子育て支援センター「くるり」を利用していない理由



(2) 子どもの現在の中間市子育て支援センター「くるり」の利用意向

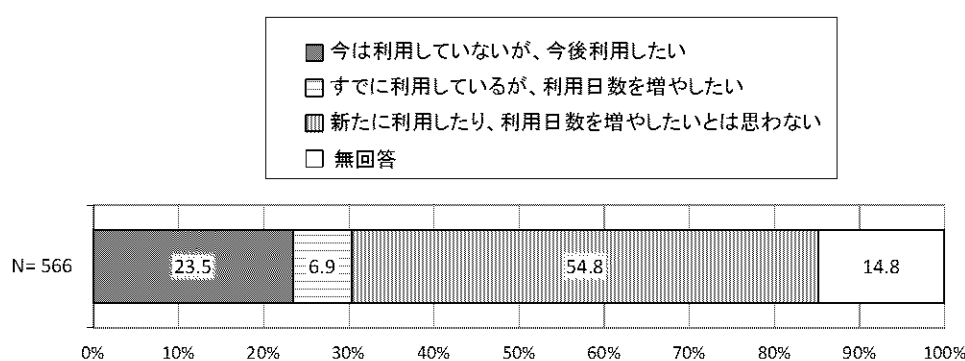
〈問 18〉

子育て支援センター「くるり」の利用意向については、「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」(54.8%)が最も高く、次いで「今は利用していないが、今後利用したい」(23.5%)と続きます。

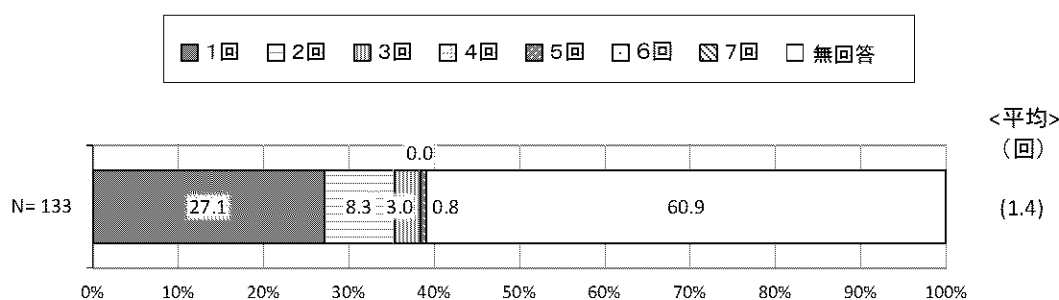
子育て支援センター「くるり」をまだ利用していない人で今後利用したいと考えている人の、1週あたりの利用回数の意向としては、「1回」の27.1%が最も多く、次いで「2回」(8.3%)となり、平均で1.4回となります。

1ヶ月あたりの利用頻度の意向としては「1回」の30.8%が最も多く、次いで「2回」(22.6%)と続き、平均で2.4回となります。

■ 子育て支援センター「くるり」の利用意向



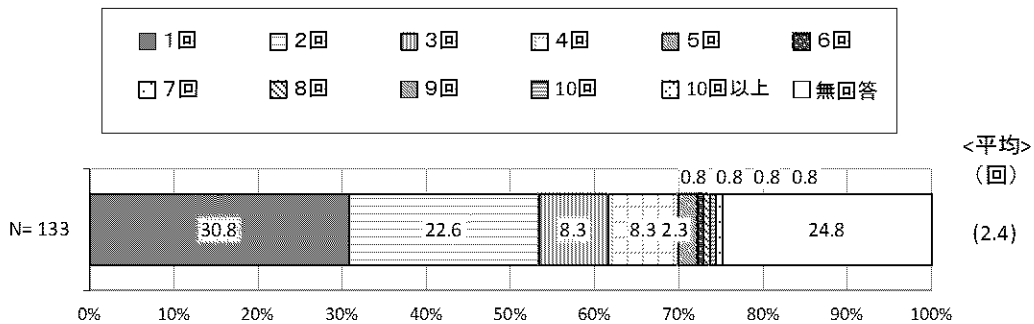
■ 未利用者の子育て支援センター「くるり」の利用回数の意向（1週あたり）



N= 133

	実数(人)	構成比(%)
1回	36	27.1
2回	11	8.3
3回	4	3.0
4回	0	0.0
5回	1	0.8
6回	0	0.0
7回	0	0.0
無回答	81	60.9
合計	133	100.0
平均(回)	1.4	-

■ 未利用者の子育て支援センター「くるり」の利用回数の意向（1ヶ月あたり）



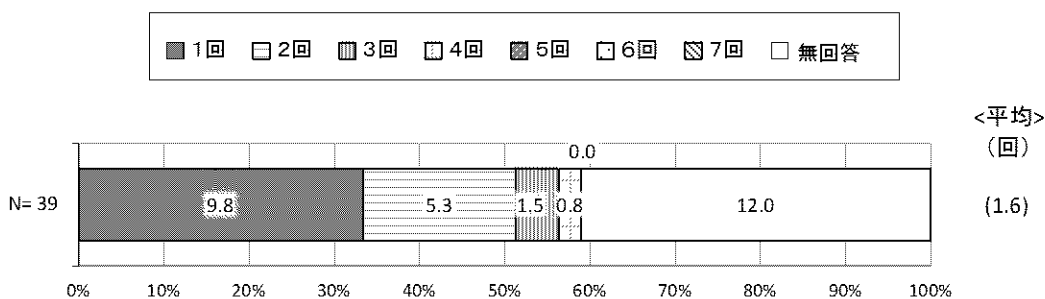
N=133

	実数(人)	構成比(%)
1回	41	30.8
2回	30	22.6
3回	11	8.3
4回	11	8.3
5回	3	2.3
6回	1	0.8
7回	0	0.0
8回	1	0.8
9回	0	0.0
10回	1	0.8
10回以上	1	0.8
無回答	33	24.8
合計	133	100.0
平均(回)	2.4	-

子育て支援センター「くるり」を既に利用している人で今後利用したいと考えている人の、1週あたりの利用回数の意向としては、「1回」の9.8%が最も多く、次いで「2回」(5.3%)となり、平均で1.6回となります。

1ヶ月あたりの利用頻度の意向としては「2回」(20.5%)が最も多く、次いで「4回」(12.8%)となり、平均で4.2回となります。

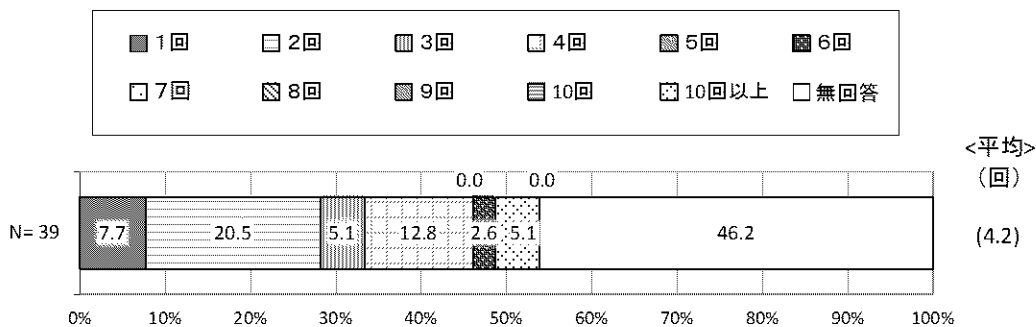
■ 既利用者の子育て支援センター「くるり」の利用回数の意向（1週あたり）



N=39

	実数(人)	構成比(%)
1回	13	9.8
2回	7	5.3
3回	2	1.5
4回	1	0.8
5回	0	0.0
6回	0	0.0
7回	0	0.0
無回答	16	12.0
合計	39	29.3
平均(回)	1.6	-

■ 既利用者の子育て支援センター「くるり」の利用回数の意向（1ヶ月あたり）



N= 39		
	実数(人)	構成比(%)
1回	3	7.7
2回	8	20.5
3回	2	5.1
4回	5	12.8
5回	0	0.0
6回	1	2.6
7回	0	0.0
8回	0	0.0
9回	0	0.0
10回	0	0.0
10回以上	2	5.1
無回答	18	46.2
合計	39	100.0
平均(回)	4.2	-

(3) 中間市の子育て支援事業

〈問 19〉

中間市の子育て支援事業については、「母親・両親学級」(81.6%)、「あかちゃん訪問」(79.2%)、「相談事業」(69.4%)に対する認知度が高いようです。

■ 中間市の子育て支援事業の認知度

	実数(人)		
	はい	いいえ	無回答
中間市子育て支援情報誌「rainbow」	199	345	22
妊婦健康診査	362	168	36
あかちゃん訪問	448	82	36
母親・両親学級	462	76	28
子育て支援センター「くるり」	366	174	26
子育てサロン	227	316	23
療育支援センター「親子ひろばリンク」	285	266	15
はばたけ子どもネットワーク	43	502	21
ブックスタート事業	341	197	28
相談事業	393	154	19
幼稚園・保育所の地域開放事業	292	257	17
	構成比(%)		
	はい	いいえ	無回答
中間市子育て支援情報誌「rainbow」	35.2	61.0	3.9
妊婦健康診査	64.0	29.7	6.4
あかちゃん訪問	79.2	14.5	6.4
母親・両親学級	81.6	13.4	4.9
子育て支援センター「くるり」	64.7	30.7	4.6
子育てサロン	40.1	55.8	4.1
療育支援センター「親子ひろばリンク」	50.4	47.0	2.7
はばたけ子どもネットワーク	7.6	88.7	3.7
ブックスタート事業	60.2	34.8	4.9
相談事業	69.4	27.2	3.4
幼稚園・保育所の地域開放事業	51.6	45.4	3.0

利用について、高い順に「あかちゃん訪問」(62.2%)、「ブックスタート事業」(48.6%)、「妊婦健康診査」(47.0%)となっています。

利用意向について、50.0%の人が「ブックスタート事業」を今後利用したいと回答しています。次いで「幼稚園・保育所の地域開放事業」(49.6%)、「相談事業」(46.5%)と続きます。

■ 中間市の子育て支援事業の利用の有無

	実数(人)		
	はい	いいえ	無回答
中間市子育て支援情報誌「rainbow」	95	389	82
妊婦健康診査	266	235	65
あかちゃん訪問	352	162	52
母親・両親学級	172	339	55
子育て支援センター「くるり」	183	329	54
子育てサロン	50	451	65
療育支援センター「親子ひろばリンク」	55	446	65
はばたけ子どもネットワーク	5	482	79
ブックスタート事業	275	236	55
相談事業	168	335	63
幼稚園・保育所の地域開放事業	136	359	71
	構成比(%)		
	はい	いいえ	無回答
中間市子育て支援情報誌「rainbow」	16.8	68.7	14.5
妊婦健康診査	47.0	41.5	11.5
あかちゃん訪問	62.2	28.6	9.2
母親・両親学級	30.4	59.9	9.7
子育て支援センター「くるり」	32.3	58.1	9.5
子育てサロン	8.8	79.7	11.5
療育支援センター「親子ひろばリンク」	9.7	78.8	11.5
はばたけ子どもネットワーク	0.9	85.2	14.0
ブックスタート事業	48.6	41.7	9.7
相談事業	29.7	59.2	11.1
幼稚園・保育所の地域開放事業	24.0	63.4	12.5

■ 中間市の子育て支援事業の利用意向

	実数(人)		
	はい	いいえ	無回答
中間市子育て支援情報誌「rainbow」	249	218	99
妊婦健康診査	231	220	115
あかちゃん訪問	220	226	120
母親・両親学級	170	286	110
子育て支援センター「くるり」	191	276	99
子育てサロン	152	314	100
療育支援センター「親子ひろばリンク」	131	333	102
はばたけ子どもネットワーク	99	348	119
ブックスタート事業	283	171	112
相談事業	263	194	109
幼稚園・保育所の地域開放事業	281	186	99
	構成比(%)		
	はい	いいえ	無回答
中間市子育て支援情報誌「rainbow」	44.0	38.5	17.5
妊婦健康診査	40.8	38.9	20.3
あかちゃん訪問	38.9	39.9	21.2
母親・両親学級	30.0	50.5	19.4
子育て支援センター「くるり」	33.7	48.8	17.5
子育てサロン	26.9	55.5	17.7
療育支援センター「親子ひろばリンク」	23.1	58.8	18.0
はばたけ子どもネットワーク	17.5	61.5	21.0
ブックスタート事業	50.0	30.2	19.8
相談事業	46.5	34.3	19.3
幼稚園・保育所の地域開放事業	49.6	32.9	17.5

7. 土日・休日や長期休暇中の「定期的」な教育・保育事業の利用希望

(1) 子どもの土曜日の、定期的な教育・保育の事業の利用意向

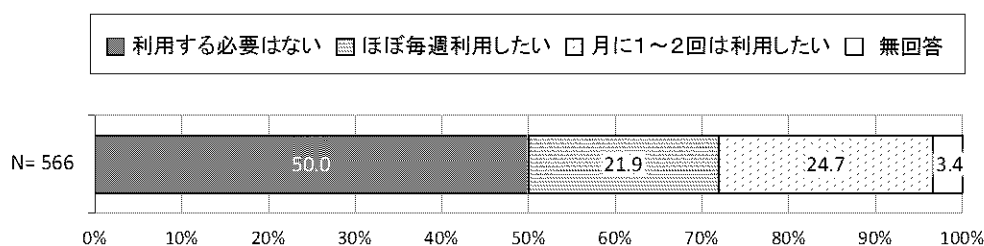
〈問 20(1)〉

土曜日の定期的な教育・保育の事業の利用意向については「利用する必要はない」という回答が50.0%で半数を占めており、次いで「月に1～2回は利用したい」(24.7%)、「ほぼ毎週利用したい」(21.9%)となっています。

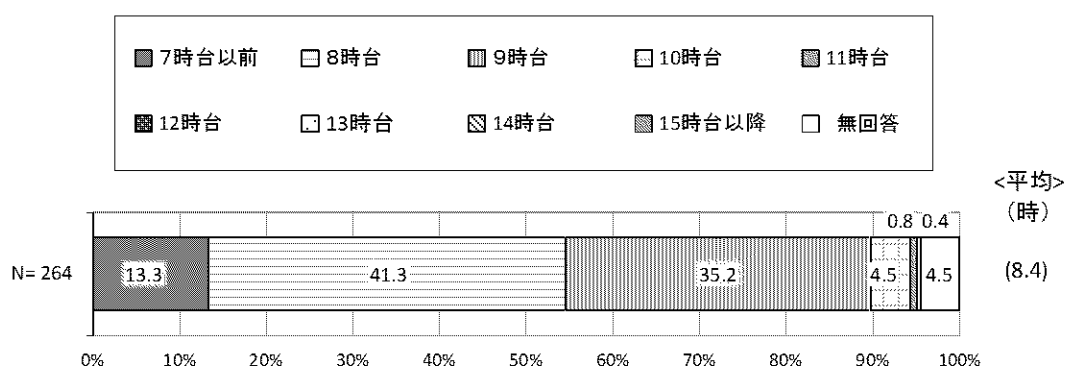
利用開始時間の意向については、「8時台」が41.3%と最も多く、次いで「9時台」(35.2%)と続きます。8～9時台で76.5%となり、7時台の意向もうかがえます。

利用終了時間の意向としては、「17時台」が32.6%と最も多く、次いで「16時台」(18.9%)、「18時台」(17.8%)と続きます。16～18時台で69.3%となります。

■ 土曜日の定期的な教育・保育の事業の利用の意向

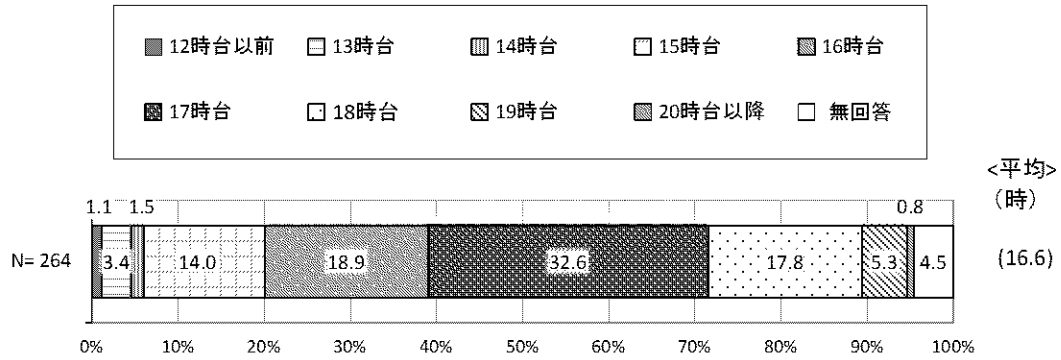


■ 土曜日の定期的な教育・保育の事業の利用開始時間の意向



N= 264		
	実数(人)	構成比(%)
7時台以前	35	13.3
8時台	109	41.3
9時台	93	35.2
10時台	12	4.5
11時台	2	0.8
12時台	0	0.0
13時台	1	0.4
14時台	0	0.0
15時台以降	0	0.0
無回答	12	4.5
合計	264	100.0
平均 (時)	8.4	-

■ 土曜日の定期的な教育・保育の事業の利用終了時間の意向



N= 264

	実数(人)	構成比 (%)
12時台以前	3	1.1
13時台	9	3.4
14時台	4	1.5
15時台	37	14.0
16時台	50	18.9
17時台	86	32.6
18時台	47	17.8
19時台	14	5.3
20時台以降	2	0.8
無回答	12	4.5
合計	264	100.0
平均 (時)	16.6	-

(2) 子どもの日曜日・祝日の、定期的な教育・保育の事業の利用意向

〈問 20(2)〉

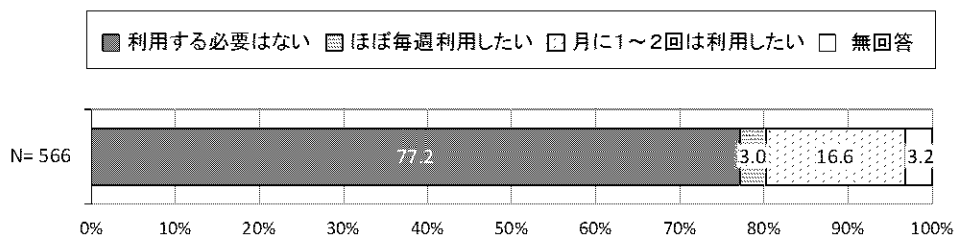
日曜日・祝日の定期的な教育・保育の事業の利用意向については「利用する必要はない」という回答が77.2%と最も多く、次いで「月に1～2回は利用したい」(16.6%)、「ほぼ毎週利用したい」(3.0%)となっています。

利用開始時間の意向については、「8時台」(37.8%)が最も多く、次いで「9時台」(34.2%)と続き、8～9時台で82.0%となります。

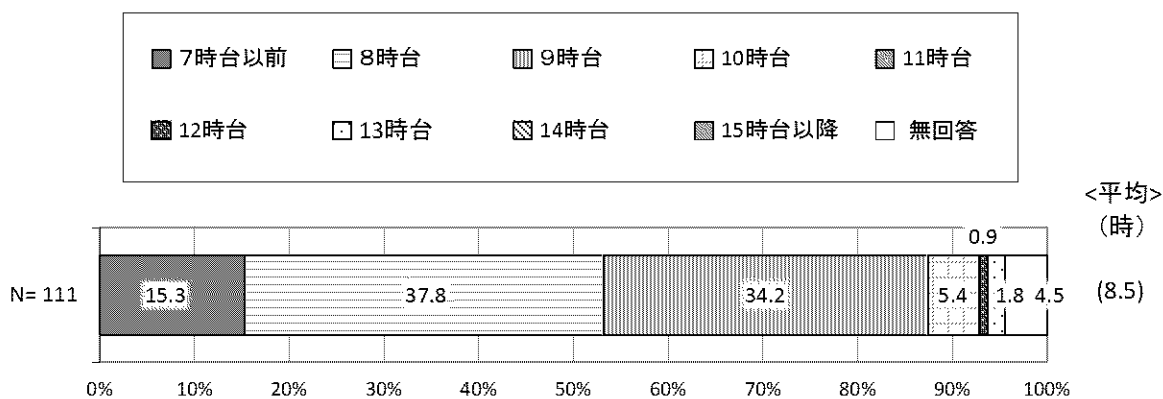
利用終了時間の意向としては、「17時台」が32.4%と最も多く、次いで「18時台」(23.4%)、「16時台」(17.1%)と続き、17～18時台で55.8%となります。

日曜日や祝日においては、利用する必要はないと回答した人が土曜日よりも高かったことから、子どもと一緒にいることを選択する保護者が多いことが推察されます。

■ 日曜日・祝日の定期的な教育・保育の事業の利用の意向



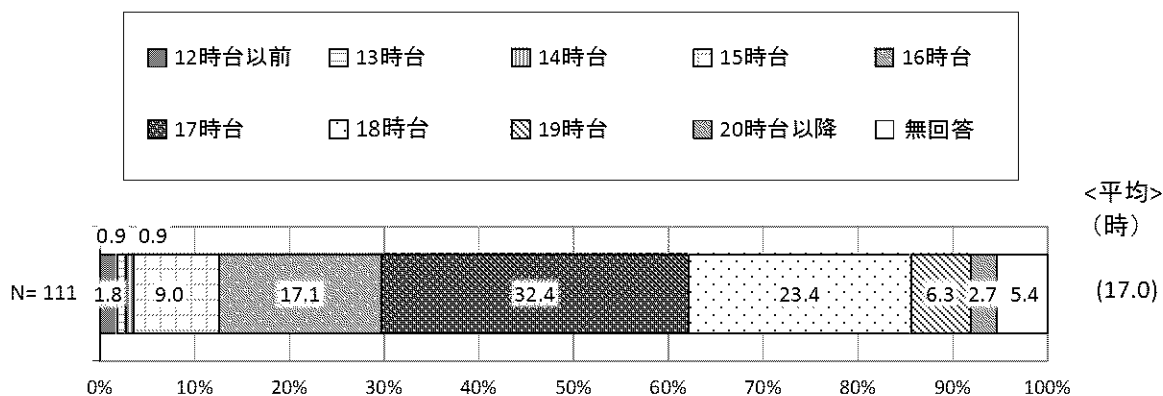
■ 日曜日・祝日の定期的な教育・保育の事業の利用開始時間の意向



N= 111

	実数(人)	構成比(%)
7時台以前	17	15.3
8時台	42	37.8
9時台	38	34.2
10時台	6	5.4
11時台	0	0.0
12時台	1	0.9
13時台	2	1.8
14時台	0	0.0
15時台以降	0	0.0
無回答	5	4.5
合計	111	100.0
平均(時)	8.5	-

■ 日曜日・祝日の定期的な教育・保育の事業の利用終了時間の意向



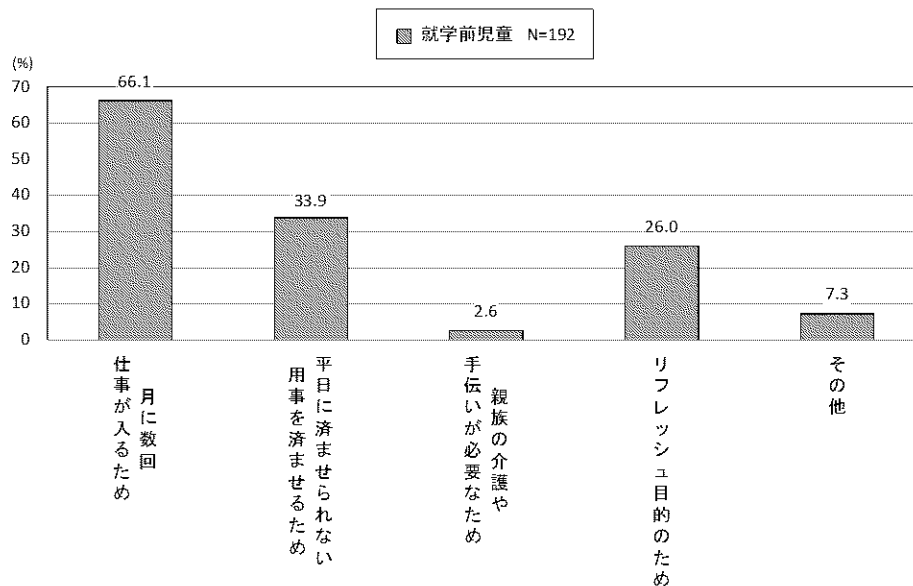
N= 111

	実数(人)	構成比(%)
12時台以前	2	1.8
13時台	1	0.9
14時台	1	0.9
15時台	10	9.0
16時台	19	17.1
17時台	36	32.4
18時台	26	23.4
19時台	7	6.3
20時台以降	3	2.7
無回答	6	5.4
合計	111	100.0
平均(時)	17.0	-

(3) 土曜日と日曜日・祝日に、教育・保育事業をたまに利用したい理由（複数回答）

〈問 20-1〉

土曜日と日曜日・祝日に、教育・保育事業をたまに利用したい理由として、「月に数回仕事が入るため」と回答した人が 66.1%と多く、「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」(33.9%)、「リフレッシュ目的のため」(26.0%)と続きます。たまに利用したい理由として、半数以上の人が就労のためということが分かります。

■ 土曜日と日曜日・祝日に、教育・保育事業をたまに利用したい理由**(4) 幼稚園を利用している子どもの、長期の休暇期間中の教育・保育の事業の利用意向**

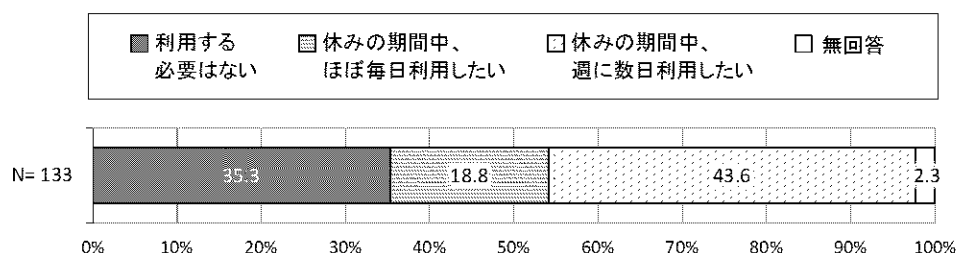
〈問 21〉

幼稚園を利用している子どもの、長期の休暇期間中の教育・保育の事業の利用意向については「休みの期間中、週に数日利用したい」という回答が 43.6%と最も多く、次いで「利用する必要はない」(35.3%)、「休みの期間中、ほぼ毎日利用したい」(18.8%)となっています。

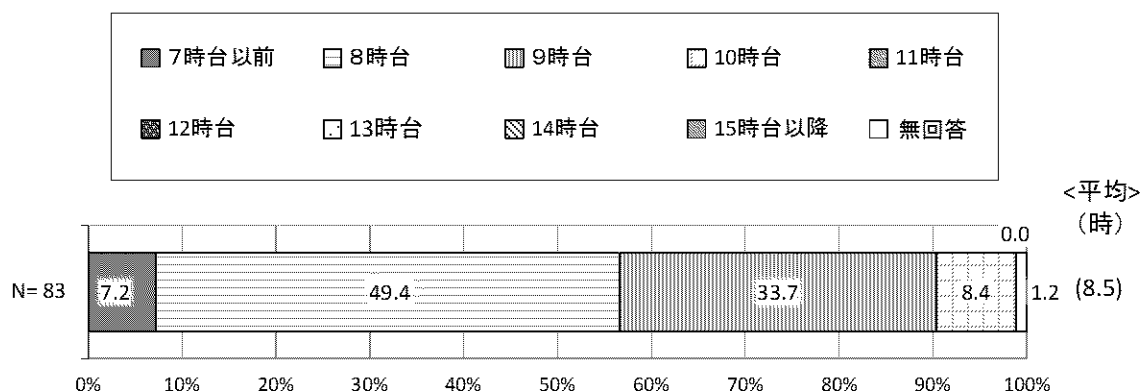
利用開始時間の意向については、「8時台」が 49.4%と最も多く、次いで「9時台」(33.7%)と続き、8～9時台で 83.1%となります。

利用終了時間の意向としては、「15時台」が 28.9%と最も多く、次いで「16時台」や「17時台」でそれぞれ 24.1%、と続きます。

休み期間中にほぼ毎日利用したい理由として、保護者の就労等も推察されます。

■ 長期の休暇期間中の教育・保育の事業の利用の意向

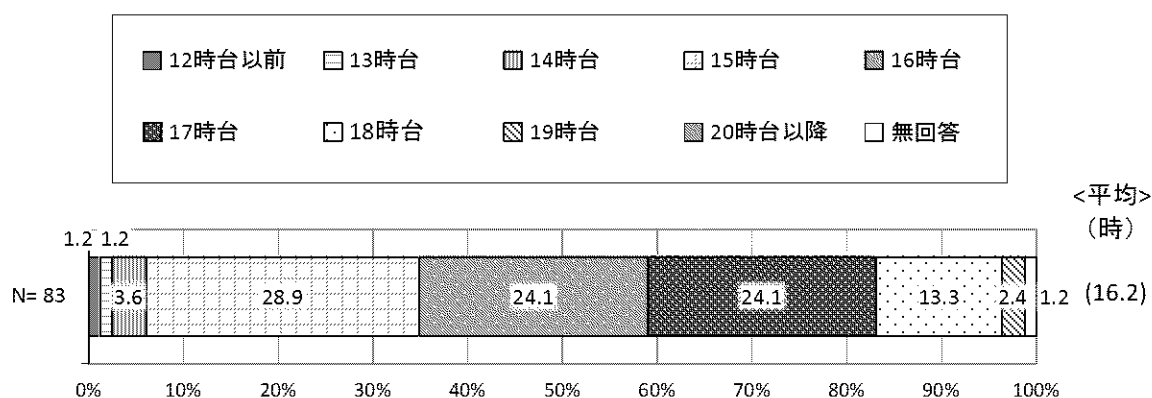
■ 長期の休暇期間中の教育・保育の事業の利用開始時間の意向



N = 83

	実数(人)	構成比(%)
7時台以前	6	7.2
8時台	41	49.4
9時台	28	33.7
10時台	7	8.4
11時台	0	0.0
12時台	0	0.0
13時台	0	0.0
14時台	0	0.0
15時台以降	0	0.0
無回答	1	1.2
合計	83	100.0
平均(時)	8.5	-

■ 長期の休暇期間中の教育・保育の事業の利用終了時間の意向



N = 83

	実数(人)	構成比(%)
12時台以前	1	1.2
13時台	1	1.2
14時台	3	3.6
15時台	24	28.9
16時台	20	24.1
17時台	20	24.1
18時台	11	13.3
19時台	2	2.4
20時台以降	0	0.0
無回答	1	1.2
合計	83	100.0
平均(時)	16.2	-

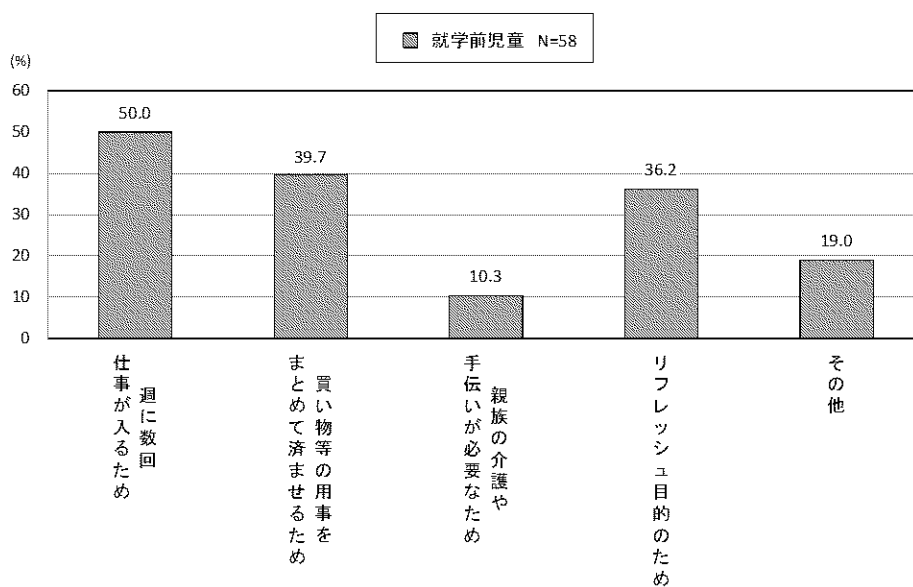
(5) 幼稚園を利用する子どもの、教育・保育事業をたまに利用したい理由（複数回答）

〈問 21-1〉

教育・保育事業をたまに利用したい理由として、「週に数回仕事が入るため」と回答した人が50.0%となっています。続いて「買い物等の用事をまとめて済ませるため」(39.7%)、「リフレッシュ目的」(36.2%)という回答がみられます。ここでも、就労が事業利用の理由と考えている人が多いことがうかがえます。

また、その他として「幼稚園のリズムを壊さないため」、「長期休暇になると、遊び方などワンパターンになるので、子どものストレス発散になるのではないかと思うため」、「自分の病院に行く時間がないから」、「子どもを友達と遊ばせてあげたいから」、「上の子の宿題（絵や作文など）を見るときのため」、といった回答があります。

■ 教育・保育事業をたまに利用したい理由



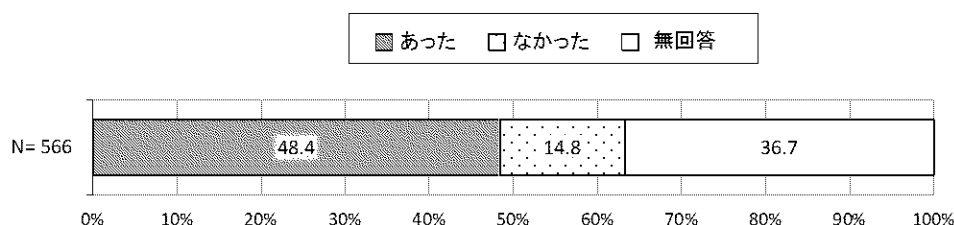
8. 病気の際の対応（平日の教育・保育の利用者のみ）

（1）子どもの病気やケガの時の、平日の定期的な教育・保育の事業の利用状況

〈問 22〉

過去1年間で子どもの病気やケガ等で平日の定期的な教育・保育の事業を利用できなかった経験があったと回答した人は、回答全体の48.4%みられ、14.8%の人がなかったと回答しています。

■ 平日の定期的な教育・保育の事業が利用できなかった経験



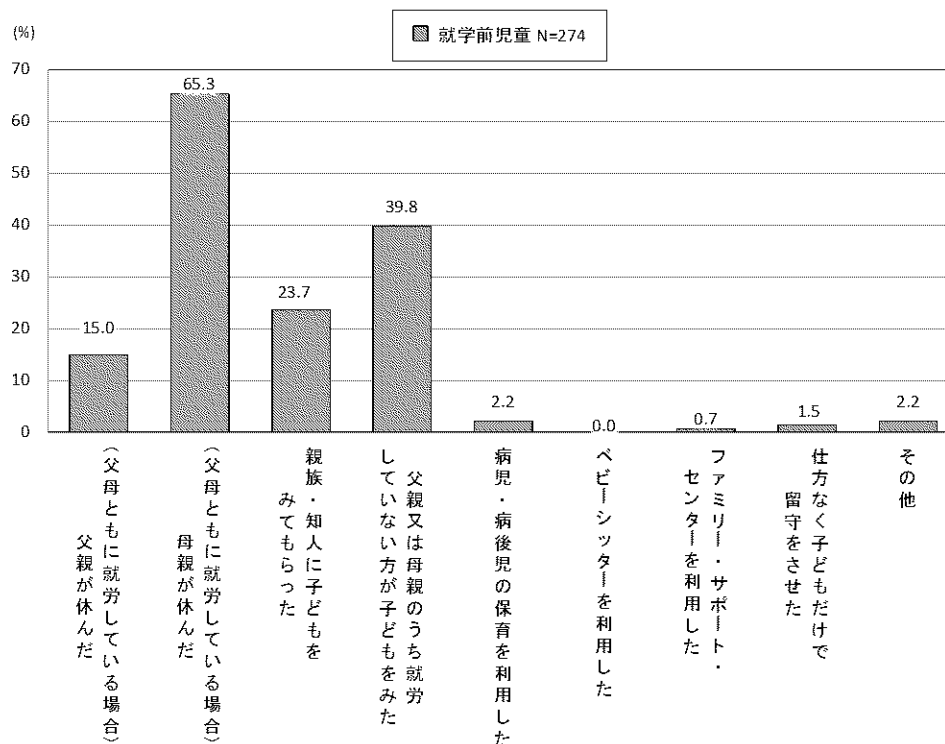
（2）子どもの病気やケガの時の、通常の事業が利用できない場合の対処方法（複数回答）

〈問 22-1〉

子どもの病気やケガ等で通常の事業が利用できなかった場合の対処方法として、「母親が休んだ」が65.3%と最も多く、次いで「父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた」（39.8%）と続きます。

「病児・病後児の保育を利用した」は2.2%、「仕方なく子どもだけで留守番をさせた」という回答は1.5%あります。対処方法として、父親が休んだという回答は15.0%で母親よりも低い結果となっています。

■ 通常の事業が利用できない場合の対処方法（過去1年間）



(3) 病気やケガで学校を休んだ場合の対処日数

〈問 22-1〉

子どもが病気やケガで学校を休んだ場合に対処した年間日数について、対処方法の多い順にみると、「母親が休んだ」(平均 10.0 日)、「父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた」(9.9 日)、「親族・知人に子どもをみてもらった」(20.3 日)となっています。

■ 通常の事業が利用できない場合の年間日数 (対処方法別)

N=274

	実数(人)									
	サンプル数	1～5日	6～10日	11～15日	16～20日	21～30日	31～40日	41日以上	無回答	平均(日)
(父母ともに就労している場合) 父親が休んだ	41	31	7	0	3	0	0	0	0	5.0
(父母ともに就労している場合) 母親が休んだ	179	76	53	11	19	6	1	3	10	10.0
親族・知人に子どもをみてもらった	65	26	17	8	3	3	2	4	2	20.3
父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた	109	51	21	5	8	7	3	1	13	9.9
病児・病後児の保育を利用した	6	4	2	0	0	0	0	0	0	5.0
ベビーシッターを利用した	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
ファミリー・サポート・センターを利用した	2	1	0	0	0	0	0	0	1	1.0
仕方なく子どもだけで留守をさせた	4	3	0	0	0	0	0	0	1	3.0
その他	6	2	3	0	0	0	0	0	1	6.6
	構成比(%)									
	全体	1～5日	6～10日	11～15日	16～20日	21～30日	31～40日	41日以上	無回答	平均(日)
(父母ともに就労している場合) 父親が休んだ	15.0	75.6	17.1	0.0	7.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
(父母ともに就労している場合) 母親が休んだ	65.3	42.5	29.6	6.1	10.6	3.4	0.6	1.7	5.6	
親族・知人に子どもをみてもらった	23.7	40.0	26.2	12.3	4.6	4.6	3.1	6.2	3.1	
父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた	39.8	46.8	19.3	4.6	7.3	6.4	2.8	0.9	11.9	
病児・病後児の保育を利用した	2.2	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
ベビーシッターを利用した	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
ファミリー・サポート・センターを利用した	0.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
仕方なく子どもだけで留守をさせた	1.5	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	
その他	2.2	33.3	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	

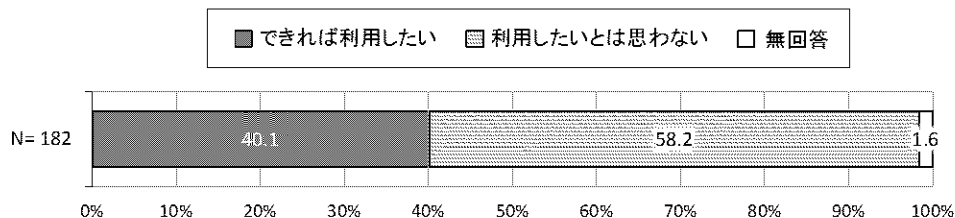
(4) 病児・病後児保育事業の利用意向

〈問 22-2〉

病児・病後児保育事業の利用意向については、「利用したいとは思わない」が 58.2%みられるものの、「できれば利用したい」という回答も 40.1%あります。病児・病後児保育事業に関しては、就労等を理由とする潜在的な需要があるものと推察されます。

利用日数の意向については、「1～5日」が 45.2%と最も多く、「6～10日」(31.5%)と続き、平均で 8.5 日です。31 日以上の希望は 1.4%みられます。

■ 病児・病後児保育事業の利用意向



■ 病児・病後児保育事業の年間利用日数の意向

N= 73

	実数(人)	構成比(%)
1～5日	33	45.2
6～10日	23	31.5
11～15日	1	1.4
16～20日	5	6.8
21～25日	0	0.0
26～30日	2	2.7
31日以上	1	1.4
無回答	8	11.0
合計	73	100.0
平均(日)	8.5	

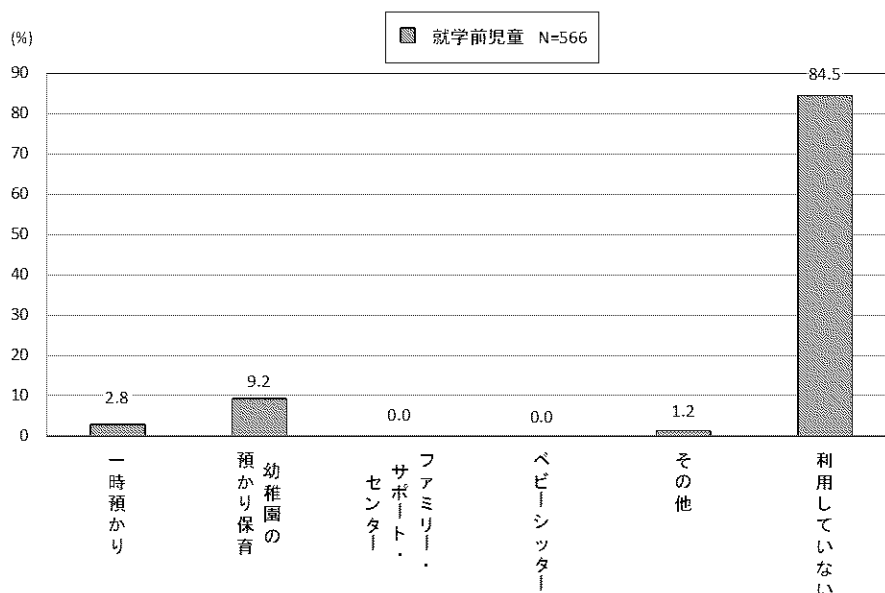
9. 不定期の教育・保育事業や宿泊を伴う一時預かり等の利用状況

(1) 私用、病気・通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用している事業

〈問 23〉

過去1年間で不定期に利用している事業については、「利用していない」人が84.5%で多くみられるものの、「幼稚園の預かり保育」(9.2%)や「一時預かり」(2.8%)の利用もあがえます。

■ 不定期に利用している事業



また、不定期に利用している事業の年間利用日数は、「幼稚園の預かり保育」が平均33.7日、「一時預かり」が平均33.1日という回答を得ています。「ファミリー・サポート・センター」の年間利用はみられません。

■ 不定期に利用している事業の年間利用日数

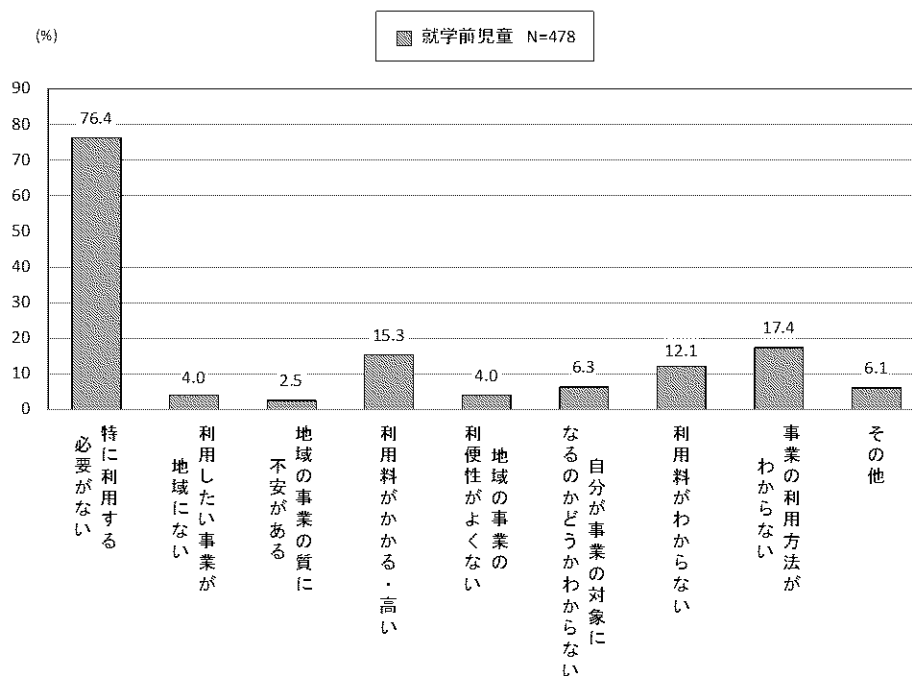
	サンプル数	実数 (人)								平均 (日)
		1～5日	6～10日	11～15日	16～20日	21～30日	31～40日	41日以上	無回答	
一時預かり	16	6	1	1	0	3	1	3	1	33.1
幼稚園の預かり保育	52	17	11	3	1	6	1	10	3	33.7
ファミリー・サポート・センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
ベビーシッター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
その他	7	2	1	1	0	0	0	1	2	25.6
	サンプル構成比 (%)	構成比 (%)								
一時預かり	2.8	37.5	6.3	6.3	0.0	18.8	6.3	18.8	6.3	
幼稚園の預かり保育	9.2	32.7	21.2	5.8	1.9	11.5	1.9	19.2	5.8	
ファミリー・サポート・センター	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
ベビーシッター	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
その他	1.2	28.6	14.3	14.3	0.0	0.0	0.0	14.3	28.6	

(2) 不定期的に事業を利用していない理由

〈問 23-1〉

不定期的に事業を利用していない理由としては、「特に利用する必要がない」が76.4%と最も多くなっていますが、「事業の利用方法がわからない」(17.4%)、「利用料がかかる・高い」(15.3%)、「利用料がわからない」(12.1%)といった回答もみられ、利用方法や利用料について周知の必要があると考えられます。

■ 不定期的に事業を利用していない理由



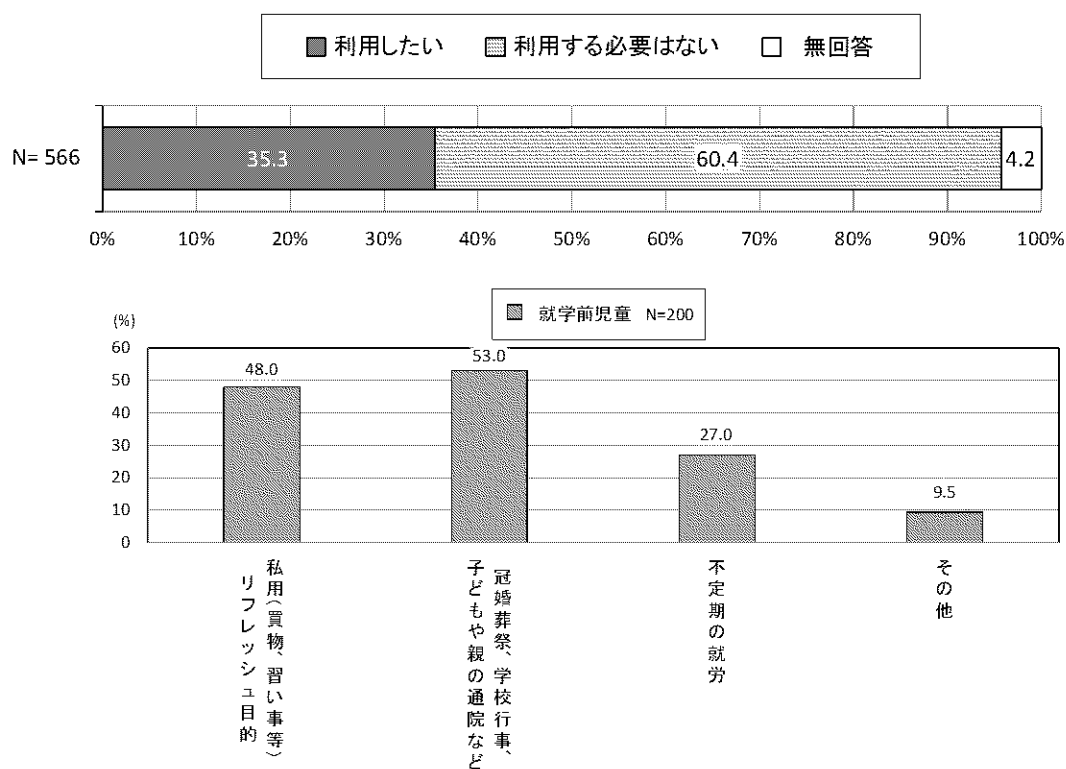
(3) 宿泊を伴う一時預かり等の事業の利用意向

〈問 24〉

私用や病気・通院、不定期の就労等の一時的な理由による宿泊を伴う一時預かり等の事業の利用意向として、「利用する必要はない」と60.4%の人が回答していますが、35.3%の人が利用したいと回答しています。

事業を利用する場合の目的については、「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院など」の回答が53.0%と高く、次いで「私用（買物、習い事等）リフレッシュ目的」（48.0%）、「不定期の就労」（27.0%）という結果になっています。目的として、就労だけではないことがうかがえます。

■ 宿泊を伴う一時預かり等の事業の意向とその目的



また、事業を利用する場合の年間利用日数の意向については、全体の平均が21.5日となっており、利用目的別にみると「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院など」（平均9.8日）、「私用やリフレッシュ目的」（13.4日）、「不定期の就労」（33.6日）となり、最高で41日以上の上の事業の利用がみられます。

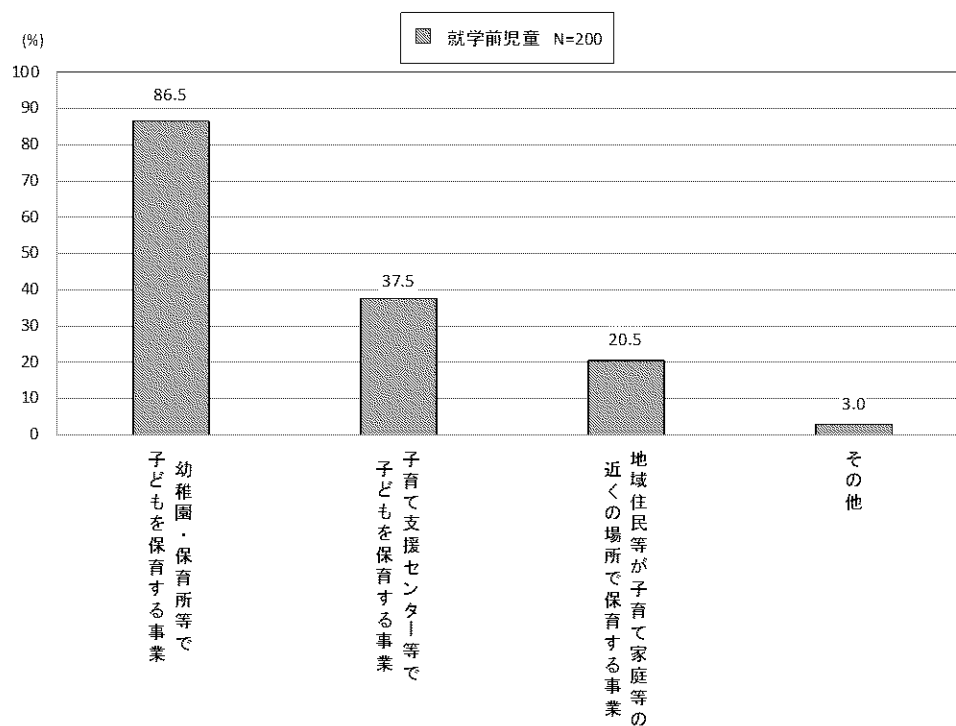
■ 宿泊を伴う一時預かり等の年間利用日数の意向（利用目的別）

	サンプル数 (人)	実数 (人)								平均(日)
		1～5日	6～10日	11～15日	16～20日	21～30日	31～40日	41日以上	無回答	
利用したい (全体)	200	36	52	21	20	18	2	16	35	21.5
私用や、リフレッシュ目的	96	30	17	18	3	9	2	4	13	13.4
冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院など	106	47	21	11	3	3	1	3	17	9.8
不定期の就労	54	5	14	2	6	4	1	6	16	33.6
その他	19	9	4	0	0	0	0	1	5	13.4
	サンプル数 構成比 (%)	構成比 (%)								
利用したい (全体)	-	18.0	26.0	10.5	10.0	9.0	1.0	8.0	17.5	
私用や、リフレッシュ目的	48.0	31.3	17.7	18.8	3.1	9.4	2.1	4.2	13.5	
冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院など	53.0	44.3	19.8	10.4	2.8	2.8	0.9	2.8	16.0	
不定期の就労	27.0	9.3	25.9	3.7	11.1	7.4	1.9	11.1	29.6	
その他	9.5	47.4	21.1	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	26.3	

(4) 利用したい事業の望ましい事業形態

〈問 24-1〉

利用したい事業の望ましい事業形態としては、「幼稚園・保育所等で子どもを保育する事業」が86.5%で最も多く、通う保育園や幼稚園での利用が望ましいと考えている人が多いことがうかがえます。「地域住民等が子育て家庭等の近くの場所で保育する事業」という回答も20.5%みられます。

■ 利用したい事業の望ましい事業形態

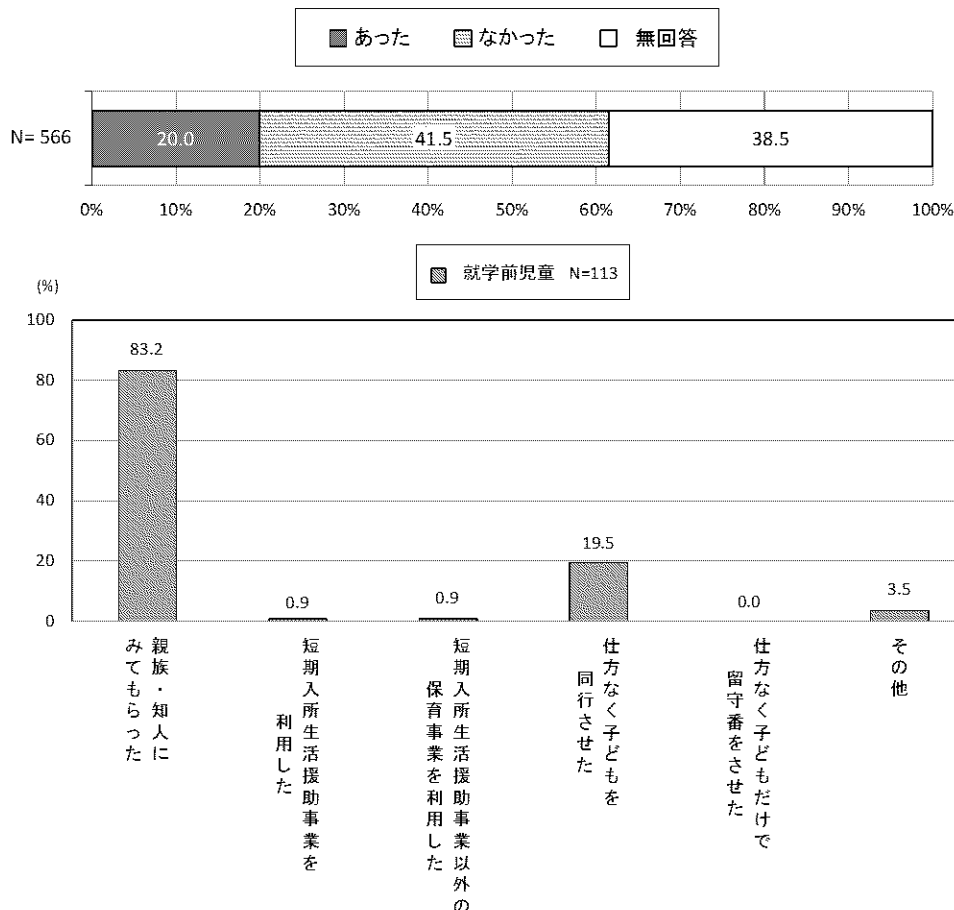
(5) 保護者の用事により、子どもを泊まりがけで家族以外に預けた経験

〈問 25〉

過去1年間に保護者の用事（冠婚葬祭、保護者や家族の病気等）で子どもを泊まりがけで家族以外に預けたことがあると回答した人は、20.0%となっています。また、41.5%の人が預けなかったと回答しています。

預け先としては、「親族・知人にみてもらった」が83.2%で高く、半数以上を占めています。身近な人に預けている傾向が高いですが、「仕方なく子どもを同行させた」という回答も19.5%となっており、預け先が見つからなかったことがうかがえます。

■ 泊まりがけで家族以外に預けた経験とその対処法（過去1年間）



また、泊まりがけで家族以外の誰かに預けた年間泊数は、対処方法別にみると「親族・知人にみてもらった」が平均5.5日で、「仕方なく子どもを同行させた」が3.4日となっています。

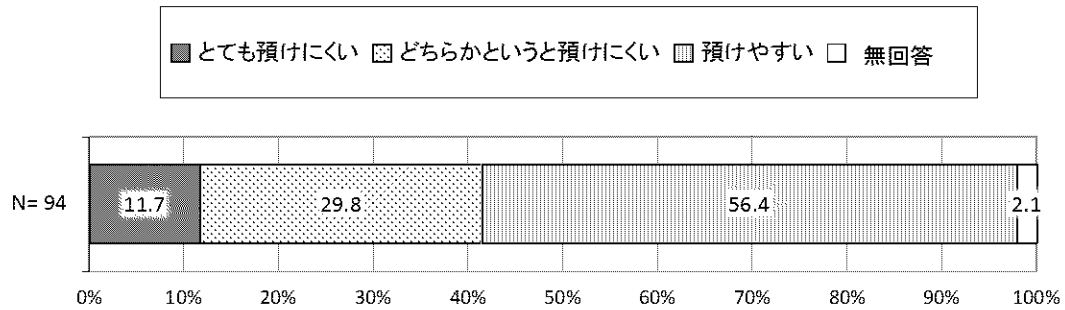
■ 泊まりがけで家族以外に預けた年間泊数（対処方法別）

	サンプル数 (人)	実数 (人)								平均 (日)
		1～5日	6～10日	11～15日	16～20日	21～30日	31～40日	41日以上	無回答	
親族・知人にみてもらった	94	67	15	1	3	1	1	1	5	5.5
短期入所生活援助事業を利用した	1	1	0	0	0	0	0	0	0	5.0
短期入所生活援助事業以外の保育事業を利用した	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2.0
仕方なく子どもを同行させた	22	17	0	0	0	1	0	0	4	3.4
仕方なく子どもだけで留守番をさせた	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
その他	4	2	0	0	0	0	0	0	2	2.5
	サンプル構成比 (%)	構成比 (%)								
親族・知人にみてもらった	83.2	71.3	16.0	1.1	3.2	1.1	1.1	1.1	5.3	
短期入所生活援助事業を利用した	0.9	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
短期入所生活援助事業以外の保育事業を利用した	0.9	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
仕方なく子どもを同行させた	19.5	77.3	0.0	0.0	0.0	4.5	0.0	0.0	18.2	
仕方なく子どもだけで留守番をさせた	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
その他	3.5	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	

(6) 子どもを親族・知人に預けた場合の預けやすさ

〈問 25-1〉

子どもを親族・知人に預けた場合の預けやすさについては、「とても預けにくい」、「どちらかというと預けにくい」と回答した人は合わせて41.5%で、56.4%の人が「預けやすい」と回答しています。41.5%の人が親族・知人に子どもを預けることに対して預けにくさを感じていることが分かります。

■ 親族・知人に預けた場合の預けやすさ

10. 小学校就学後の放課後の過ごし方（5歳以上の子どものみ）

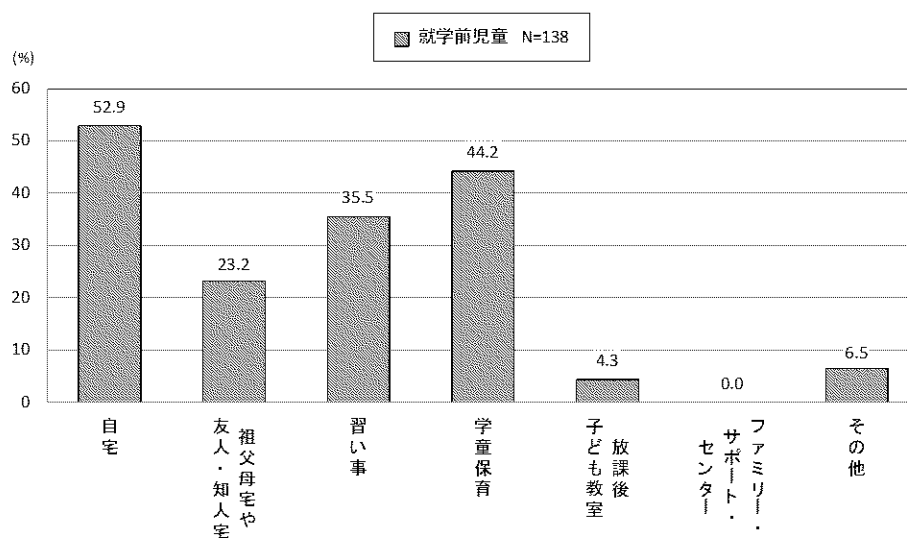
（1）子どもの放課後の過ごし方の意向（複数回答）

〈問26〉

子どもの放課後の過ごし方の意向について、「自宅」が52.9%と最も多く、次いで「学童保育」(44.2%)、「習い事」(35.5%)、「祖父母宅や友人・知人宅」(23.2%)と続きます。

また、放課後に過ごす場所の1週あたり利用日数の意向として、小学校低学年では「自宅」や「学童保育」がそれぞれ平均3.8日と最も多く、次いで「祖父母宅や友人・知人宅」(2.7日)、「放課後子ども教室」(2.3日)となっています。小学校高学年では「学童保育」(平均4.8日)が最も高く、次いで「自宅」(3.5日)、「祖父母宅や友人・知人宅」(2.7日)となっています。高学年になったら、放課後に過ごす場所として学童保育での意向が高くなっていることがうかがえます。

■ 放課後の過ごし方の意向



■ 放課後に過ごす場所の1週あたり利用日数の意向

【小学校低学年】

N=138

	サンプル数 (人)	実数(人)								平均(日)
		1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	無回答	
自宅	73	5	7	15	13	16	3	3	11	3.8
祖父母宅や友人・知人宅	32	9	7	4	1	3	2	1	5	2.7
習い事	49	27	16	4	1	1	0	0	0	1.6
学童保育	61	3	5	4	35	12	0	0	2	3.8
放課後子ども教室	6	1	4	0	0	1	0	0	0	2.3
ファミリー・サポート・センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
その他	9	3	2	2	0	1	0	0	1	2.3
	サンプル 構成比(%)	構成比(%)								
自宅	52.9	6.8	9.6	20.5	17.8	21.9	4.1	4.1	15.1	
祖父母宅や友人・知人宅	23.2	28.1	21.9	12.5	3.1	9.4	6.3	3.1	15.6	
習い事	35.5	55.1	32.7	8.2	2.0	2.0	0.0	0.0	0.0	
学童保育	44.2	4.9	8.2	6.6	57.4	19.7	0.0	0.0	3.3	
放課後子ども教室	4.3	16.7	66.7	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	
ファミリー・サポート・センター	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
その他	6.5	33.3	22.2	22.2	0.0	11.1	0.0	0.0	11.1	

【小学校高学年】

N=138

	サンプル数	実数(人)								平均(日)
		1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	無回答	
自宅	73	6	9	9	7	13	3	1	25	3.5
祖父母宅や友人・知人宅	32	6	3	4	1	4	0	0	14	2.7
習い事	49	9	11	9	1	1	0	0	18	2.2
学童保育	61	0	0	5	0	15	5	0	36	4.8
放課後子ども教室	6	2	1	0	0	1	0	0	2	2.3
ファミリー・サポート・センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
その他	9	2	2	2	0	1	0	0	2	2.4
	サンプル 構成比(%)	構成比(%)								
自宅	52.9	8.2	12.3	12.3	9.6	17.8	4.1	1.4	34.2	
祖父母宅や友人・知人宅	23.2	18.8	9.4	12.5	3.1	12.5	0.0	0.0	43.8	
習い事	35.5	18.4	22.4	18.4	2.0	2.0	0.0	0.0	36.7	
学童保育	44.2	0.0	0.0	8.2	0.0	24.6	8.2	0.0	59.0	
放課後子ども教室	4.3	33.3	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	33.3	
ファミリー・サポート・センター	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
その他	6.5	22.2	22.2	22.2	0.0	11.1	0.0	0.0	22.2	

(2) 学童保育の放課後の利用時間帯の意向

〈問 26〉

学童保育の放課後の利用時間帯の意向をみると、小学校低学年の時では「18時台」(42.6%)が多く、次に「17時台」(32.8%)となります。小学校高学年も低学年と同様に「18時台」(19.7%)が多く、次いで「17時台」(14.8%)となっています。17時～18時の意向が多いのは、保護者の就労時間が影響していると推察されます。

■ 学童保育の利用終了時間帯の意向

【小学校低学年】

N= 61

	実数(人)	構成比(%)
15時台以前	0	0.0
16時台	5	8.2
17時台	20	32.8
18時台	26	42.6
19時台	6	9.8
20時台	0	0.0
21時台以降	0	0.0
無回答	4	6.6
合計	61	100.0
平均(時)	17.6	-

【小学校高学年】

N= 61

	実数(人)	構成比(%)
15時台以前	0	0.0
16時台	0	0.0
17時台	9	14.8
18時台	12	19.7
19時台	4	6.6
20時台	0	0.0
21時台以降	0	0.0
無回答	36	59.0
合計	61	100.0
平均(時)	17.8	-

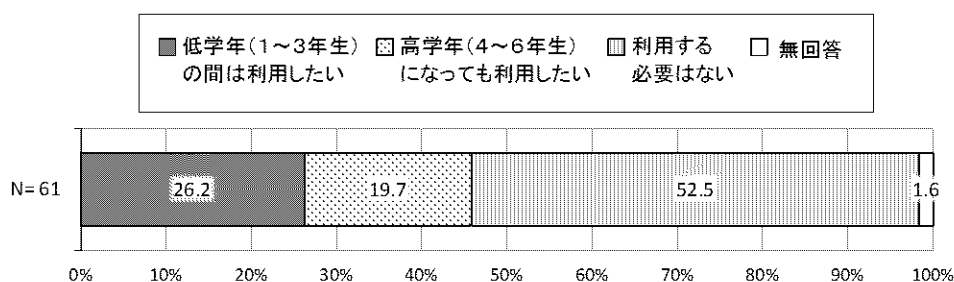
(3) 学童保育の日曜・祝日の利用と利用時間帯の意向

〈問27〉

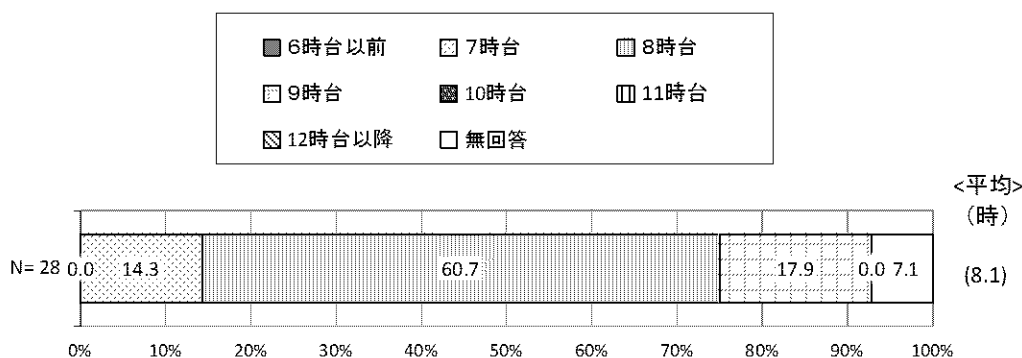
学童保育の日曜・祝日の利用意向としては、「利用する必要はない」が52.5%と最も多く、「低学年の間は利用したい」(26.2%)、「高学年になっても利用したい」(19.7%)となっています。

学童保育の日曜・祝日の利用開始時間の意向としては、「8時台」(60.7%)が最も多く、次いで「9時台」(17.9%)と高く、8～9時台で78.6%の意向がみられます。また、利用終了時間の意向として、「19時台」(32.1%)、「18時台」(25.0%)と高くなっています。

■ 学童保育の日曜・祝日の利用意向



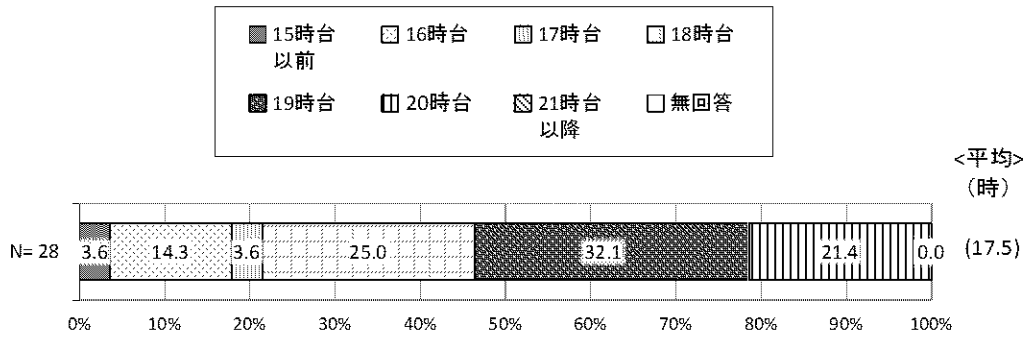
■ 学童保育の日曜・祝日の利用開始時間の意向



N = 28

	実数(人)	構成比(%)
6時台以前	0	0.0
7時台	4	14.3
8時台	17	60.7
9時台	5	17.9
10時台	0	0.0
11時台	0	0.0
12時台以降	0	0.0
無回答	2	7.1
合計	28	100.0
平均(時)	8.1	-

■ 学童保育の日曜・祝日の利用終了時間の意向



N= 28

	実数(人)	構成比(%)
15時台以前	1	3.6
16時台	4	14.3
17時台	1	3.6
18時台	7	25.0
19時台	9	32.1
20時台	6	21.4
21時台以降	0	0.0
無回答	0	0.0
合計	28	100.0
平均(時)	17.5	-

1 1. 育児休業制度や短時間勤務制度など職場の両立支援制度

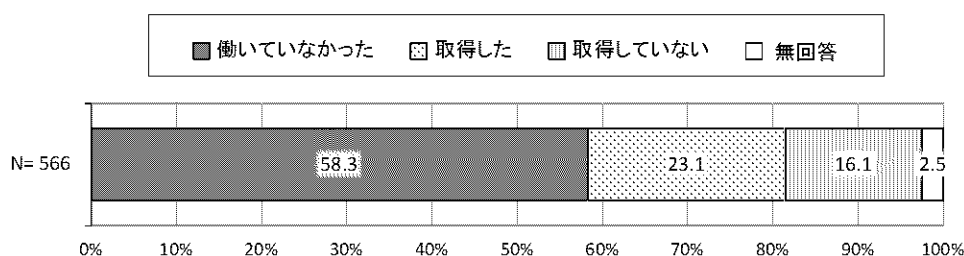
(1) 育児休業制度の取得経験

〈問 28〉

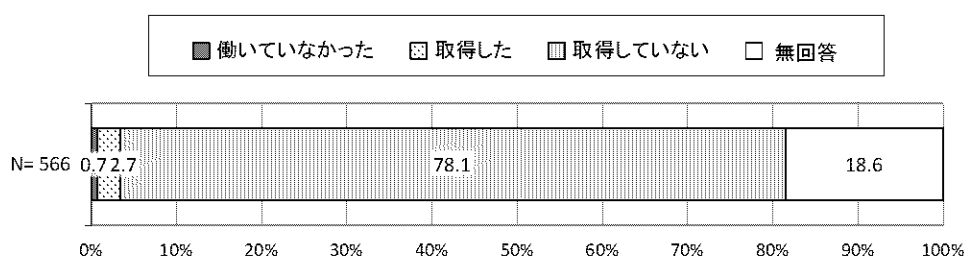
母親の育児休業制度の取得については、子どもが生まれた時に「働いていなかった」が58.3%で最も多くなります。「取得した」(23.1%)と「取得していない」(16.1%)を比較すると、取得者の方が多いことがうかがえます。

父親の育児休業制度の取得については、「取得していない」が78.1%で半数以上を占めています。

■ 育児休業制度の利用経験（母親）



■ 育児休業制度の利用経験（父親）



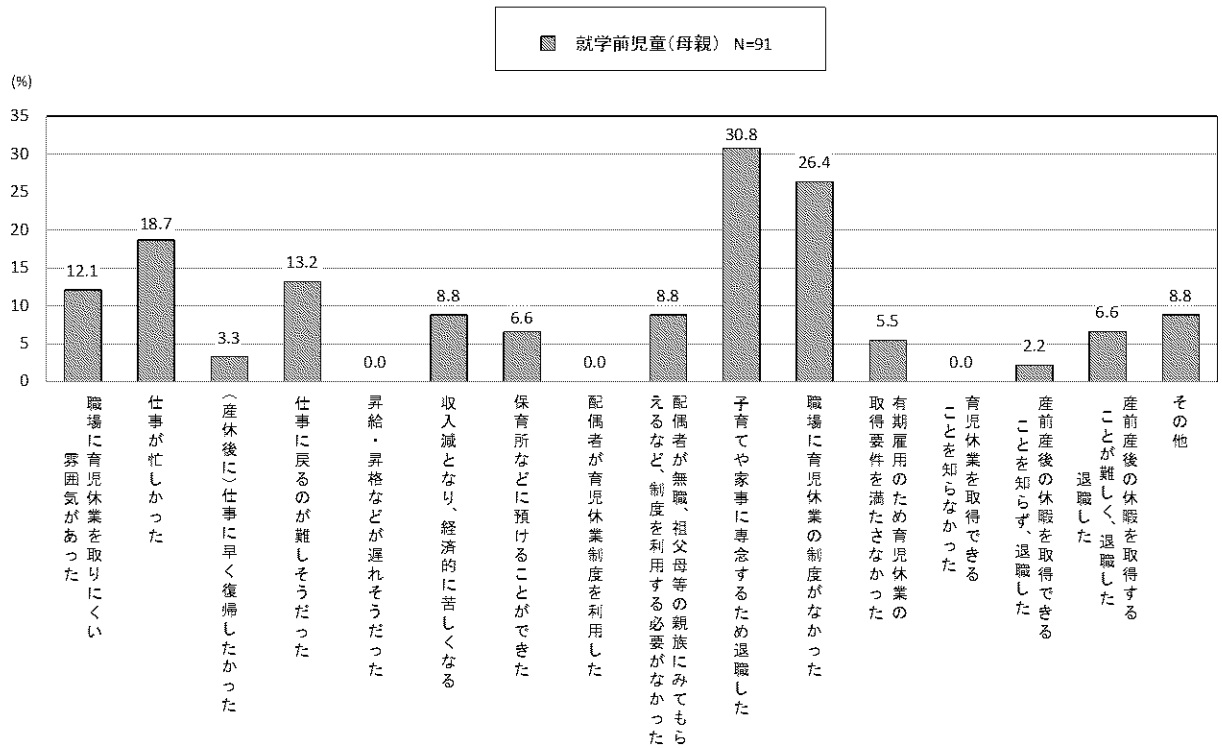
(2) 育児休業制度を取得していない理由（複数回答）

〈問 28〉

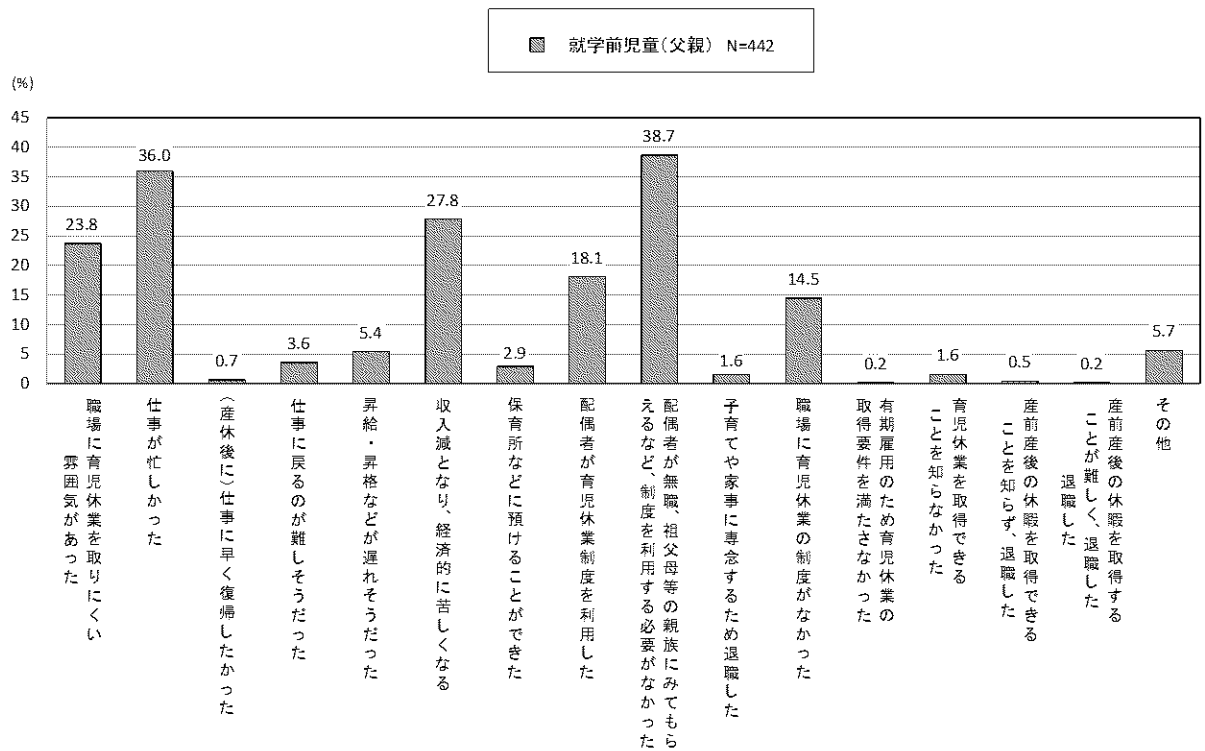
母親の育児休業制度を取得していない理由として、「子育てや家事に専念するため退職した」が30.8%と多くなっています。次いで「職場に育児休業の制度がなかった」(26.4%)、「仕事が忙しかった」(18.7%)、「仕事に戻るのが難しそうだった」(13.2%)、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」(12.1%)という回答があり、仕事や職場での理由がうかがえます。また「収入減となり、経済的に苦しくなる」という回答もみられます。

父親の育児休業制度を取得していない理由として、「配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」が38.7%と最も多く、次いで「仕事が忙しかった」(36.0%)、「収入減となり、経済的に苦しくなる」(27.8%)という回答があり、父親の場合は、配偶者が無職のため、取得する必要がないと考える人が多いことがうかがえます。

■ 育児休業制度を取得していない理由（母親）



■ 育児休業制度を取得していない理由（父親）

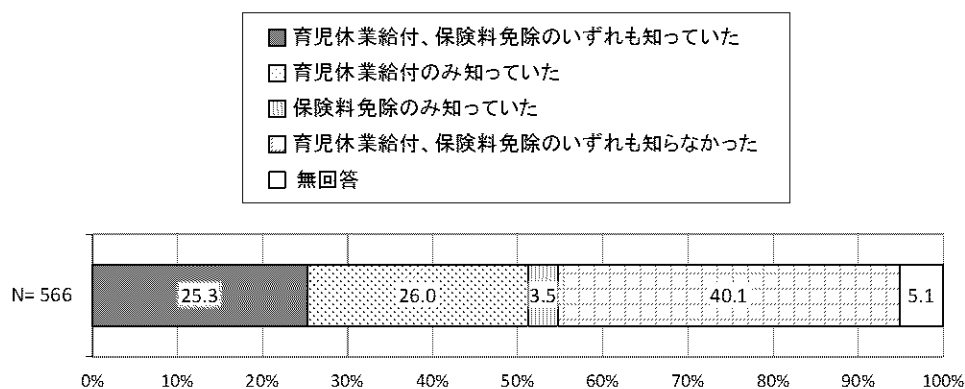


(3) 育児休業給付と保険料免除についての認知度

〈問 29〉

子どもが原則1歳になるまで育児休業給付が支給される仕組みと、子どもが満3歳になるまでの育児休業等期間について健康保険及び厚生年金保険の保険料の免除になる仕組みについての認知度は、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知らなかった」が40.1%と最も多く、次いで「育児休業給付のみ知っていた」(26.0%)、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた」(25.3%)となっています。

■ 育児休業給付と保険料免除についての認知度



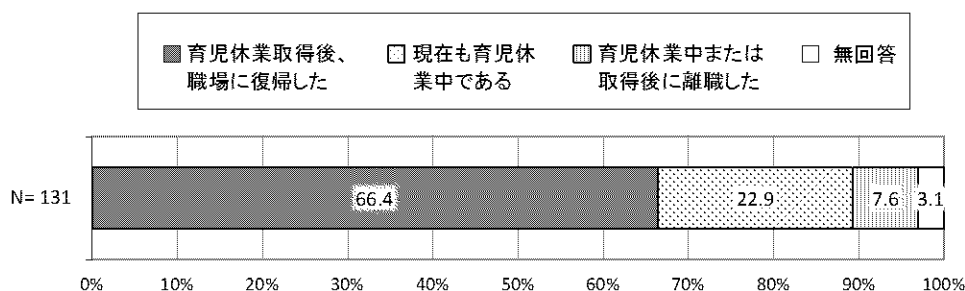
(4) 育児休業制度取得後の職場復帰

〈問 29-1〉

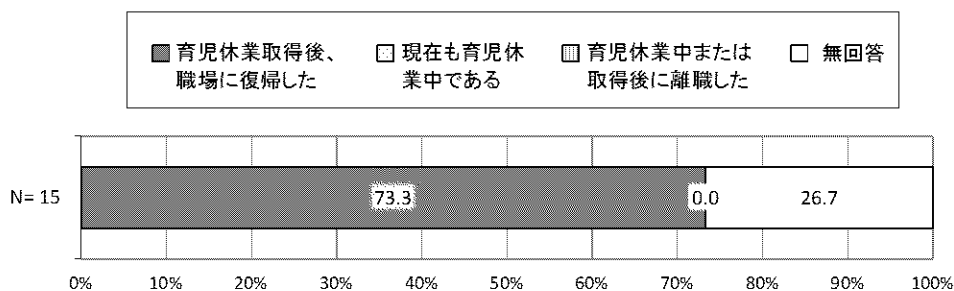
母親の育児休業制度取得後の職場復帰については「育児休業取得後、職場に復帰した」が66.4%で最も多く、「現在も育児休業中である」と回答した人が22.9%みられます。

父親の育児休業取得後の職場復帰については、「育児休業取得後、職場に復帰した」が73.3%で多くなっています。

■ 育児休業制度取得後の職場復帰（母親）



■ 育児休業制度取得後の職場復帰（父親）



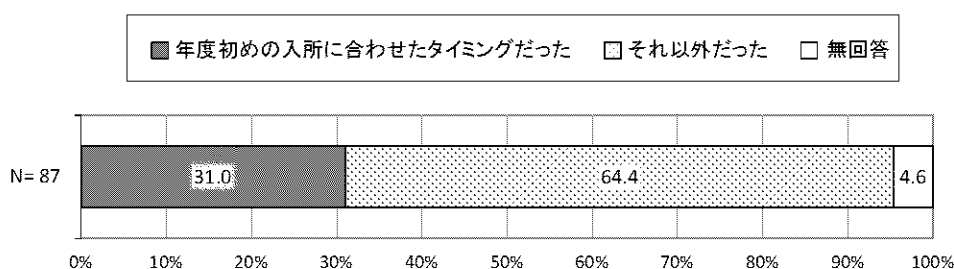
(5) 育児休業制度から職場に復帰したタイミング

〈問 29-2〉

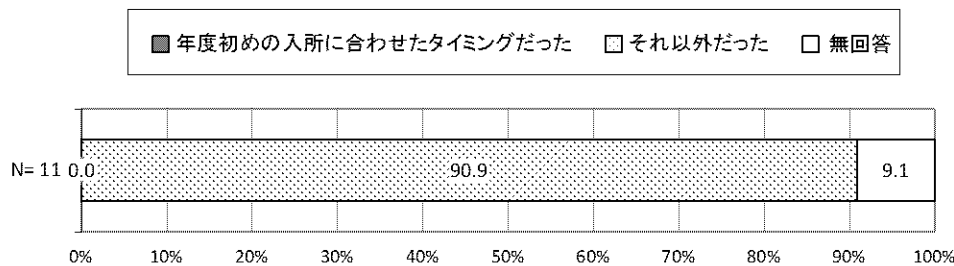
母親の育児休業制度から職場に復帰したタイミングについては、「年度初めの保育所入所に合わせたタイミングだった」が31.0%で、「それ以外だった」が64.4%と年度初め以外のタイミングの方が多くなっています。

父親の育児休業から職場に復帰したタイミングについては、11人から回答を得ており、「それ以外だった」が90.9%で、「年度初めの入所に合わせたタイミングだった」という回答はありません。

■ 育児休業制度取得後の職場復帰（母親）



■ 育児休業制度取得後の職場復帰（父親）



(6) 育児休業制度から職場復帰した時の子どもの月齢

〈問 29-3〉

母親が育児休業制度から職場復帰をした時の子どもの月齢については、「12ヶ月」が33.3%と最も多く、次いで「3ヶ月」や「4ヶ月」でそれぞれ6.9%、「8ヶ月」や「11ヶ月」でそれぞれ5.7%と続きます。希望として、「12ヶ月」が34.5%と最も高く、次いで「18ヶ月」（1歳6ヶ月）で13.8%と続きます。実際は、希望と同じ期間で復帰をした人が多いですが、中には希望よりも短い期間での復帰もみられます。

父親では、「2ヶ月」、「3ヶ月」、「6ヶ月」でそれぞれ9.1%となっており、希望は「1ヶ月」、「3ヶ月」でそれぞれ18.2%、次いで「6ヶ月」、「12ヶ月」、「13ヶ月以上」でそれぞれ9.1%という結果になっています。職場復帰に関して、母親は希望が17.7ヶ月に対し、実数が10.7ヶ月で7ヶ月早くなっており、父親の実数は平均3.3ヶ月と母親より早い復帰であることが分かります。

■ 職場復帰時の子どもの月齢（母親）

	実数(人)	構成比(%)
1ヶ月	0	0.0
2ヶ月	4	4.6
3ヶ月	6	6.9
4ヶ月	6	6.9
5ヶ月	2	2.3
6ヶ月	4	4.6
7ヶ月	3	3.4
8ヶ月	5	5.7
9ヶ月	1	1.1
10ヶ月	2	2.3
11ヶ月	5	5.7
12ヶ月	29	33.3
13ヶ月	4	4.6
14ヶ月	1	1.1
15ヶ月	3	3.4
16ヶ月	0	0.0
17ヶ月	1	1.1
18ヶ月	2	2.3
19ヶ月	0	0.0
20ヶ月	1	1.1
21ヶ月以上	3	3.4
無回答	5	5.7
合計	87	100.0
平均(ヶ月)	10.7	-

	実数(人)	構成比(%)
1ヶ月	0	0.0
2ヶ月	1	1.1
3ヶ月	0	0.0
4ヶ月	0	0.0
5ヶ月	0	0.0
6ヶ月	3	3.4
7ヶ月	0	0.0
8ヶ月	3	3.4
9ヶ月	0	0.0
10ヶ月	0	0.0
11ヶ月	0	0.0
12ヶ月	30	34.5
13ヶ月～17ヶ月	2	2.3
18ヶ月	12	13.8
19ヶ月～23ヶ月	0	0.0
24ヶ月	6	6.9
25ヶ月～29ヶ月	1	1.1
30ヶ月	0	0.0
31ヶ月～35ヶ月	0	0.0
36ヶ月	10	11.5
37ヶ月以上	1	1.1
無回答	18	20.7
合計	87	100.0
平均(ヶ月)	17.7	-

■ 職場復帰時の子どもの月齢（父親）

	実数(人)	構成比(%)
1ヶ月	0	0.0
2ヶ月	1	9.1
3ヶ月	1	9.1
4ヶ月	0	0.0
5ヶ月	0	0.0
6ヶ月	1	9.1
7ヶ月	0	0.0
8ヶ月	0	0.0
9ヶ月	0	0.0
10ヶ月	0	0.0
11ヶ月	0	0.0
12ヶ月	0	0.0
13ヶ月以上	0	0.0
無回答	8	72.7
合計	11	100.0
平均(ヶ月)	3.3	-

	実数(人)	構成比(%)
1ヶ月	2	18.2
2ヶ月	0	0.0
3ヶ月	2	18.2
4ヶ月	0	0.0
5ヶ月	0	0.0
6ヶ月	1	9.1
7ヶ月	0	0.0
8ヶ月	0	0.0
9ヶ月	0	0.0
10ヶ月	0	0.0
11ヶ月	0	0.0
12ヶ月	1	9.1
13ヶ月以上	1	9.1
無回答	4	36.4
合計	11	100.0
平均(ヶ月)	8.9	-

(7) 育児休業制度から職場復帰時の子どもの月齢の意向

〈問 29-4〉

育児のために3歳まで休暇を取得できる制度がある場合、職場復帰時の子どもの月齢について、母親の意向としては、「12ヶ月」が24.1%と最も多く、次いで「18ヶ月」（1歳6ヶ月）で11.5%と続きます。

父親の意向としては、11人の回答を得ています。「12ヶ月」が27.3%と多くなっており、父親は回答数が少ないものの、父親（平均15.5ヶ月）の方が母親（14.5ヶ月）よりも、長期間取得への意向がみられます。

■ 3歳まで休暇を取得できる制度があった場合の、職場復帰時の子どもの月齢の意向

【母親】

N=87

	実数(人)	構成比(%)
1ヶ月	0	0.0
2ヶ月	0	0.0
3ヶ月	0	0.0
4ヶ月	1	1.1
5ヶ月	0	0.0
6ヶ月	1	1.1
7ヶ月	0	0.0
8ヶ月	1	1.1
9ヶ月	0	0.0
10ヶ月	0	0.0
11ヶ月	0	0.0
12ヶ月	21	24.1
13ヶ月～17ヶ月	1	1.1
18ヶ月	10	11.5
19ヶ月～23ヶ月	0	0.0
24ヶ月	0	0.0
25ヶ月～29ヶ月	0	0.0
30ヶ月	1	1.1
31ヶ月～35ヶ月	0	0.0
36ヶ月	0	0.0
37ヶ月以上	1	1.1
無回答	50	57.5
合計	87	100.0
平均(ヶ月)	14.5	-

【父親】

N=11

	実数(人)	構成比(%)
1ヶ月	1	9.1
2ヶ月	0	0.0
3ヶ月	1	9.1
4ヶ月	0	0.0
5ヶ月	0	0.0
6ヶ月	1	9.1
7ヶ月	0	0.0
8ヶ月	0	0.0
9ヶ月	0	0.0
10ヶ月	0	0.0
11ヶ月	0	0.0
12ヶ月	3	27.3
13ヶ月～17ヶ月	0	0.0
18ヶ月	0	0.0
19ヶ月～23ヶ月	0	0.0
24ヶ月	0	0.0
25ヶ月～29ヶ月	0	0.0
30ヶ月	0	0.0
31ヶ月～35ヶ月	0	0.0
36ヶ月	1	9.1
37ヶ月以上	1	9.1
無回答	3	27.3
合計	11	100.0
平均(ヶ月)	15.5	-

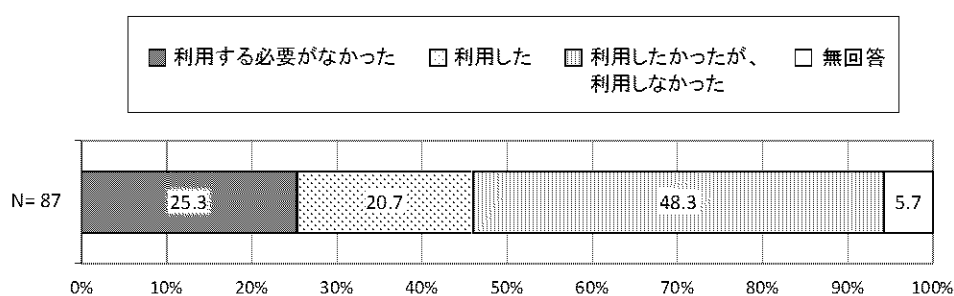
(8) 育児休業制度から職場復帰した時の短時間勤務制度の利用状況

〈問 29-5〉

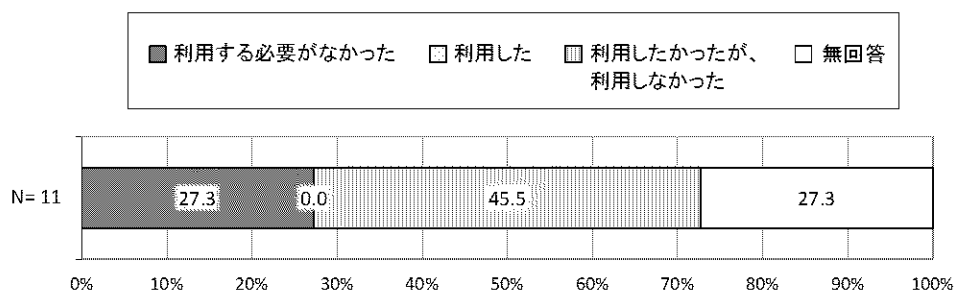
母親の短時間勤務制度の利用状況について、「利用したかったが、利用しなかった」が 48.3% と最も多く、次いで「利用する必要がなかった」(25.3%)、「利用した」(20.7%) となっています。

父親の短時間勤務制度の利用について、「利用したかったが、利用しなかった」が 45.5% と多く、「利用する必要がなかった」(27.3%) となっており、利用したという回答はありません。

■ 短時間勤務制度の利用状況（母親）



■ 短時間勤務制度の利用状況（父親）



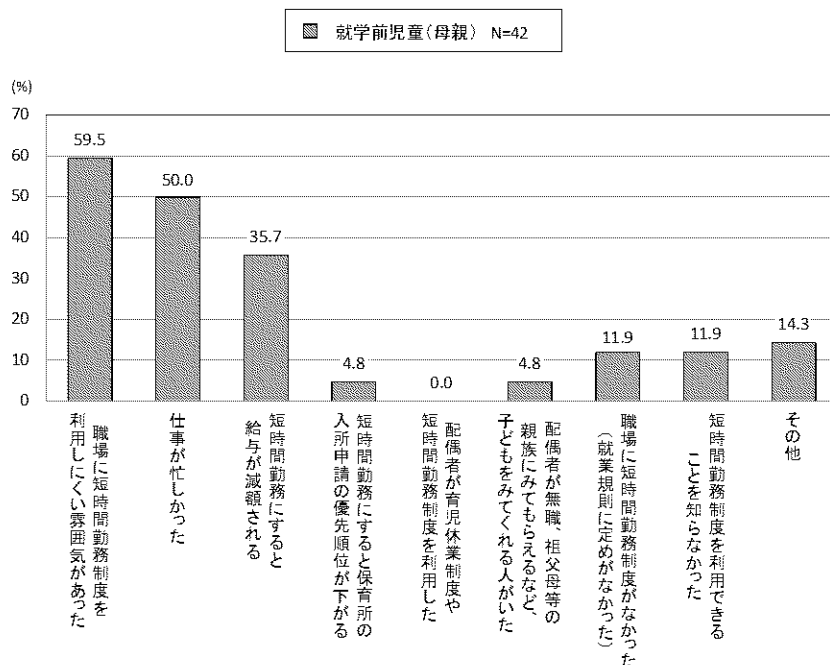
(9) 短時間勤務制度を利用しなかった、できなかった理由（複数回答）

〈問 29-6〉

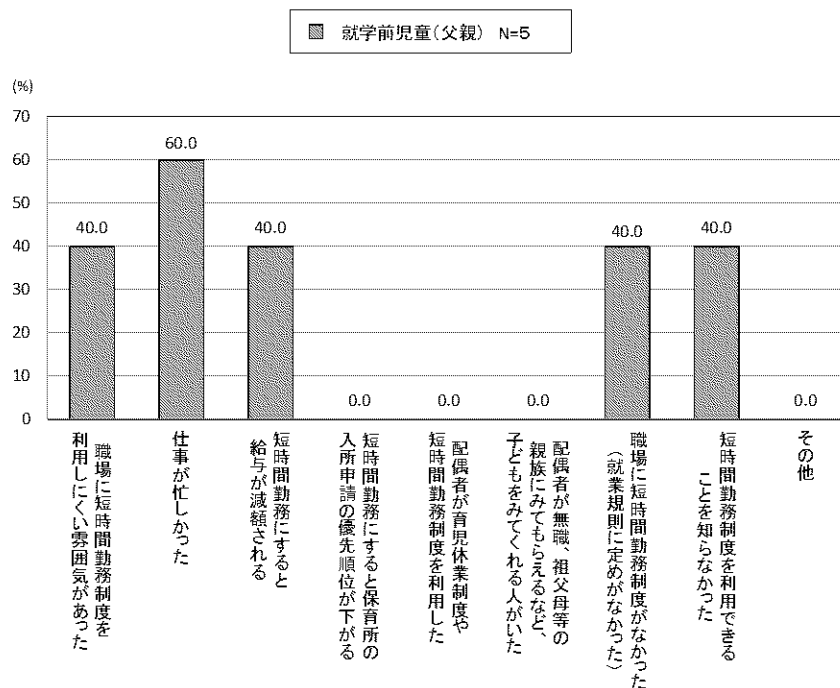
母親の短時間勤務制度を利用していない理由としては、「職場に短時間勤務制度を利用しにくい雰囲気があった」(59.5%)が多く、続いて「仕事が忙しかった」(50.0%)、「短時間勤務にすると給与が減額される」(35.7%)となっています。また、その他として「仕事上、短時間勤務をするのが難しい」、「仕事の上司と相談して働く時間を決めることができるから」といった回答があります。

父親の短時間勤務制度を利用していない理由としては、「仕事が忙しかった」という回答が60.0%と最も高く、「短時間勤務制度を利用できることを知らなかった」という回答もみられます。母親父親ともに職場や仕事が理由となっていることがうかがえます。

■ 短時間勤務制度を利用しなかった、できなかった理由（母親）



■ 短時間勤務制度を利用しなかった、できなかった理由（父親）



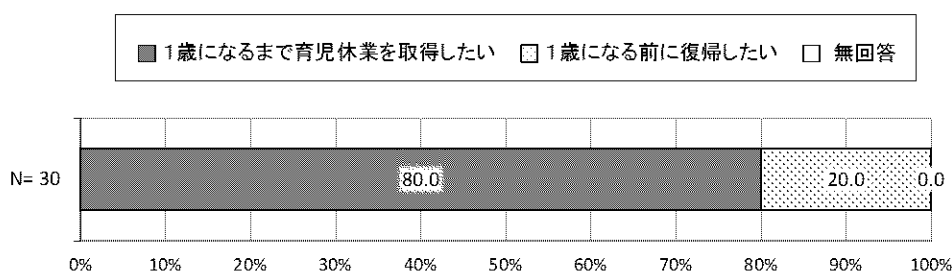
(10) 子どもが1歳までに育児休業制度を取得する意向

〈問29-7〉

子どもが1歳になった時に必ず利用できる事業がある場合、それまでに育児休業を取得することへの母親の意向としては、「1歳になるまで育児休業を取得したい」が80.0%と高い結果となっています。また「1歳になる前に復帰したい」は20.0%になります。

父親の意向は、該当なしとなっています。

■ 1歳まで育児休業取得の意向（母親）



■ 1歳まで育児休業取得の意向（父親）

（該当なし）

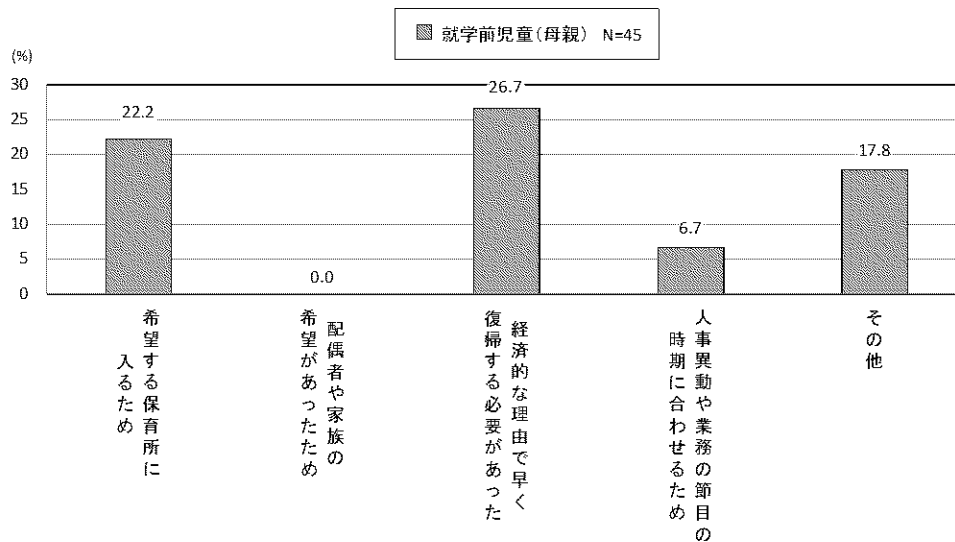
(11) 育児休業制度から、希望の時期に職場復帰しなかった理由（早く復帰）（複数回答）

〈問 29-8(1)〉

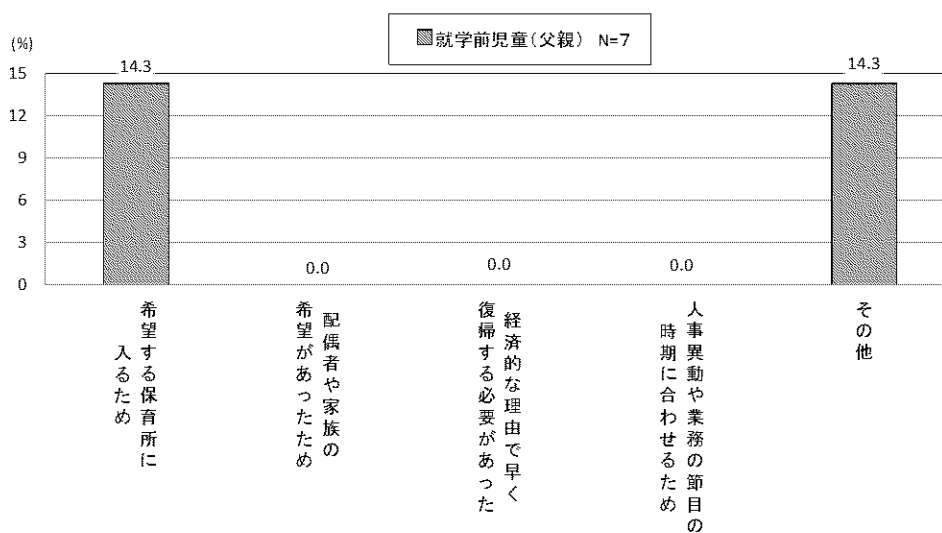
母親の希望より早い時期に職場復帰した理由については、「経済的な理由で早く復帰する必要がある」が26.7%で最も多く、次いで「希望する保育所に入るため」(22.2%)になっています。また、その他として「仕事が忙しかった」、「職場では1年と決まっていたから」、「人手不足のため」といった回答があります。

父親の希望より早い時期に職場復帰した理由については、その他を除くと「希望する保育所に入るため」(14.3%)という回答のみになっています。また、その他として「仕事が忙しかった」という回答がみられます。

■ 「希望」より早く職場復帰した人（母親）



■ 「希望」より早く職場復帰した人（父親）



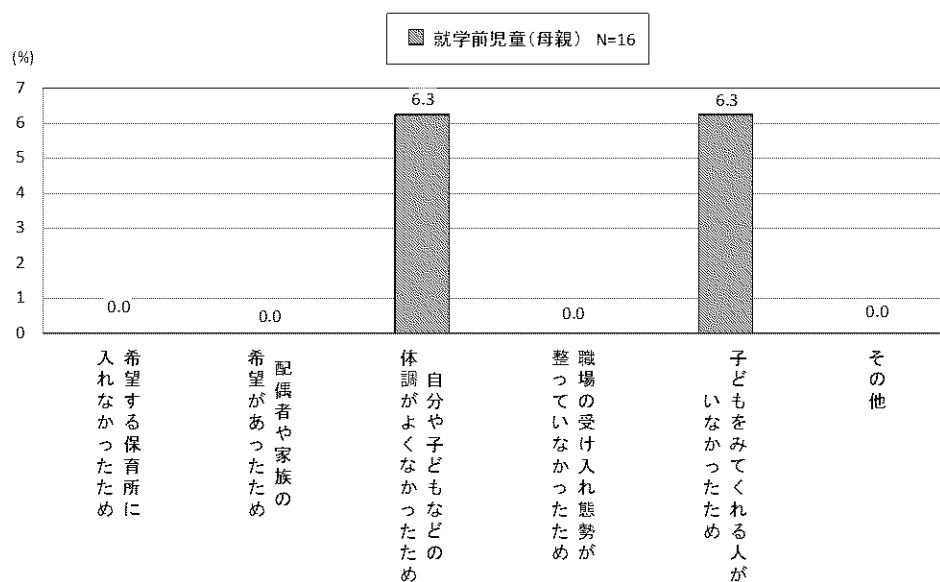
(12) 育児休業制度から、希望の時期に職場復帰しなかった理由（遅く復帰）（複数回答）

〈問 29-8(2)〉

母親が、希望より遅い時期に職場復帰した理由については、「自分や子どもなどの体調がよくなかったため」や「子どもをみてくれる人がいなかったため」がそれぞれ 6.3% という結果になっています。

父親が、希望より遅い時期に職場復帰した人は該当なしです。

■ 「希望」より遅く職場復帰した人（母親）



■ 「希望」より遅く職場復帰した人（父親）

（該当なし）

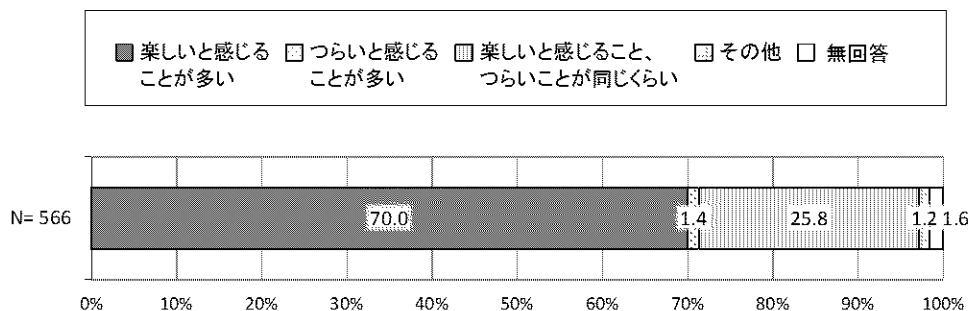
12. 子育てに関する悩みや不安

(1) 子育ての楽しさ

〈問30〉

子育ての楽しさについて、70.0%の人が「楽しいと感じることが多い」と回答しています。次いで「楽しいと感じること、つらいことが同じくらい」(25.8%)、「つらいと感じることが多い」(1.4%)となります。子育てが楽しいと感じている人が多いことが分かります。

■ 子育ての楽しさ



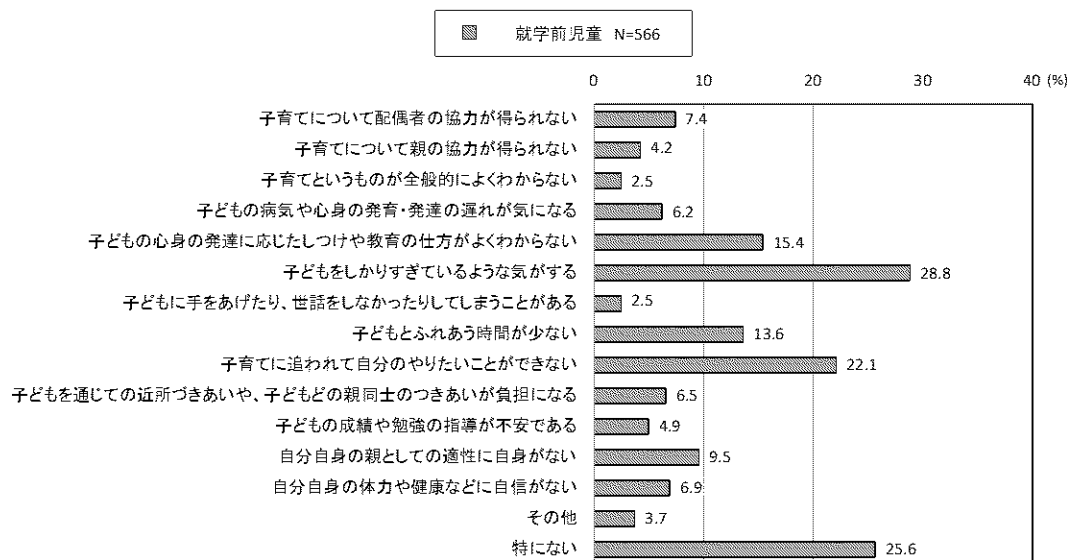
(2) 心理的な子育ての悩み (複数回答)

〈問31〉

心理的な子育ての悩みについては「子どもをしかりすぎているような気がする」(28.8%)が最も高く、「子育てに追われて自分のやりたいことができない」(22.1%)、「子どもの心身の発達に応じたしつけや教育の仕方がよくわからない」(15.4%)と続きます。

「子育てというものが全般的によくわからない」という回答もあることから、子育てについて保護者自身が学ぶ機会の場や子育てをしている保護者同士が集まれる環境が必要と推察されます。

■ 心理的な子育ての悩み

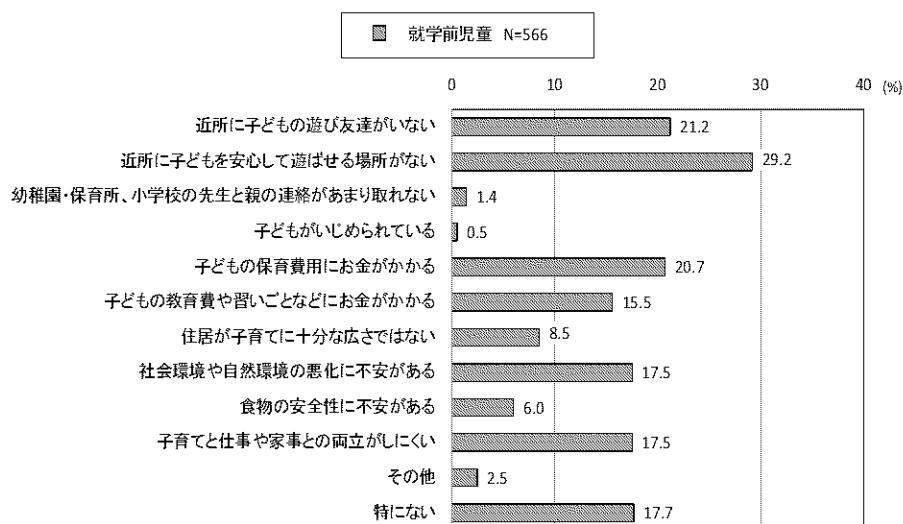


(3) 環境的な子育ての悩み（複数回答）

〈問 32〉

環境的な子育ての悩みに関して「近所に子どもを安心して遊ばせる場所がない」(29.2%)が最も高く、次いで「近所に子どもの遊び友達がいない」(21.2%)、「子どもの保育費用にお金がかかる」(20.7%)と続きます。安心して子どもを遊ばせる場所がないという回答や子育てと仕事や家事との両立がしにくいという回答があることから、地域での人と人とのつながりや子育てをしている人への理解など、さらに深めていく必要があると考えられます。

■ 環境的な子育ての悩み



(4) 仕事と子育ての両立の上で困難と感じること (就労者のみ) (複数回答)

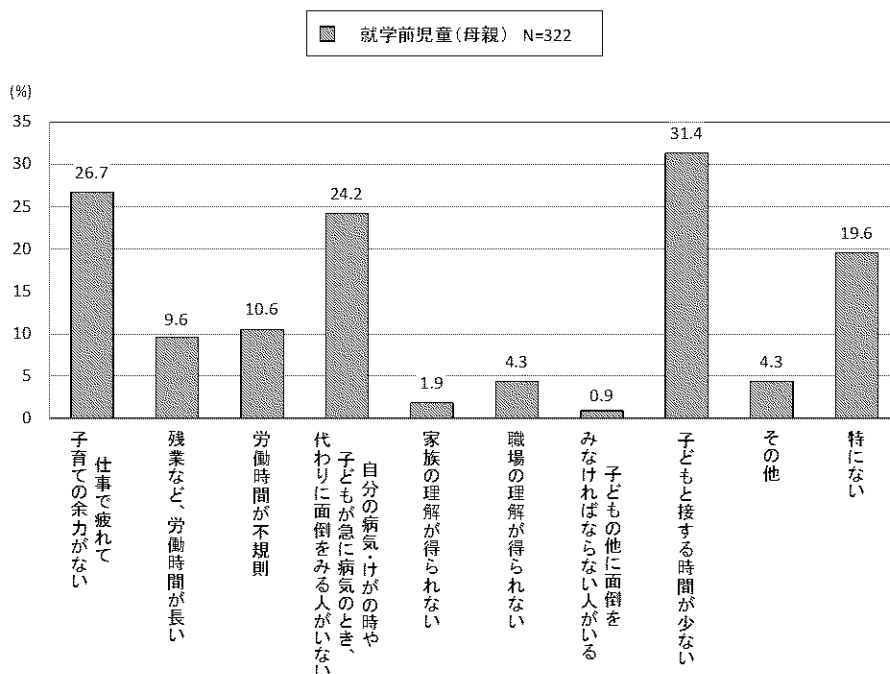
〈問 33〉

母親が仕事と子育てを両立するうえで困難だと感じることに「子どもと接する時間が少ない」(31.4%)が最も高く、「仕事で疲れて子育ての余力がない」(26.7%)となっています。

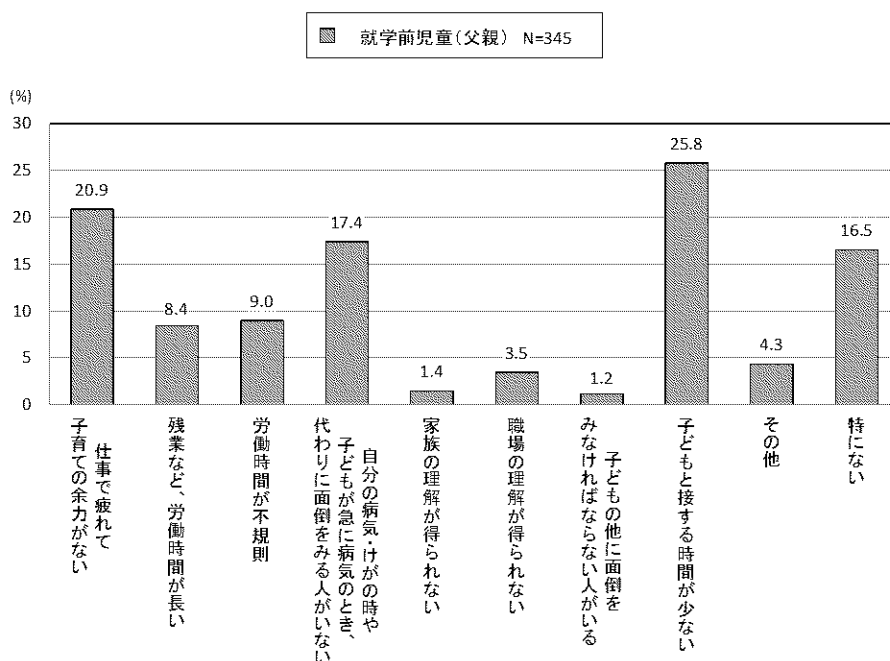
父親では、母親と同様に「子どもと接する時間が少ない」(25.8%)が最も高く、次いで「仕事で疲れて子育ての余力がない」(20.9%)と続きます。

職場の理解が得られないという回答もあることから、職場で子育て支援の制度を利用しやすい環境づくり等、子育てに関して周りのサポートが重要です。

■ 仕事と子育ての両立の上で困難と感じること (母親)



■ 仕事と子育ての両立の上で困難と感じること (父親)



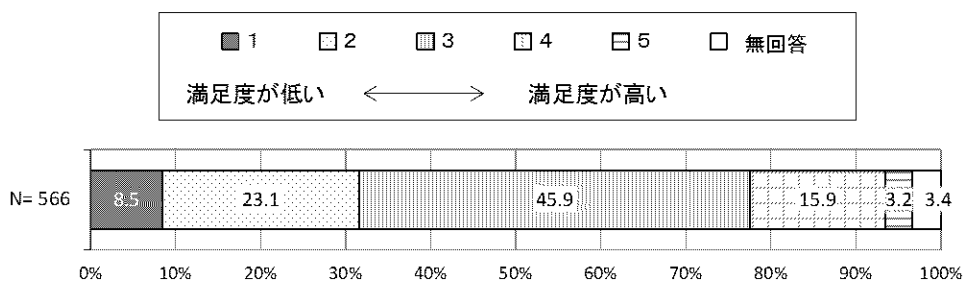
1.3. 中間市の子育て支援

(1) 中間市の子育ての環境や支援の満足度

〈問 34〉

中間市の子育ての環境や支援の満足度について、45.9%の人が5段階評価の「満足度3」と回答しています。次いで「満足度2」(23.1%)、「満足度4」(15.9%)となっており、「満足度5」と回答した人は3.2%みられます。3～5を合わせると65.0%となり、比較的満足している人が多いことがうかがえます。

■ 中間市の子育ての環境や支援の満足度

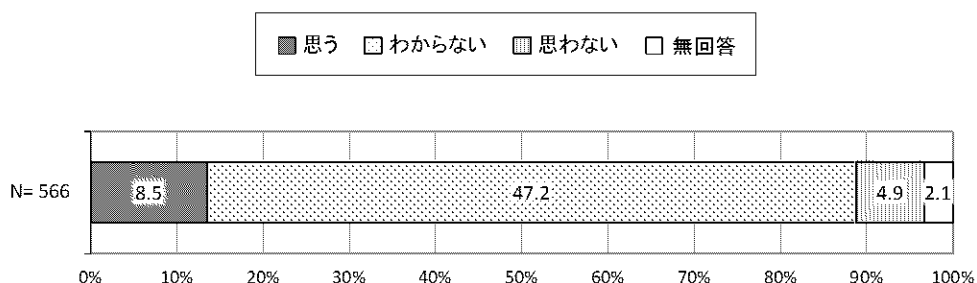


(2) 将来の中間市での子育ての意向

〈問 35〉

将来の中間市での子育ての意向については、「わからない」(47.2%)が高くなっており、今後も育てたいと「思う」(8.5%)と「思わない」(4.9%)を比較すると、「思う」の割合が高くなっています。

■ 今後も中間市で子どもを育てたいと思うか



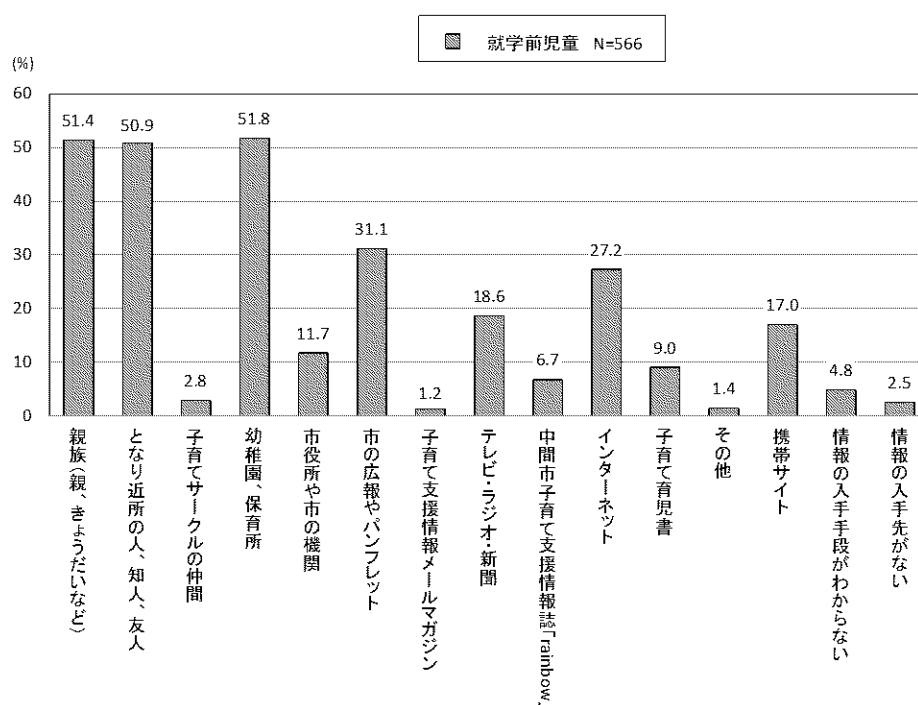
(3) 子育て情報の入手方法

〈問37〉

子育て情報の入手方法については、「幼稚園、保育所」(51.8%)が最も高く、次いで「親族(親、きょうだいなど)」(51.4%)、「となり近所の人、知人、友人」(50.9%)となっており、身近な人から情報を得ている人が多いようです。「中間市の広報やパンフレット」(31.1%)を活用している人も多く、「市役所や市の機関」で情報を入手している人も11.7%となっています。

また、「インターネット」(27.2%)を情報の入手方法としている人もいますが、子育てにおいては孤立しないためにも実際に周りの人の子育てを目で見て、また体験をしながら、周りの人と共有していくことも大切と考えられます。

■ 子育て情報の入手方法



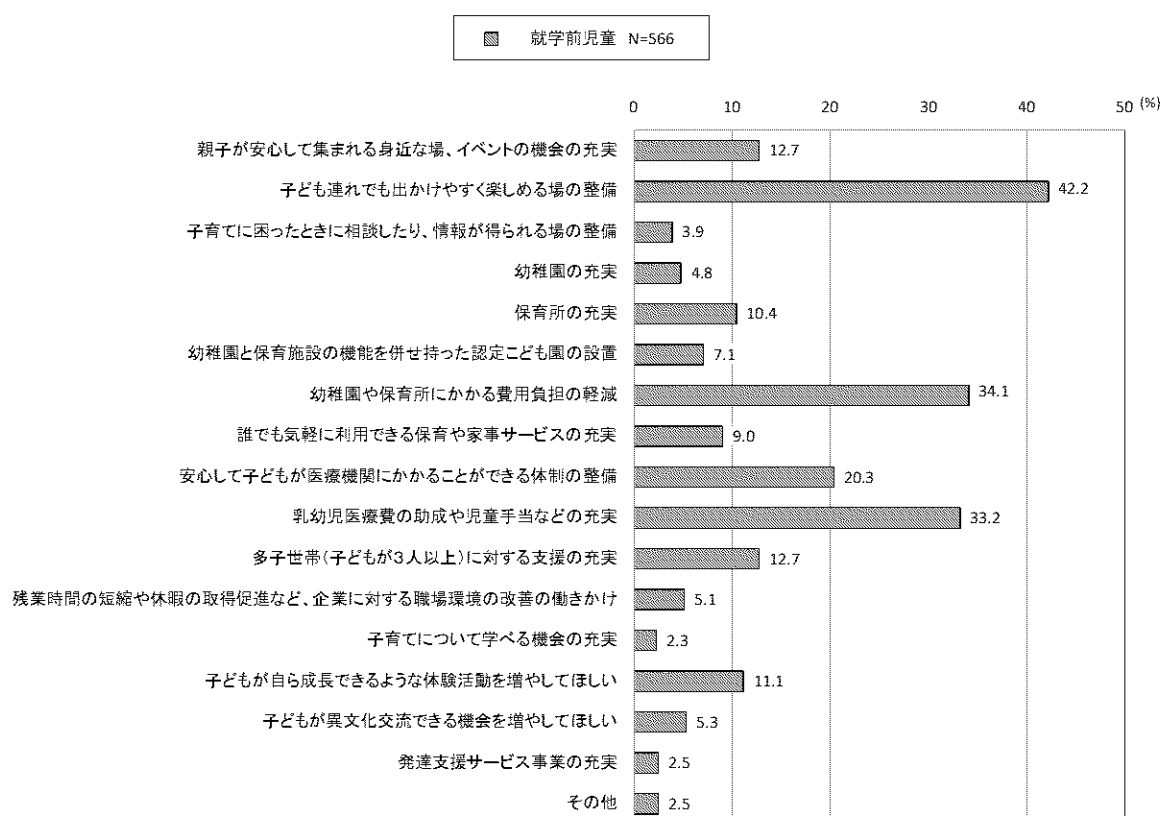
(4) 子育ての充実に望むこと

〈問 38〉

子育て支援の充実にについては「子ども連れでも出かけやすく楽しめる場の整備」(42.2%)、次いで「幼稚園や保育所にかかる費用負担の軽減」(34.1%)、「乳幼児医療費の助成や児童手当などの充実」(33.2%)と続きます。

市や医療機関、保育・教育機関が一体となり、中間市で安心して子育てができるよう、幼稚園や保育所の費用負担軽減や乳幼児医療費の助成についても取り組んでいく必要があると考えられます。

■ 子育ての充実に望むこと



小学生児童

1. お住まいの地域

(1) 住まいの地区について

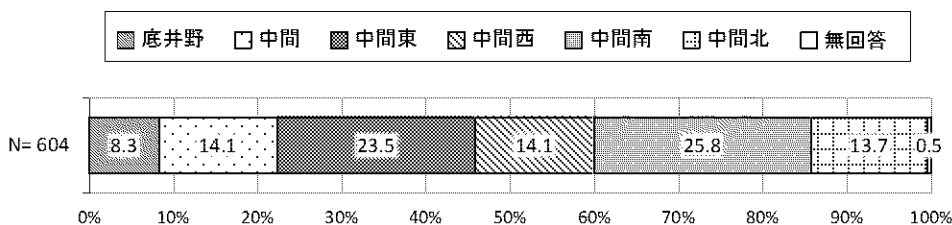
〈問1〉

アンケート調査の対象となった保護者の住まいの地区（小学校区）については、「中間南地区」が25.8%と最も多く、次いで、「中間東地区」（23.5%）、「中間地区」（14.1%）、「中間西地区」（14.1%）となっています。

■ 住まいの地区 N= 604

	実数(人)	構成比(%)
底井野	50	8.3
中間	85	14.1
中間東	142	23.5
中間西	85	14.1
中間南	156	25.8
中間北	83	13.7
無回答	3	0.5
合計	604	100.0

■ 住まいの地区



2. 家族の状況

(1) 子どもの学年

〈問2〉

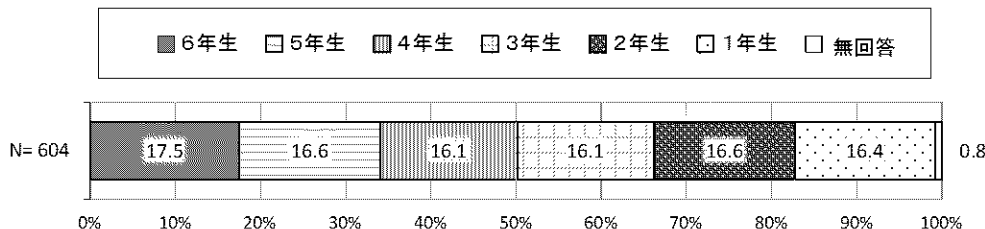
子どもの学年は、「6年生」が106人で全体の17.5%と最も多く、次いで「5年生」と「2年生」が各100人（16.6%）、「1年生」が99人（16.4%）と続いています。低学年（1～3年生）は296人（49.1%）、高学年（4～6年生）は303人（50.2%）となっています。

■ 子どもの学年 N= 604

	実数(人)	構成比(%)
6年生	106	17.5
5年生	100	16.6
4年生	97	16.1
3年生	97	16.1
2年生	100	16.6
1年生	99	16.4
無回答	5	0.8
合計	604	100.0

(平成26年1月現在)

■ 子どもの学年

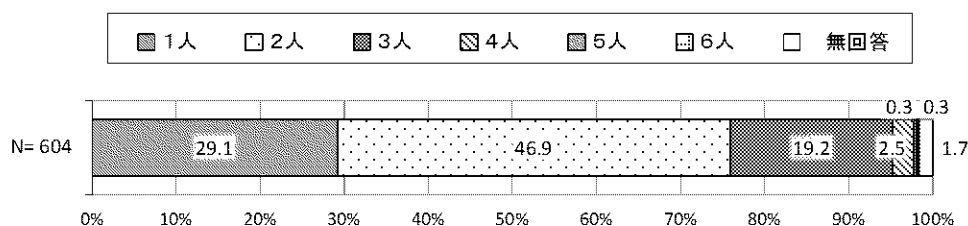


(2) 子どもの人数

〈問3〉

子どもの人数については、「2人」が46.9%と最も多く、全体の約半数を占めています。続いて「1人」(29.1%)、「3人」(19.2%)、「4人」(2.5%)となっています。

■ 子どもの人数



■ 末子の生まれた年

N= 604

	実数(人)	構成比 (%)
13年 (12歳)	54	8.9
14年 (11歳)	52	8.6
15年 (10歳)	68	11.3
16年 (9歳)	53	8.8
17年 (8歳)	60	9.9
18年 (7歳)	60	9.9
19年 (6歳)	17	2.8
20年 (5歳)	0	0.0
21年 (4歳)	0	0.0
22年 (3歳)	0	0.0
23年 (2歳)	0	0.0
24年 (1歳)	0	0.0
25年 (0歳)	2	0.3
無回答	238	39.4
合計	604	100.0

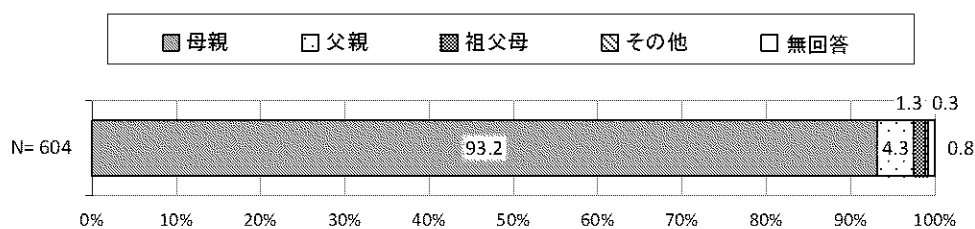
(平成26年1月現在)

(3) 調査票の回答者

〈問4〉

調査票の回答者は、「母親」が93.2%と大多数を占めており、他に「父親」(4.3%)、「祖父母」(1.3%)が回答しています。

■ 調査票の回答者

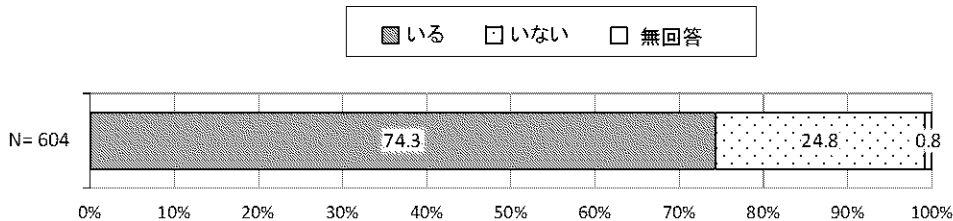


(4) 調査票の回答者の配偶関係

〈問5〉

配偶者がいると回答した人は、74.3%と半数以上を占めており、24.8%の人がいないと回答しています。

■ 回答者の配偶関係

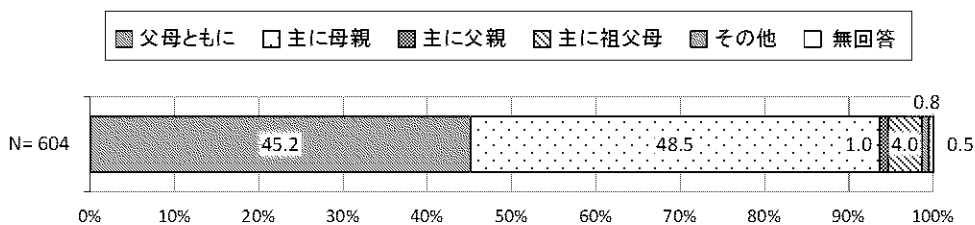


(5) 子どもの子育てを主にしている人

〈問6〉

子どもの子育てを主にしている人については、「主に母親」が48.5%と最も多く、次いで「父母ともに」が45.2%となっています。「主に母親」もしくは「父母ともに」が子どもの子育てをしている家庭は全体の93.7%を占めています。

■ 子どもの子育てを主にしている人



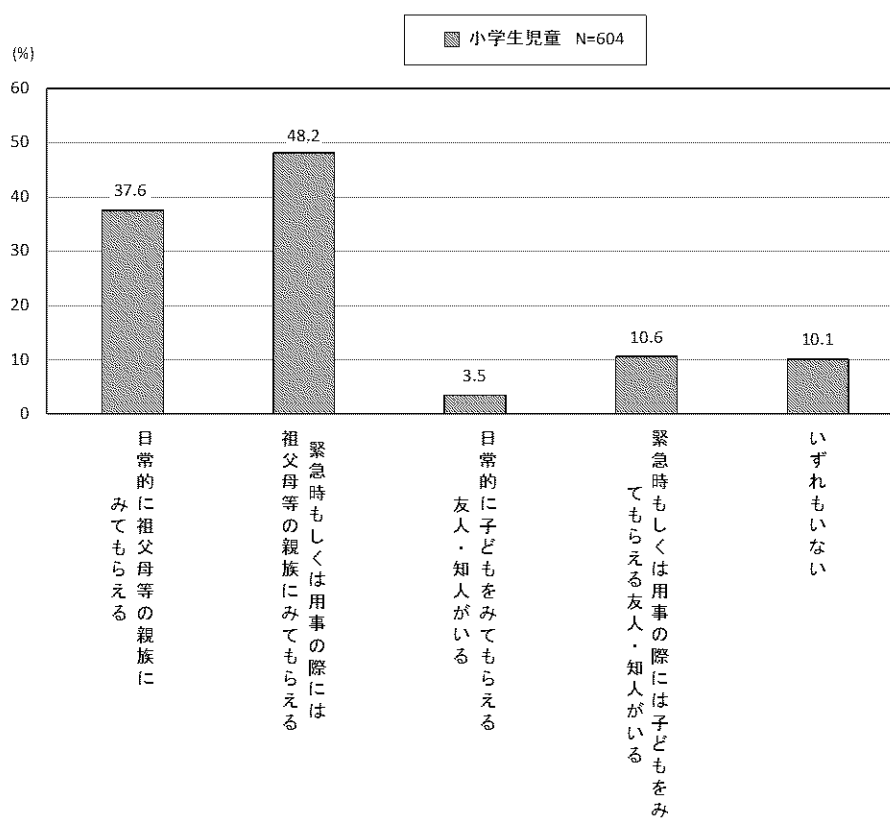
3. 子どもの育ちをめぐる環境

(1) 子どもをみてもらえる親族・知人（複数回答）

〈問7〉

子どもをみてもらえる親族・知人については、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等にみてもらえる」と答えた人が48.2%と最も多く、「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」（37.6%）に続きます。また、10.1%が子どもを見てもらえる人が「いずれもない」と回答しています。

■ 子どもをみてもらえる親族・知人

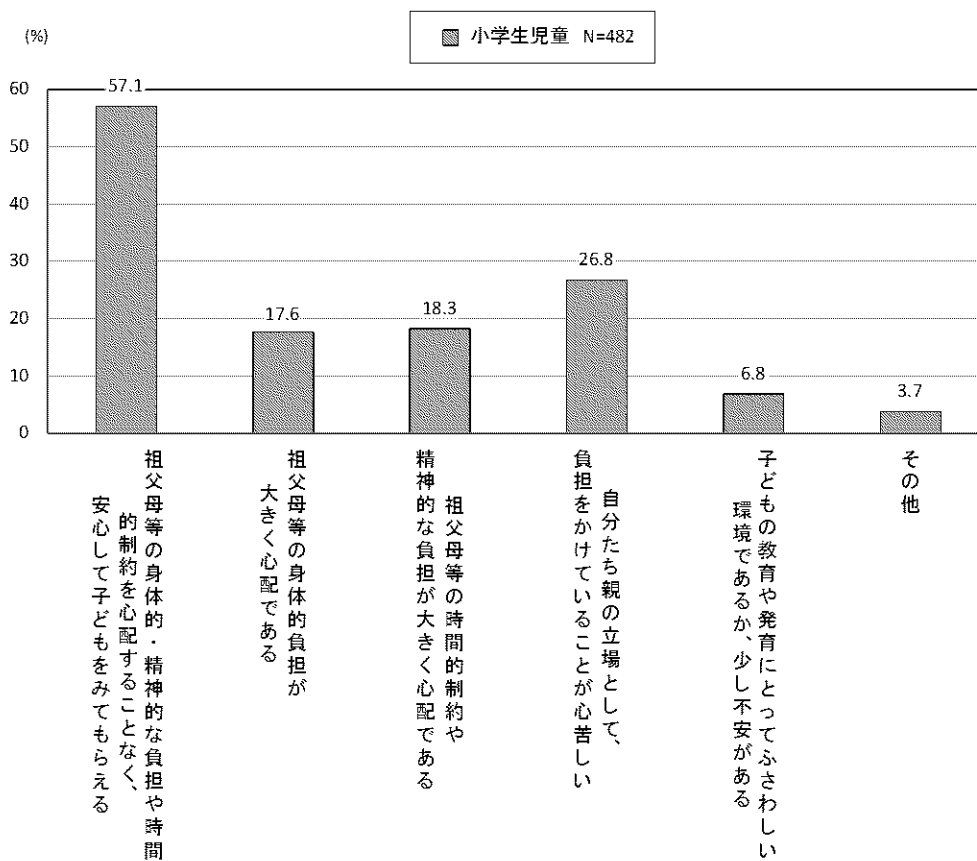


(2) 祖父母等の親戚に子どもをみてもらっている状況 (複数回答)

〈問 7-1〉

祖父母等の親戚に子どもをみてもらっている状況について、「祖父母等の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」と回答した人が57.1%と最も多くなっています。また、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」(26.8%)、「祖父母等の時間的制約や精神的な負担が大きく、心配である」(18.3%)、「祖父母等の身体的負担が大きく心配である」(17.6%)という回答も比較的多くみられます。

■ 親戚に子どもをみてもらっている状況

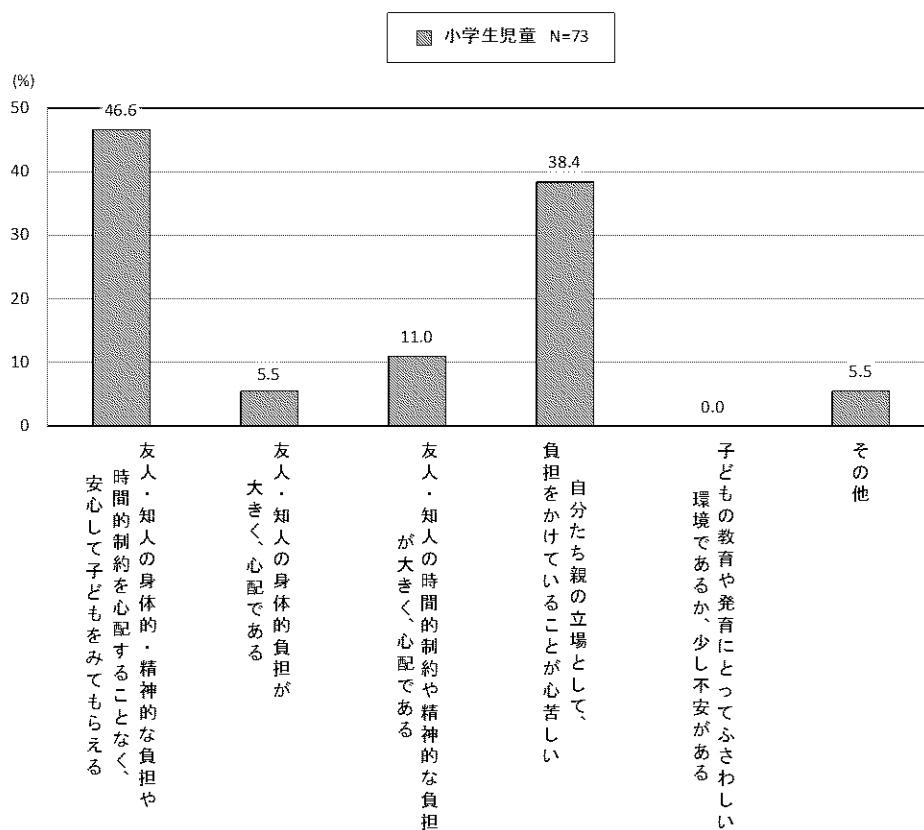


(3) 友人・知人に子どもをみてもらっている状況（複数回答）

〈問 7-2〉

友人・知人に子どもをみてもらっている状況について、祖父母に預ける場合と同様に「友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」と回答した人が46.6%と最も多くなっており、次いで「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」（38.4%）、「友人・知人の時間的制約や精神的な負担が大きく、心配である」（11.0%）となっています。

■ 友人・知人に子どもをみてもらっている状況

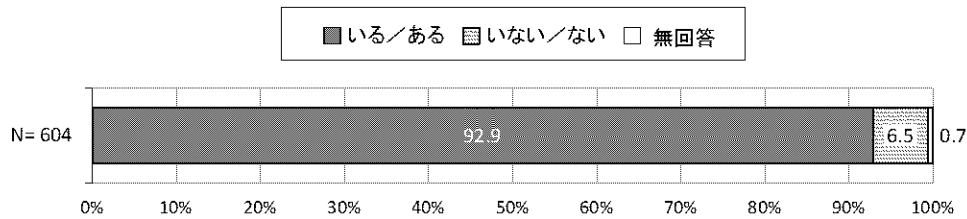


(4) 子育ての相談ができる人や場所の有無

〈問 8〉

子育てに関する相談ができる人や場所の有無について、気軽な相談先があると回答した人が、92.9%を占めており、6.5%が相談先がないと回答しています。

■ 子育ての相談ができる人や場所の有無

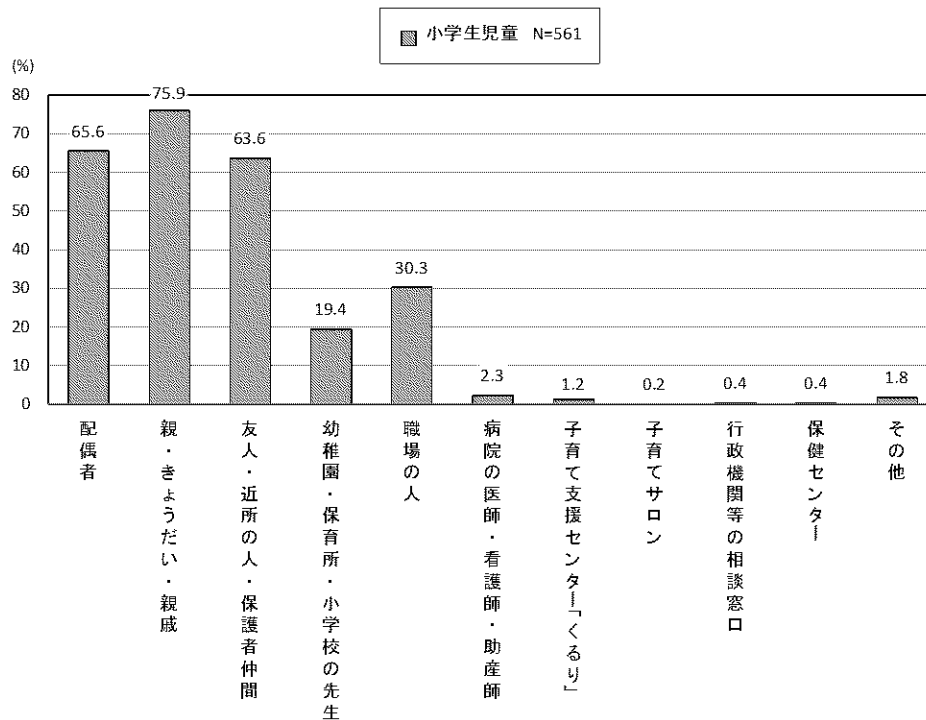


(5) 子育ての相談ができる人・機関等（複数回答）

〈問 8-1〉

子育ての相談が気軽にできる人・機関等については、「親・きょうだい・親戚」(75.9%)、「配偶者」(65.6%)、「友人・近所の人・保護者仲間」(63.6%)と、身近な人を主な相談相手としてあげています。「職場の人」(30.3%)や「幼稚園・保育所・小学校の先生」(19.4%)に相談している保護者もみられますが、子育て支援センターなどの子育て支援機関や行政機関等の相談窓口という回答は1.2%以下と低くなっています。

■ 子育ての相談ができる人・機関等



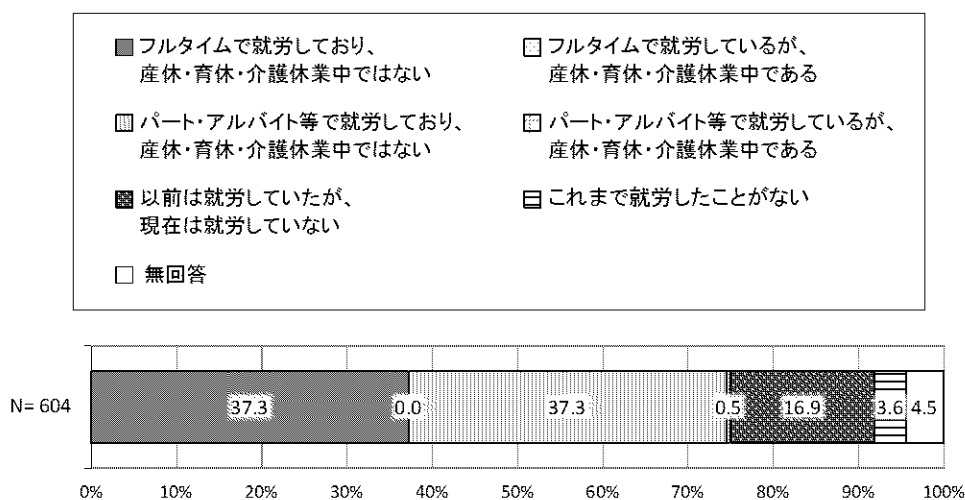
4. 保護者の就労状況

(1) 保護者の就労状況

〈問10〉

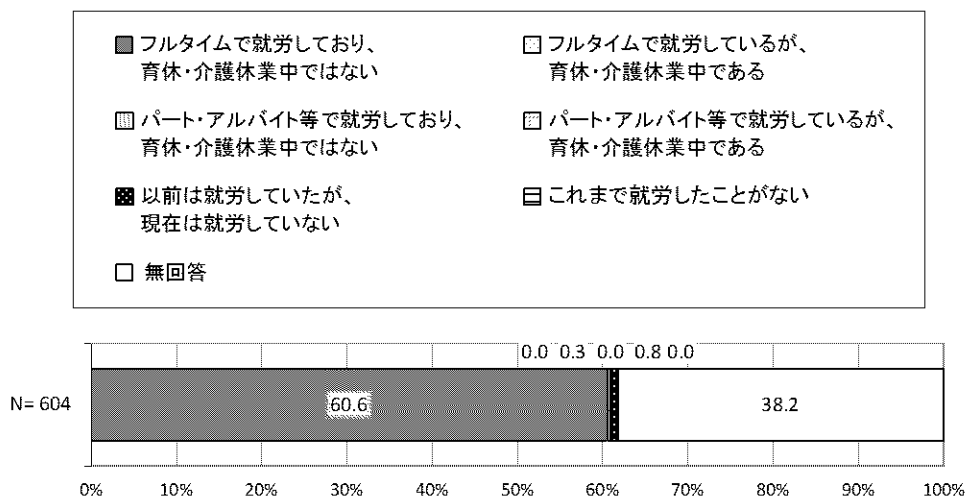
母親の就労状況としては、「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」、(37.3%)、「パート・アルバイト等で就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」(37.3%)の割合が高く(合わせて74.6%)、就労率が高いことがうかがえます。また、「以前は就労していたが、現在は就労していない」は16.9%となっています。

■ 就労状況 (母親)



父親の就労状況としては、「フルタイムで就労しており、育休・介護休業中ではない」が最も多く、60.6%となっています。

■ 就労状況 (父親)

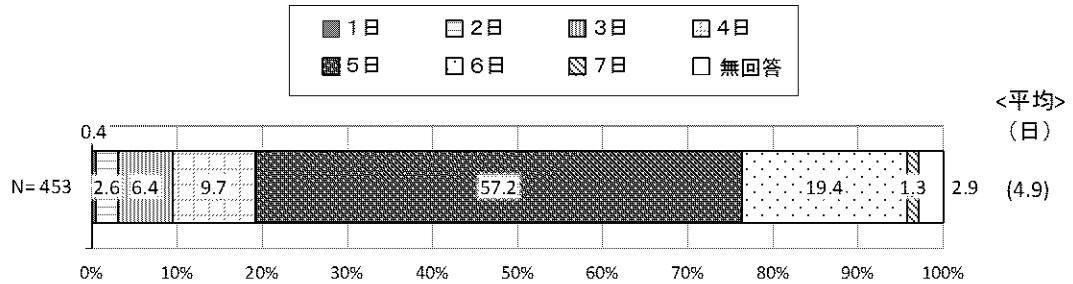


(2) 就労している保護者の1週あたりの「就労日数」、1日あたりの「就労時間」

〈問 10-1〉

就労している母親の1週あたりの就労日数として最も多かったのは「5日間」(57.2%)、次いで「6日間」(19.4%)であり、平均で4.9日間となっています。また、1日あたりの就労時間として最も多かったのは「8時間～9時間未満」(28.7%)であり、平均で7.1時間となっています。

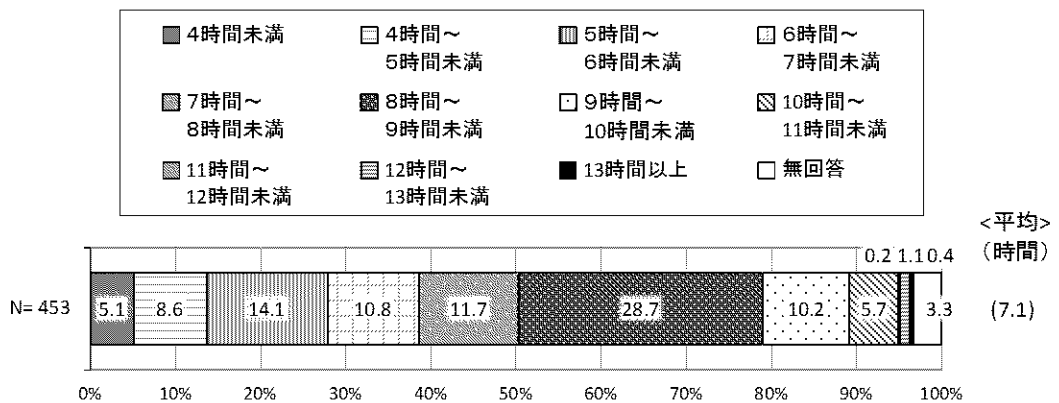
■ 1週あたりの「就労日数」(母親)



N= 453

	実数(人)	構成比(%)
1日	2	0.4
2日	12	2.6
3日	29	6.4
4日	44	9.7
5日	259	57.2
6日	88	19.4
7日	6	1.3
無回答	13	2.9
合計	453	100.0
平均(日)	4.9	-

■ 1日あたりの「就労時間」(母親)

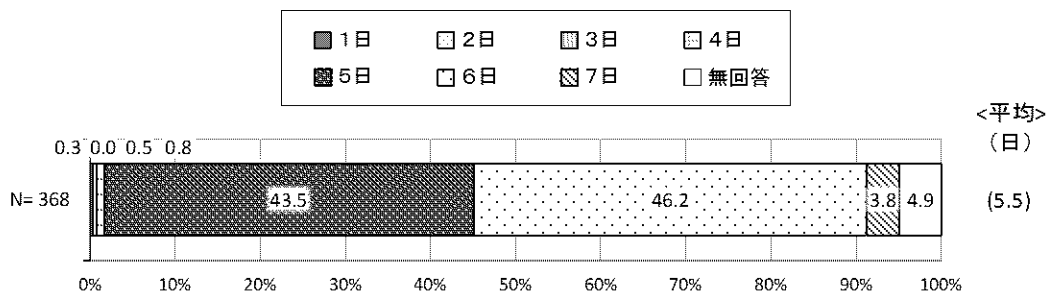


N= 453

	実数(人)	構成比(%)
4時間未満	23	5.1
4時間～5時間未満	39	8.6
5時間～6時間未満	64	14.1
6時間～7時間未満	49	10.8
7時間～8時間未満	53	11.7
8時間～9時間未満	130	28.7
9時間～10時間未満	46	10.2
10時間～11時間未満	26	5.7
11時間～12時間未満	1	0.2
12時間～13時間未満	5	1.1
13時間以上	2	0.4
無回答	15	3.3
合計	453	100.0
平均(時間)	7.1	-

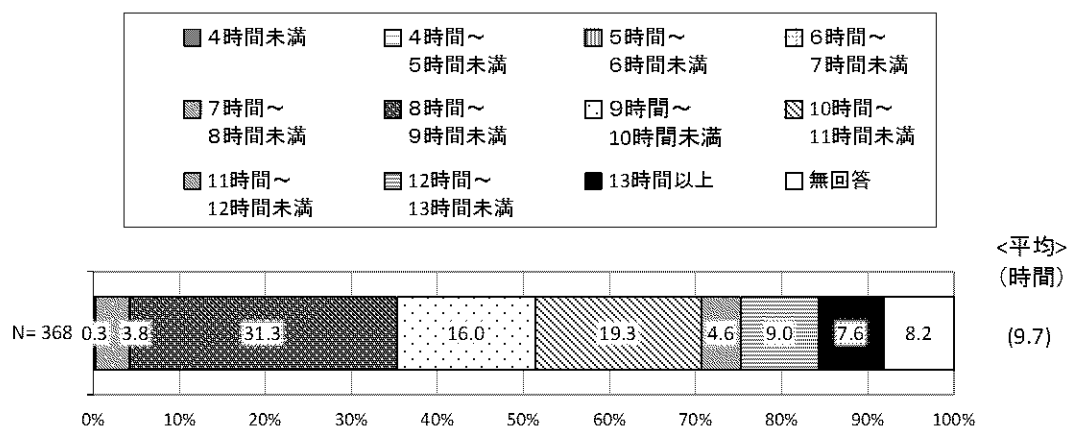
就労している父親の1週あたりの就労日数として最も多かったのは「6日間」(46.2%)、次いで「5日間」(43.5%)であり、平均で5.5日間となっています。また、1日あたりの就労時間として最も多かったのは「8時間～9時間」(31.3%)であり、平均で9.7時間となっています。

■ 1週あたりの「就労日数」(父親)



N= 368		
	実数(人)	構成比(%)
1日	1	0.3
2日	0	0.0
3日	2	0.5
4日	3	0.8
5日	160	43.5
6日	170	46.2
7日	14	3.8
無回答	18	4.9
合計	368	100.0
平均(日)	5.5	-

■ 1日あたりの「就労時間」(父親)



N= 368		
	実数(人)	構成比(%)
4時間未満	0	0.0
4時間～5時間未満	0	0.0
5時間～6時間未満	1	0.3
6時間～7時間未満	0	0.0
7時間～8時間未満	14	3.8
8時間～9時間未満	115	31.3
9時間～10時間未満	59	16.0
10時間～11時間未満	71	19.3
11時間～12時間未満	17	4.6
12時間～13時間未満	33	9.0
13時間以上	28	7.6
無回答	30	8.2
合計	368	100.0
平均(時間)	9.7	-

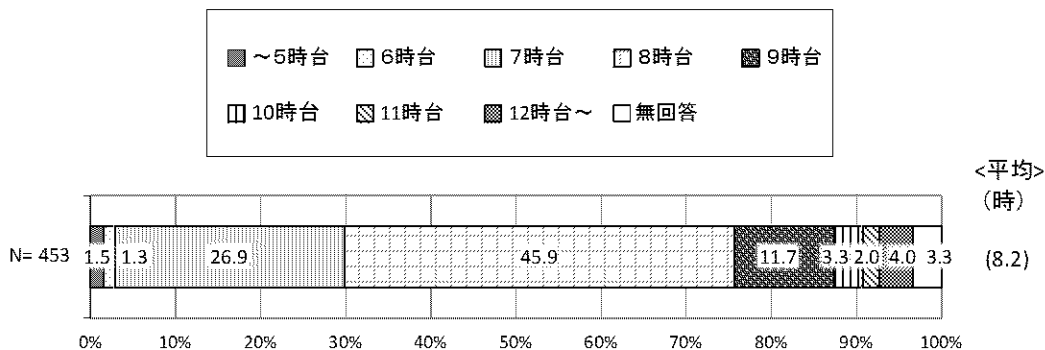
(3) 就労している保護者の家を出る時間と帰宅時間

〈問10-2〉

母親の家を出る時間は「8時台」が45.9%と最も多く、続いて「7時台」(26.9%)、「9時台」(11.7%)となり、平均で8時10分頃となっています。

帰宅時間は「～16時台」が35.3%と最も多く、続いて「18時台」(24.7%)、「17時台」(24.1%)となり、18時台以前に帰宅している母親は84.1%を占め、平均は16時20分頃となっています。中には、23時以降の帰宅が0.7%みられます。

■ 家を出る時間（母親）

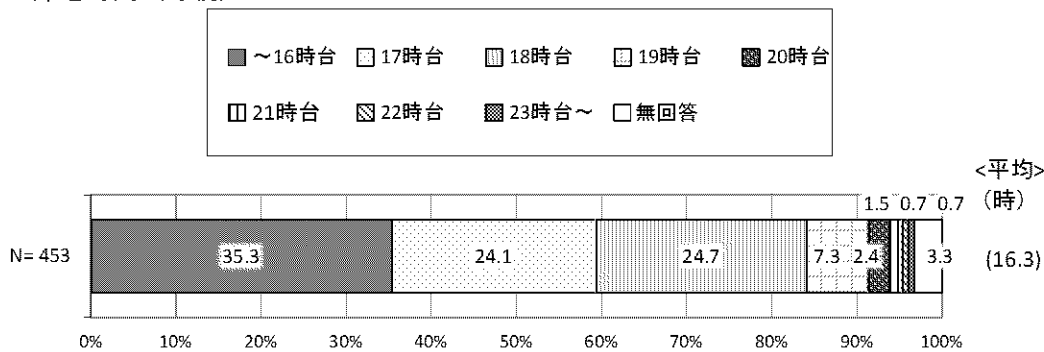


<平均>
(時)
(8.2)

N = 453

	実数(人)	構成比(%)
～5時台	7	1.5
6時台	6	1.3
7時台	122	26.9
8時台	208	45.9
9時台	53	11.7
10時台	15	3.3
11時台	9	2.0
12時台～	18	4.0
無回答	15	3.3
合計	453	100.0
平均(時)	8.2	-

■ 帰宅時間（母親）



<平均>
(時)
(16.3)

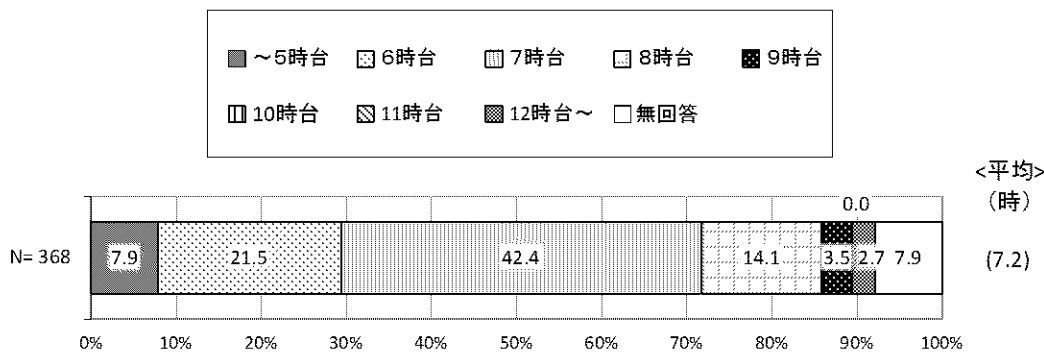
N = 453

	実数(人)	構成比(%)
～16時台	160	35.3
17時台	109	24.1
18時台	112	24.7
19時台	33	7.3
20時台	11	2.4
21時台	7	1.5
22時台	3	0.7
23時台～	3	0.7
無回答	15	3.3
合計	453	100.0
平均(時)	16.3	-

父親の家を出る時間は「7時台」が42.4%と最も多く、続いて「6時台」(21.5%)、「8時台」(14.1%)となり、平均で7時10分頃となっています。

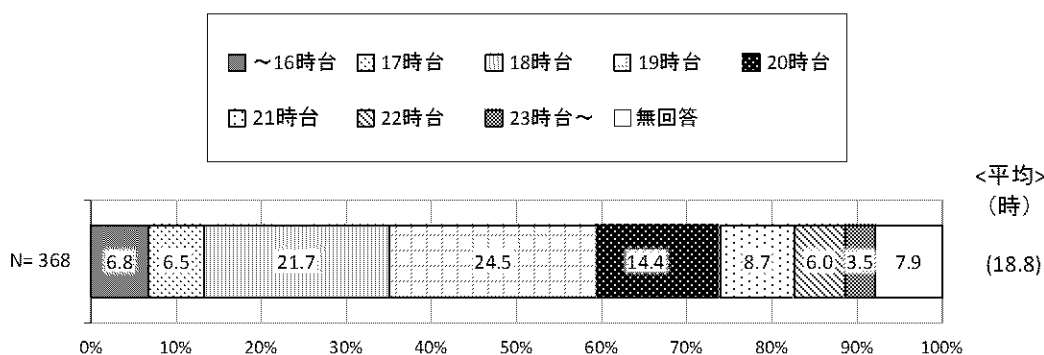
帰宅時間は「19時台」が24.5%と最も多く、続いて「18時台」(21.7%)、「20時台」(14.4%)、「21時台」(8.7%)となり、18～21時台で69.3%を占め、平均で18時50分頃となっています。23時以降の帰宅は3.5%みられます。

■ 家を出る時間（父親）



	実数(人)	構成比(%)
～5時台	29	7.9
6時台	79	21.5
7時台	156	42.4
8時台	52	14.1
9時台	13	3.5
10時台	0	0.0
11時台	0	0.0
12時台～	10	2.7
無回答	29	7.9
合計	368	100.0
平均(時)	7.2	-

■ 帰宅時間（父親）



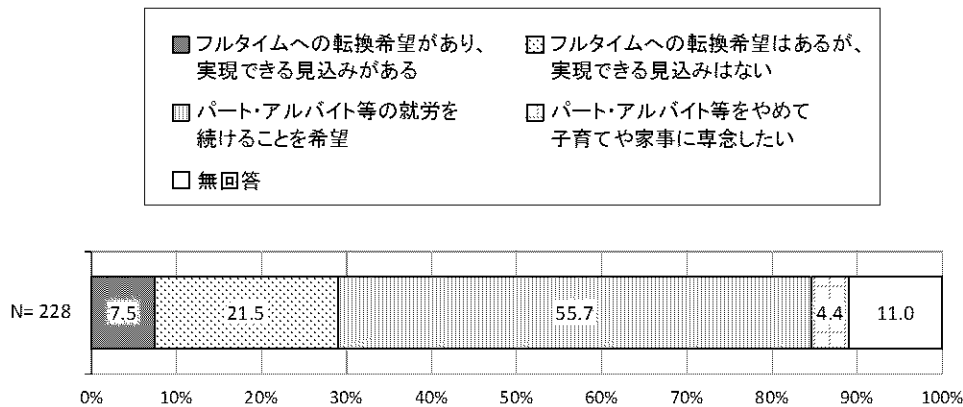
	実数(人)	構成比(%)
～16時台	25	6.8
17時台	24	6.5
18時台	80	21.7
19時台	90	24.5
20時台	53	14.4
21時台	32	8.7
22時台	22	6.0
23時台～	13	3.5
無回答	29	7.9
合計	368	100.0
平均(時)	18.8	-

(4) 就労している保護者のフルタイムへの転換希望（パートタイム、アルバイト等）

〈問11〉

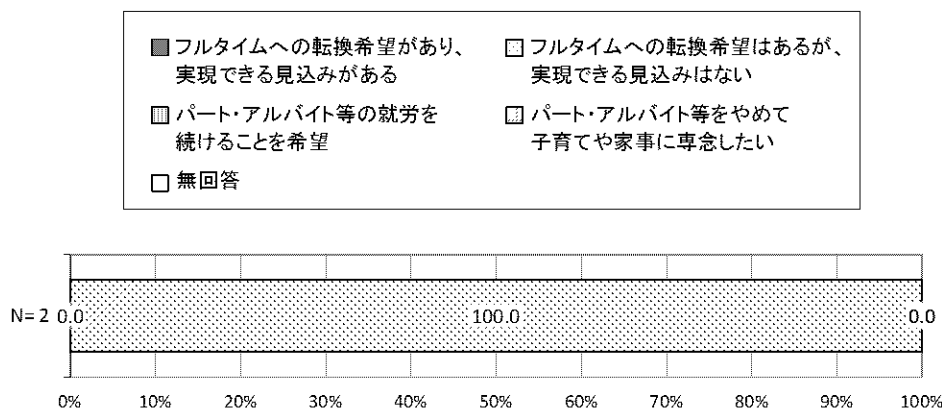
パートタイム・アルバイト等として就労している母親について、「フルタイムへの転換希望があり、実現できる見込みがある」(7.5%)、「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」(21.5%)を合わせた29.0%がフルタイムへの転換希望があると回答しています。また、現状のまま「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が55.7%と最も多い回答となっています。

■ フルタイムへの転換希望（母親）



パートタイム・アルバイト等として就労している父親は少ないのですが、2人の回答を得ています。就労形態の転換希望としては、「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」(100.0%)と回答しています。

■ フルタイムへの転換希望（父親）



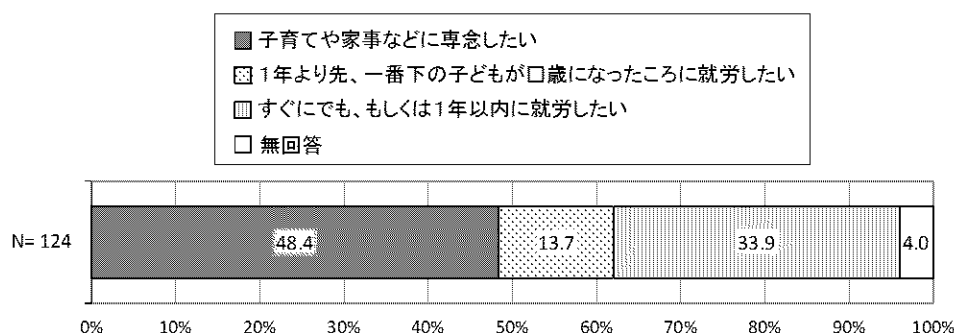
(5) 就労していない、またはこれまで就労したことがない保護者の就労希望

〈問 12〉

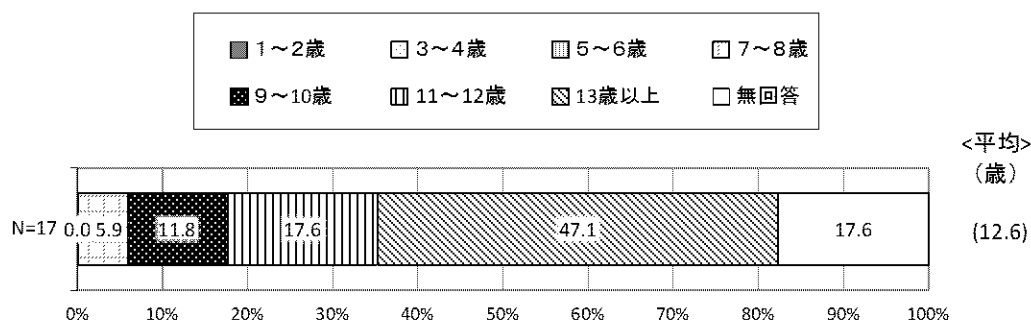
現在就労していない母親について、「子育てや家事などに専念したい」と回答した母親が 48.4 と約半数を占めています。また、「1 年より先、一番下の子どもが〇歳になったところに就労したい」(13.7%)、「すぐにでも、もしくは1 年以内に就労したい」(33.9%) と合わせて 47.6%の母親は就労を希望していることがうかがえます。

子どもが何歳を迎えたら就労を希望するかを調査した結果、「13 歳以上」(47.1%)、「11～12 歳」(17.6%) と合わせて 64.7%の母親が子どもが 11 歳以上で就労を希望すると回答しています。また、平均は 12.6 歳となっています。

■ 就労希望（母親）

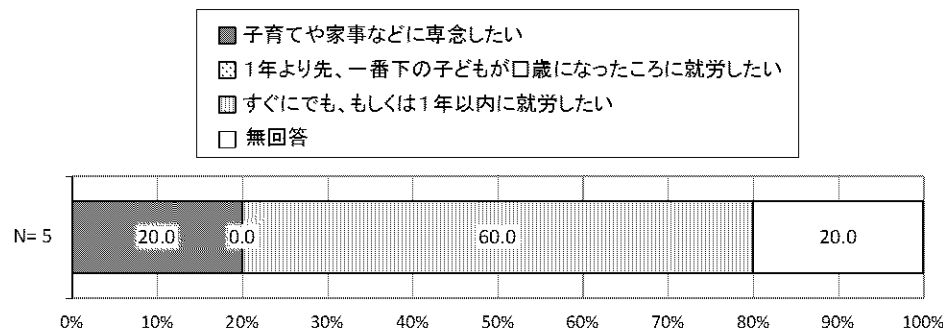


■ 子どもが何歳を迎えた時に就労を希望するか（母親）



現在就労していない父親について、「すぐにでも、もしくは1 年以内に就労したい」と回答した父親が全体の 60.0%を占めています。「子育てや家事などに専念したい」と回答している父親は 20.0%みられます。

■ 就労希望（父親）



■ 子どもが何歳を迎えた時に就労を希望するか（父親）

(該当なし)

(6) 就労を希望する保護者の就労希望形態

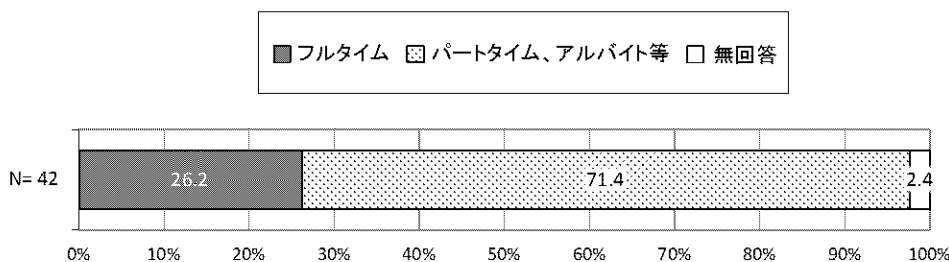
〈問12〉

母親の希望する就労形態は、「パートタイム・アルバイト等」が最も多く 71.4%で、次いで「フルタイム」(26.2%) となっています。

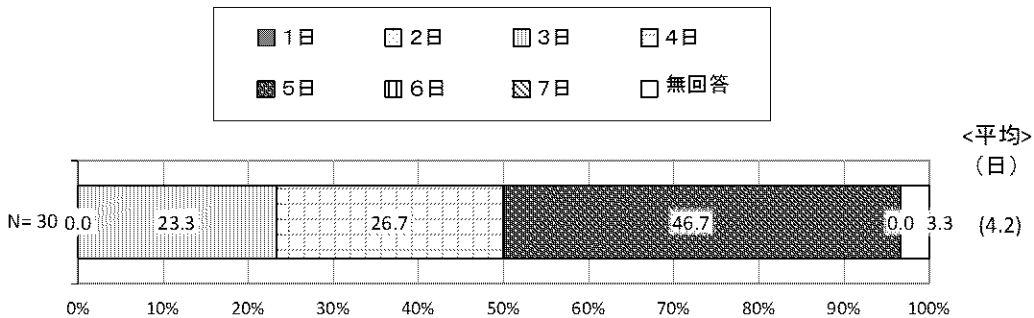
母親のパートタイム・アルバイト等として希望する就労日数は多い順に、「5日」(46.7%)、「4日」(26.7%)、「3日」(23.3%) で、平均は4.2日となっています。

母親のパートタイム・アルバイト等として希望する就労時間は多い順に、「5時間～6時間未満」(50.0%)、「6時間～7時間未満」(30.0%)、「4時間～5時間未満」(13.3%) で、平均は5時間10分となっています。

■ 希望する就労形態 (母親)



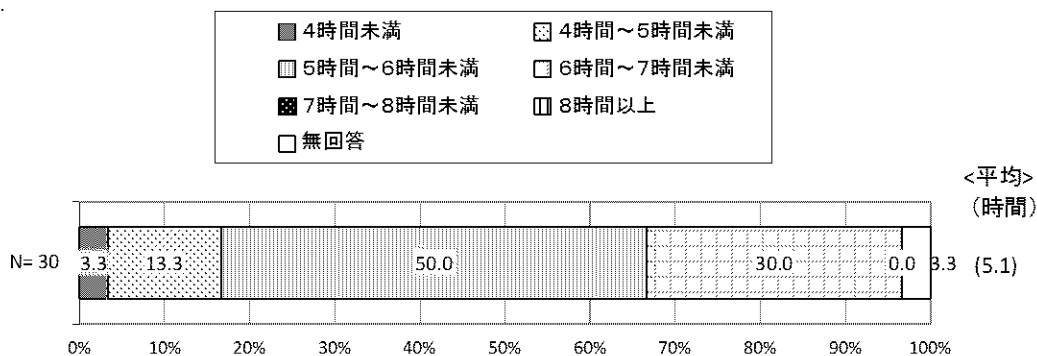
■ パートタイム・アルバイト等として希望する就労日数(母親)



N= 30

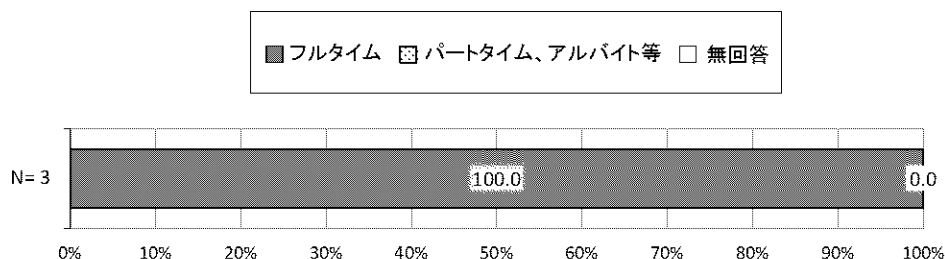
	実数(人)	構成比(%)
1日	0	0.0
2日	0	0.0
3日	7	23.3
4日	8	26.7
5日	14	46.7
6日	0	0.0
7日	0	0.0
無回答	1	3.3
合計	30	100.0
平均(日)	4.2	-

■ パートタイム・アルバイト等として希望する就労時間数（母）



父親の希望する就労形態は、「フルタイム」(100.0%) となっています。

■ 希望する就労形態（父親）



■ パートタイム・アルバイト等として希望する就労日数(父親)
(該当なし)

■ パートタイム・アルバイト等として希望する就労時間数（父）
(該当なし)

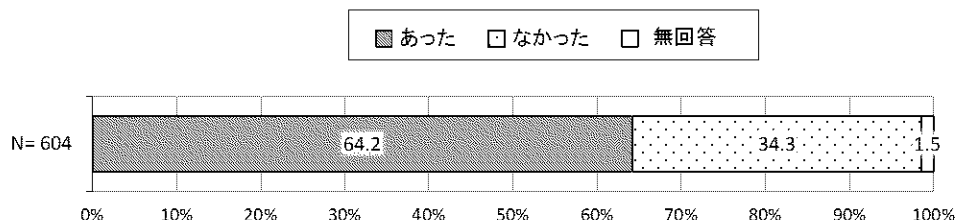
5. 病気の際の対応

(1) 病気やケガで子どもが学校を休んだこと

〈問 13〉

過去1年間で子どもが病気やケガで学校を休んだことがある割合は、全体の64.2%となっています。

■ 病気やケガで子どもが学校を休んだこと

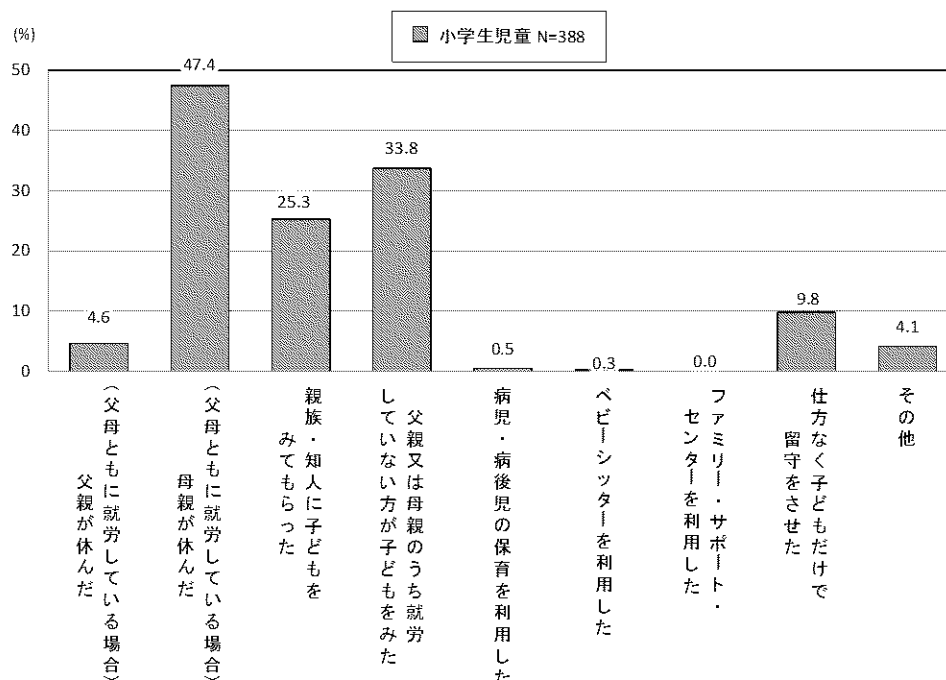


(2) 病気やケガで学校を休んだ場合の対処方法 (複数回答)

〈問 13-1〉

子どもが病気やケガで学校を休んだ場合の対処方法として、「母親が休んだ」が47.4%と最も多く、次いで「父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた」(33.8%)、「親族・知人に子どもをみてもらった」(25.3%)となっています。「仕方なく子どもだけで留守番をさせた」という回答も9.8%みられます。

■ 病気やケガで学校を休んだ場合の対処方法 (過去1年間)



(3) 病気やケガで学校を休んだ場合の対処日数

〈問 13-1〉

子どもが病気やケガで学校を休んだ場合に対処した年間日数について、対処方法別にみると「母親が休んだ」が平均 4.3 日、「父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた」が平均 7.2 日、「親族・知人に子どもをみてもらった」が平均 5.1 日となっています。

また、「仕方なく子どもだけで留守番をさせた」は平均 3.0 日となっています。

■ 病気やケガで学校を休んだ場合の年間日数（対処方法別）

N=388

	サンプル数 (人)	実数(人)								平均(日)
		1～5日	6～10日	11～15日	16～20日	21～30日	31～40日	41日以上	無回答	
〈父母ともに就労している場合〉父親が休んだ	18	13	1	0	0	0	0	0	4	2.9
〈父母ともに就労している場合〉母親が休んだ	184	139	27	2	0	1	1	0	14	4.3
親族・知人に子どもをみてもらった	98	63	21	1	4	0	0	0	9	5.1
父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた	131	100	13	2	2	0	1	1	12	7.2
病児・病後児の保育を利用した	2	1	1	0	0	0	0	0	0	6.0
ベビーシッターを利用した	1	0	1	0	0	0	0	0	0	10.0
ファミリー・サポート・センターを利用した	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
仕方なく子どもだけで留守番をさせた	38	30	5	0	0	0	0	0	3	3.0
その他	16	9	1	0	2	0	0	1	3	10.5
	サンプル 構成比 (%)	構成比(%)								
〈父母ともに就労している場合〉父親が休んだ	4.6	72.2	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	22.2	
〈父母ともに就労している場合〉母親が休んだ	47.4	75.5	14.7	1.1	0.0	0.5	0.5	0.0	7.6	
親族・知人に子どもをみてもらった	25.3	64.3	21.4	1.0	4.1	0.0	0.0	0.0	9.2	
父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた	33.8	76.3	9.9	1.5	1.5	0.0	0.8	0.8	9.2	
病児・病後児の保育を利用した	0.5	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
ベビーシッターを利用した	0.3	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
ファミリー・サポート・センターを利用した	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
仕方なく子どもだけで留守番をさせた	9.8	78.9	13.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.9	
その他	4.1	56.3	6.3	0.0	12.5	0.0	0.0	6.3	18.8	

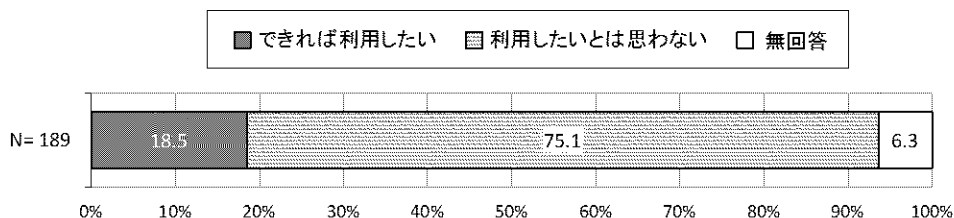
(4) 病児・病後児保育事業の利用意向

〈問 13-2〉

病児・病後児保育事業の利用意向については、保護者の 18.5%が「できれば利用したい」と回答しています。「利用したいとは思わない」は 75.1%となっています。

年間の利用日数の意向については、「1～5日」が 68.6%と最も多く、次いで「6～10日」(14.3%)と回答しています。平均すると 4.1日となっています。

■ 病児・病後児保育事業の利用意向



■ 病児・病後児保育事業の年間利用日数の意向

N= 35

	実数(人)	構成比(%)
1～5日	24	68.6
6～10日	5	14.3
11～15日	0	0.0
16～20日	0	0.0
21～25日	0	0.0
26～30日	0	0.0
31日以上	0	0.0
無回答	6	17.1
合計	35	100.0
平均(日)	4.1	-

6. 宿泊を伴う一時預かり等の利用

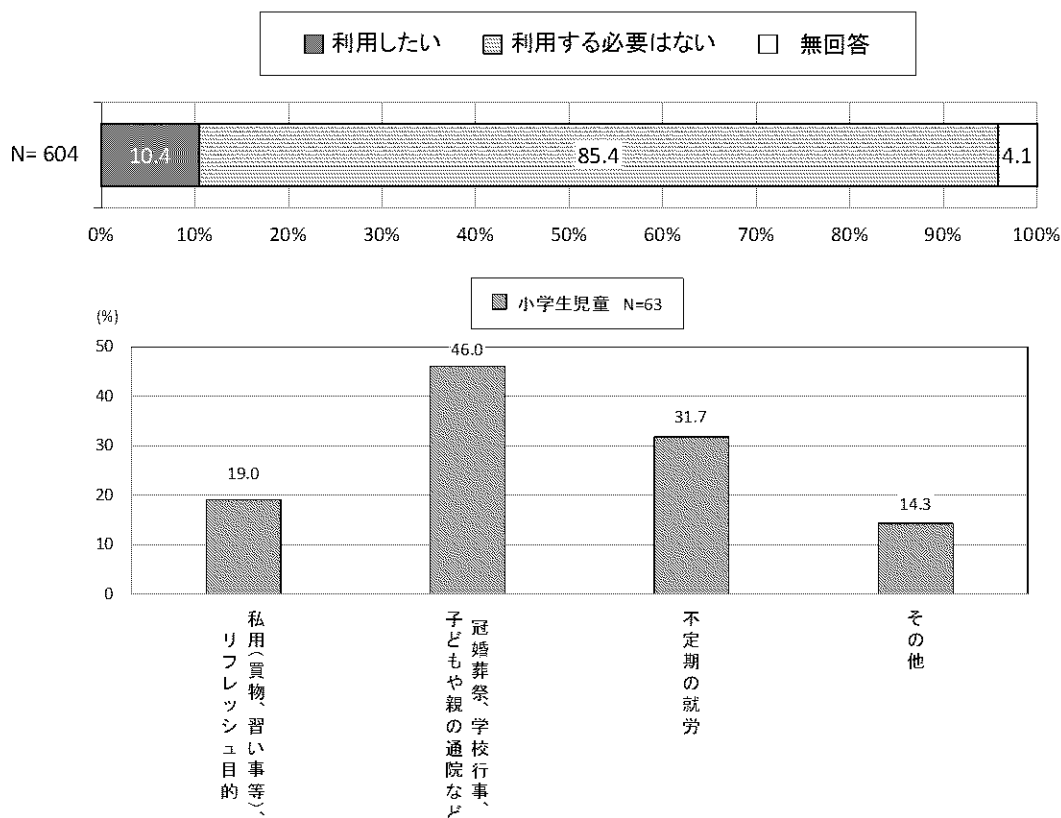
(1) 宿泊を伴う一時預かり等の事業の利用意向

〈問 14〉

私用や病気・通院、不定期の就労等の一時的な理由による宿泊を伴う一時預かり等の事業の利用意向について、「利用したい」が10.4%、「利用する必要はない」が85.4%となっています。

事業を利用する場合の目的については、「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院など」(46.0%)の回答が多く、次いで「不定期の就労」(31.7%)、「私用(買物、習い事等)、リフレッシュ目的」(19.0%)となっています。

■ 宿泊を伴う一時預かり等の事業の利用意向とその理由



また、事業を利用する場合の年間利用日数の意向については、全体の平均が11.6日となっており、利用目的別にみると「冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院など」が平均4.3日、「不定期の就労」が平均16.4日、「私用、リフレッシュ目的」が平均5.7日となっています。

■ 宿泊を伴う一時預かり等の事業の年間利用日数の意向 (利用目的別)

	サンプル数 (人)	実数 (人)								平均 (日)
		1~5日	6~10日	11~15日	16~20日	21~30日	31~40日	41日以上	無回答	
利用したい (全体)	63	17	11	5	1	3	0	1	25	11.6
私用 (買物、習い事等)、リフレッシュ目的	12	7	1	2	0	0	0	0	2	5.7
冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院など	29	16	4	2	1	1	0	0	5	4.3
不定期の就労	20	8	4	0	0	3	0	1	4	16.4
その他	9	2	2	0	0	2	1	0	2	16.7
	サンプル構成比 (%)	構成比 (%)								
利用したい (全体)	-	27.0	17.5	7.9	1.6	4.8	0.0	1.6	39.7	
私用 (買物、習い事等)、リフレッシュ目的	19.0	58.3	8.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	
冠婚葬祭、学校行事、子どもや親の通院など	46.0	55.2	13.8	6.9	3.4	3.4	0.0	0.0	17.2	
不定期の就労	31.7	40.0	20.0	0.0	0.0	15.0	0.0	5.0	20.0	
その他	14.3	22.2	22.2	0.0	0.0	22.2	11.1	0.0	22.2	

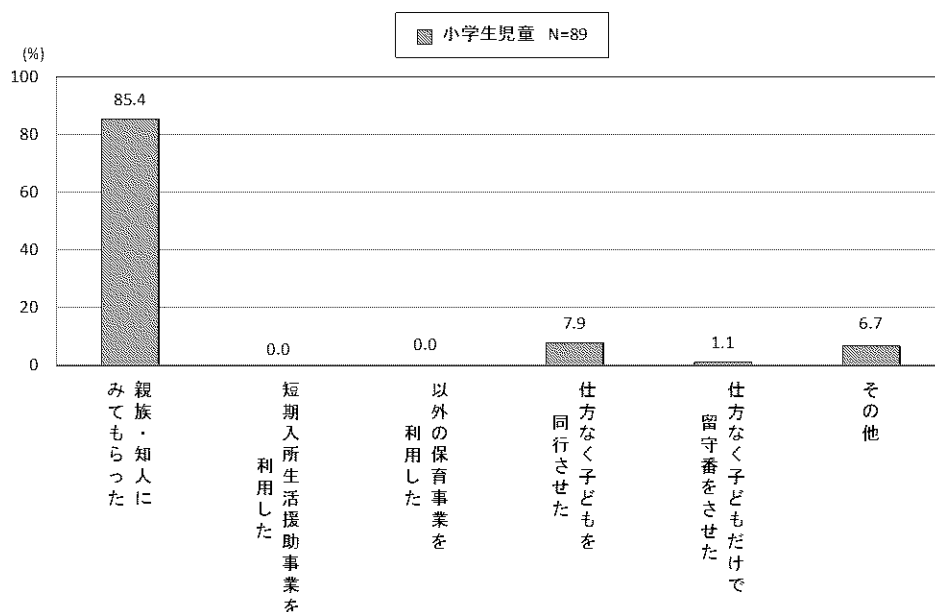
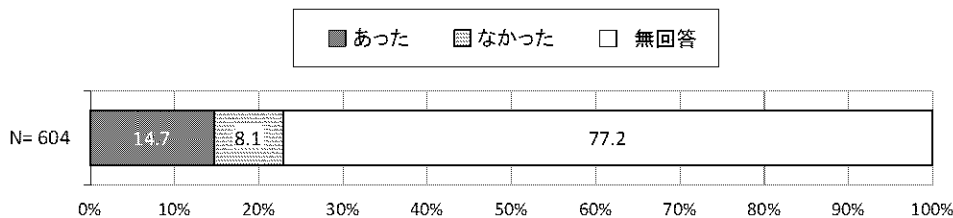
(2) 保護者の用事により、子どもを泊まりがけで家族以外に預けた経験

〈問 15〉

過去1年間に保護者の用事（冠婚葬祭、保護者や家族の病気等）で子どもを泊まりがけで家族以外に預けたことがあると回答した人は、14.7%となっています。

預け先としては、「親族・知人にみてもらった」が85.4%と最も多くなっています。

■ 泊まりがけで家族以外に預けた経験とその対処法（過去1年間）



また、泊まりがけで家族以外の誰かに預けた年間泊数は、対処方法別にみると「親族・知人にみてもらった」が平均6.0日で、「仕方なく子どもを同行させた」が平均3.3日となっています。

■ 泊まりがけで家族以外に預けた年間泊数（対処方法別）

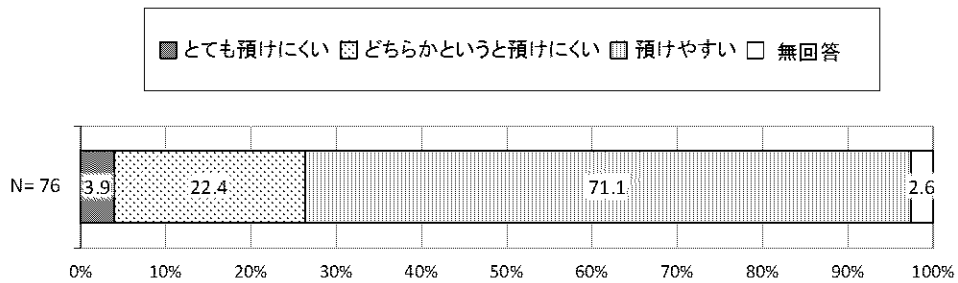
N=89

	サンプル数	実数(人)								平均(日)
		1～5日	6～10日	11～15日	16～20日	21～30日	31～40日	41日以上	無回答	
親族・知人にみてもらった	76	61	8	3	0	0	0	4	0	6.0
短期入所生活援助事業を利用した	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
以外の保育事業を利用した	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
仕方なく子どもを同行させた	7	3	1	0	0	0	0	0	3	3.3
仕方なく子どもだけで留守番をさせた	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0.0
その他	6	3	0	0	0	0	1	0	2	8.3
	サンプル構成比 (%)	構成比 (%)								
親族・知人にみてもらった	85.4	80.3	10.5	3.9	0.0	0.0	0.0	5.3	0.0	
短期入所生活援助事業を利用した	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
以外の保育事業を利用した	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
仕方なく子どもを同行させた	7.9	42.9	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	42.9	
仕方なく子どもだけで留守番をさせた	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
その他	6.7	50.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	33.3	

(3) 子どもを親族・知人に預けた場合の預けやすさ

〈問 15-1〉

子どもを親族・知人に預けた場合の預けやすさについては、71.1%の人が「預けやすい」と回答しています。「とても預けにくい」(3.9%)、「どちらかというと預けにくい」(22.4%)を合わせた26.3%が預けにくいと回答しています。

■ 親族・知人に預けた場合の預けやすさ

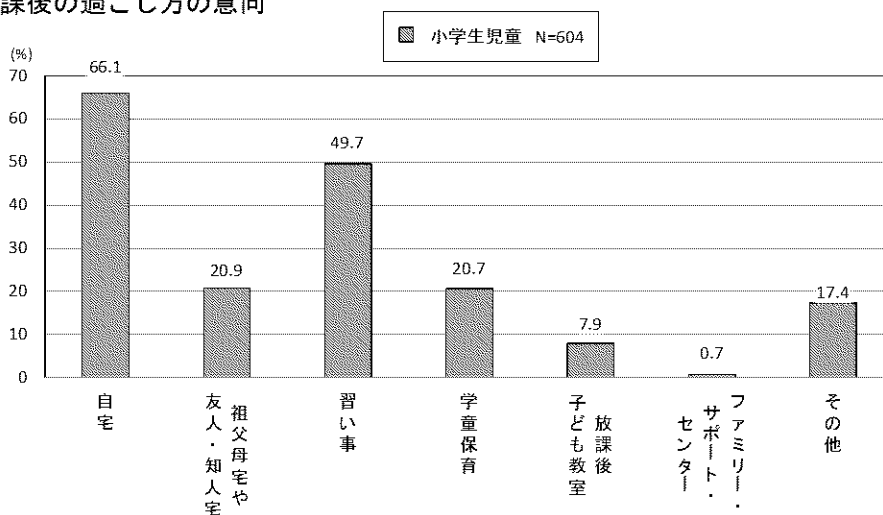
7. 放課後の過ごし方

(1) 子どもの放課後の過ごし方の意向（複数回答）

〈問16〉

子どもの放課後の過ごし方の意向について、「自宅」が66.1%と最も多く、「習い事」(49.7%)、「祖父宅や友人・知人宅」(20.9%)、「学童保育」(20.7%)と続きます。

■ 放課後の過ごし方の意向



■ 放課後に過ごす場所の1週あたり利用日数の意向

【小学校低学年】

N=604

	サンプル数 (人)	実数(人)								平均(日)
		1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	無回答	
自宅	399	21	37	35	18	51	5	7	225	3.4
祖父宅や友人・知人宅	126	27	22	6	2	9	3	1	56	2.0
習い事	300	38	58	30	9	11	1	1	152	2.1
学童保育	125	1	1	7	1	20	11	0	84	4.3
放課後子ども教室	48	12	6	5	0	2	0	0	23	1.5
ファミリー・サポート・センター	4	1	0	0	0	0	0	0	3	0.0
その他	105	13	20	8	5	3	0	1	55	2.1
	サンプル 構成比 (%)	構成比(%)								
自宅	66.1	5.3	9.3	8.8	4.5	12.8	1.3	1.8	56.4	
祖父宅や友人・知人宅	20.9	21.4	17.5	4.8	1.6	7.1	2.4	0.8	44.4	
習い事	49.7	12.7	19.3	10.0	3.0	3.7	0.3	0.3	50.7	
学童保育	20.7	0.8	0.8	5.6	0.8	16.0	8.8	0.0	67.2	
放課後子ども教室	7.9	25.0	12.5	10.4	0.0	4.2	0.0	0.0	47.9	
ファミリー・サポート・センター	0.7	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	75.0	
その他	17.4	12.4	19.0	7.6	4.8	2.9	0.0	1.0	52.4	

【小学校高学年】

N=604

	サンプル数 (人)	実数(人)								平均(日)
		1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	無回答	
自宅	399	23	47	52	14	82	10	16	155	3.6
祖父宅や友人・知人宅	126	18	24	9	3	13	1	0	58	2.3
習い事	300	33	76	52	19	15	1	1	103	2.4
学童保育	125	1	5	10	8	51	28	0	22	4.8
放課後子ども教室	48	9	9	2	1	4	0	0	23	1.9
ファミリー・サポート・センター	4	1	0	0	0	1	0	0	2	2.5
その他	105	18	23	12	5	4	1	0	42	2.0
	サンプル 構成比 (%)	構成比(%)								
自宅	66.1	5.8	11.8	13.0	3.5	20.6	2.5	4.0	38.8	
祖父宅や友人・知人宅	20.9	14.3	19.0	7.1	2.4	10.3	0.8	0.0	46.0	
習い事	49.7	11.0	25.3	17.3	6.3	5.0	0.3	0.3	34.3	
学童保育	20.7	0.8	4.0	8.0	6.4	40.8	22.4	0.0	17.6	
放課後子ども教室	7.9	18.8	18.8	4.2	2.1	8.3	0.0	0.0	47.9	
ファミリー・サポート・センター	0.7	25.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	50.0	
その他	17.4	17.1	21.9	11.4	4.8	3.8	1.0	0.0	40.0	

(2) 学童保育の放課後の利用時間帯の意向

〈問 16〉

学童保育の放課後の利用時間帯の意向をみると、小学校低学年の時では「18時台」が41.6%多く、次に「17時台」(29.6%)、「19時台」(8.0%)となっています。小学校高学年も低学年と同様に「18時台」が16.8%と最も多く、「17時台」(8.0%)、「19時台」(7.2%)と続いています。

■ 学童保育の利用終了時間帯の意向

	実数(人)	構成比(%)
15時台以前	0	0.0
16時台	4	3.2
17時台	37	29.6
18時台	52	41.6
19時台	10	8.0
20時台	0	0.0
21時台以降	0	0.0
無回答	22	17.6
合計	125	100.0
平均(時)	17.7	-

	実数(人)	構成比(%)
15時台以前	0	0.0
16時台	1	0.8
17時台	10	8.0
18時台	21	16.8
19時台	9	7.2
20時台	0	0.0
21時台以降	0	0.0
無回答	84	67.2
合計	125	100.0
平均(時)	17.7	-

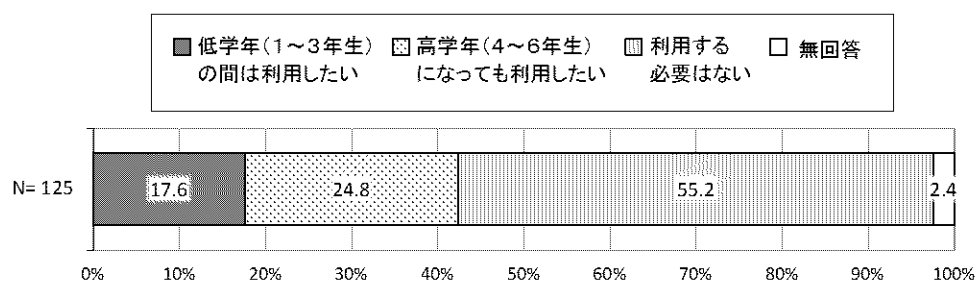
(3) 学童保育の日曜・祝日の利用と利用時間帯の意向

〈問 17〉

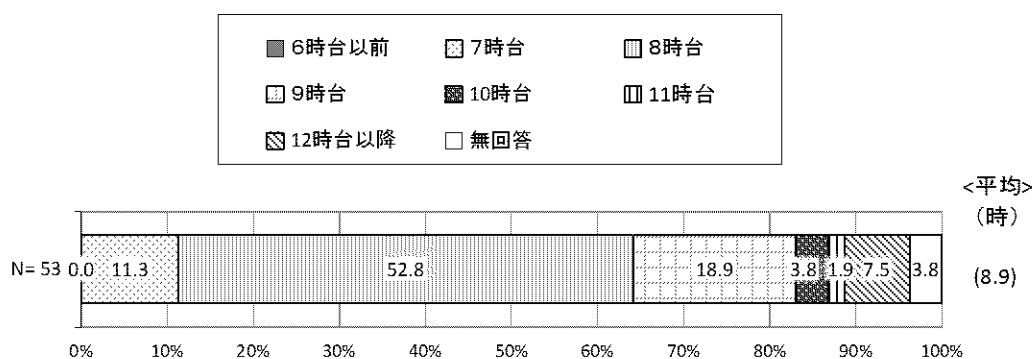
学童保育の日曜・祝日の利用の意向としては、「利用する必要はない」が55.2%と半数を占めています。「低学年の間は利用したい」(17.6%)、「高学年になっても利用したい」(24.8%)と、高学年の方が利用の意向の高くなっています。

学童保育の日曜・祝日の利用開始時間の意向は、「8時台」が52.8%と最も多く、次いで「9時台」(18.9%)、「7時台」(11.3%)となっており、7時～9時台が83.0%を占め、平均は9時頃となっています。終了時間の意向は、「18時台」が62.3%と最も多く、次いで「17時台」(18.9%)、「19時台」(13.2%)となっており、17時～19時台が94.4%を占め、平均は18時頃となっています。

■ 学童保育の日曜・祝日の利用意向



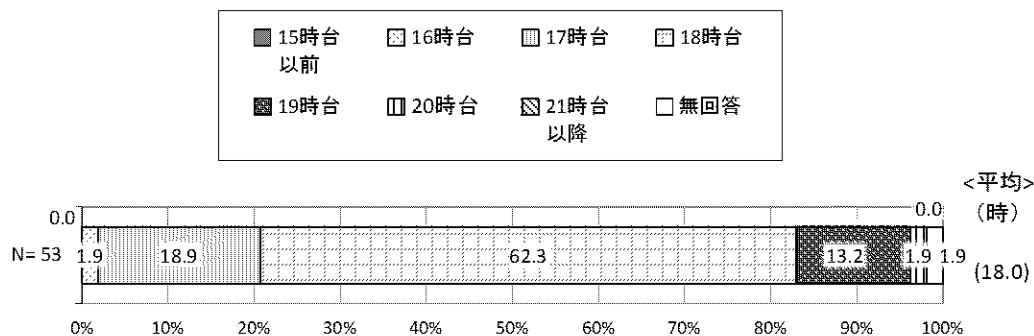
■ 学童保育の日曜・祝日の利用開始時間の意向



N= 53

	実数(人)	構成比(%)
6時台以前	0	0.0
7時台	6	11.3
8時台	28	52.8
9時台	10	18.9
10時台	2	3.8
11時台	1	1.9
12時台以降	4	7.5
無回答	2	3.8
合計	53	100.0
平均(時)	8.9	-

■ 学童保育の日曜・祝日の利用終了時間の意向



N= 53

	実数(人)	構成比(%)
15時台以前	0	0.0
16時台	1	1.9
17時台	10	18.9
18時台	33	62.3
19時台	7	13.2
20時台	1	1.9
21時台以降	0	0.0
無回答	1	1.9
合計	53	100.0
平均(時)	18.0	-

(4) 平日の学童保育の利用状況

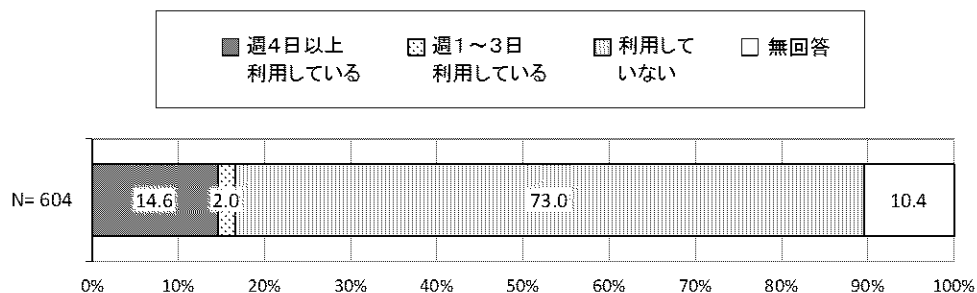
〈問 18(1)〉

現在の学童保育の平日の利用状況としては、「利用していない」が73.0%を占めており、「週4日以上利用している」(14.6%)と「週1～3日利用している」(2.0%)を合わせた16.6%が利用していると回答しています。

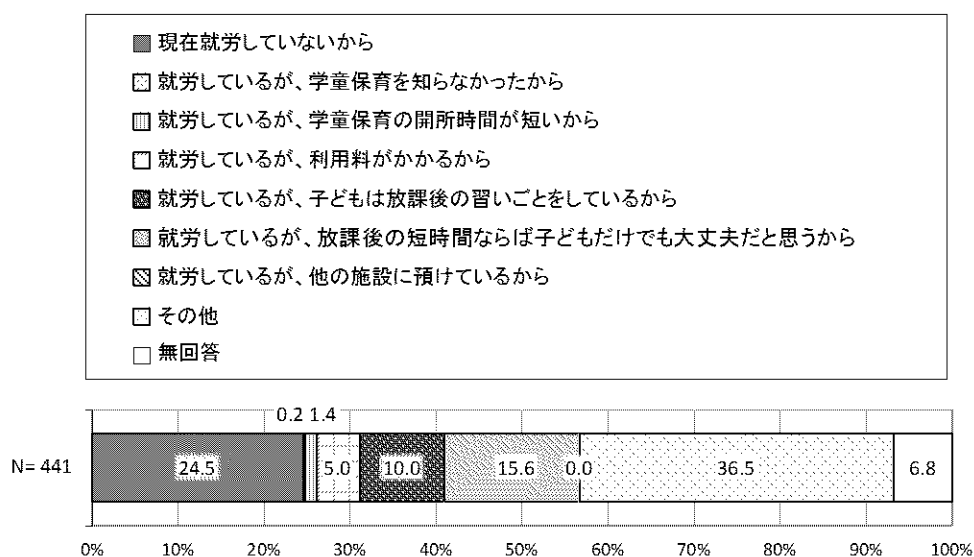
平日の学童保育を利用していない理由としては、その他を除くと「現在就労していないから」が24.5%と最も多く、次いで「就労しているが、放課後の短時間ならば子どもだけでも大丈夫だと思うから」(15.6%)、「就労しているが、子どもは放課後の習いごとをしているから」(10.0%)、「就労しているが、利用料がかかるから」(5.0%)となっている。

また、その他として「子どもが帰ってくるまでに家に戻れるため」、「祖母と同居しているため」、「開始時間が遅く、終了時間も早いため、意味がなかった」、「外で遊べず、絵を書いたりするだけで面白くなかったので行かなくなった」、「親がみてくれるから」といった回答があります。

■ 平日の学童保育の利用状況



■ 平日の学童保育を利用していない理由



(5) 土曜日の学童保育の利用状況

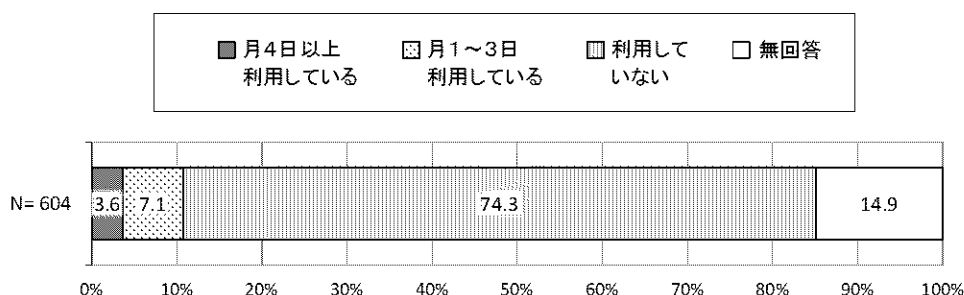
〈問 18(2)〉

現在の学童保育の土曜日の利用状況としては、「利用していない」が74.3%を占めており、「月4日以上利用している」(3.6%)と「月1～3日利用している」(7.1%)を合わせた10.7%が利用していると回答しています。

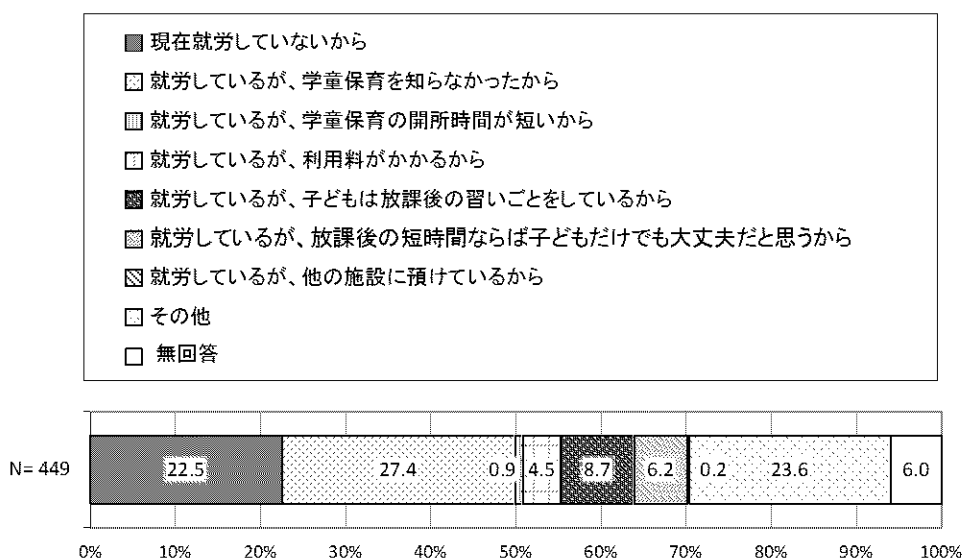
土曜日の学童保育を利用していない理由としては、「就労しているが、学童保育を知らなかったから」が27.4%と最も多くなっている。次いで、「現在就労していないから」(22.5%)、「就労しているが、子どもは放課後の習いごとをしているから」(8.7%)「就労しているが、放課後の短時間ならば子どもだけでも大丈夫だと思うから」(6.2%)、「就労しているが、利用料がかかるから」(4.5%)となっている。

また、その他として「土曜日は仕事が休みで、遊びに行くことが多いため」、「見学、説明を聞いた際、あまりいい印象を受けなかったため」、「親がみてるから」、「開始時間が遅く、終了時間も早いので意味がなかった」という回答があります。

■ 土曜日の学童保育の利用状況



■ 土曜日の学童保育を利用していない理由



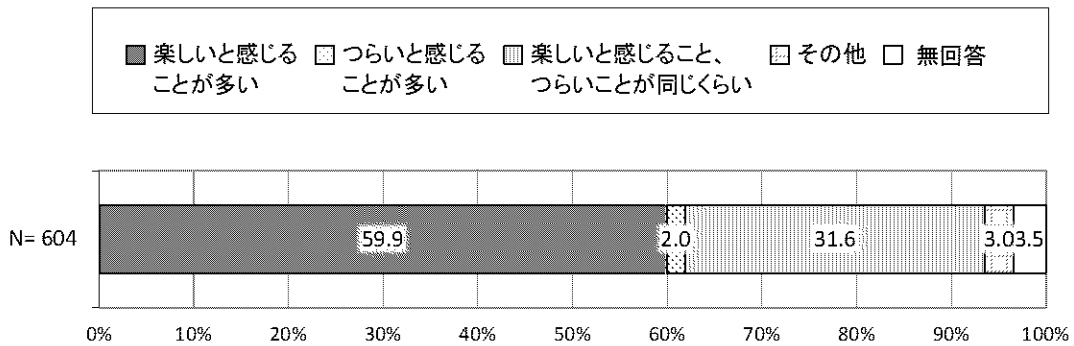
8. 子育てに関する悩みや不安

(1) 子育ての楽しさ

〈問19〉

子育ての楽しさについては、「楽しいと感じることが多い」が59.9%と最も多く、次いで、「楽しいと感じること、つらいことが同じくらい」(31.6%)となっています。「つらいと感じることが多い」は2.0%の回答があります。

■ 子育ての楽しさ

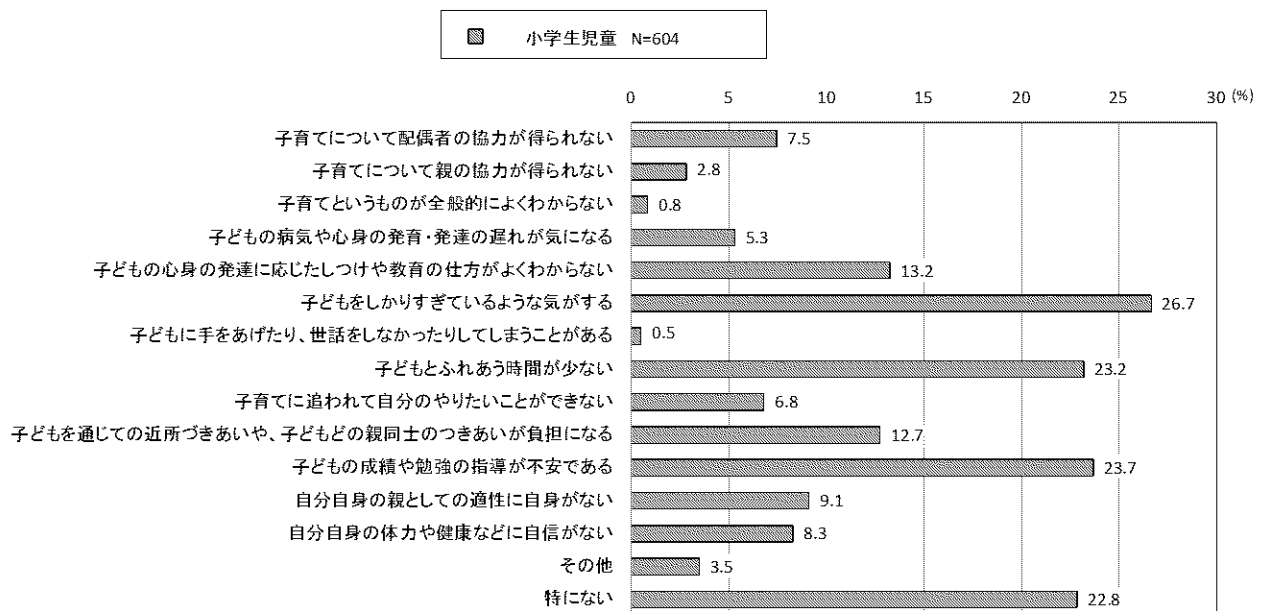


(2) 心理的な子育ての悩み (複数回答)

〈問20〉

心理的な子育ての悩みについて、最も多かった回答は「子どもをしかりすぎているような気がする」(26.7%)となっています。次いで、「子どもの成績や勉強の指導が不安である」(23.7%)、「子どもとふれあう時間が少ない」(23.2%)、「特にない」(22.8%)と続いています。

■ 心理的な子育ての悩み

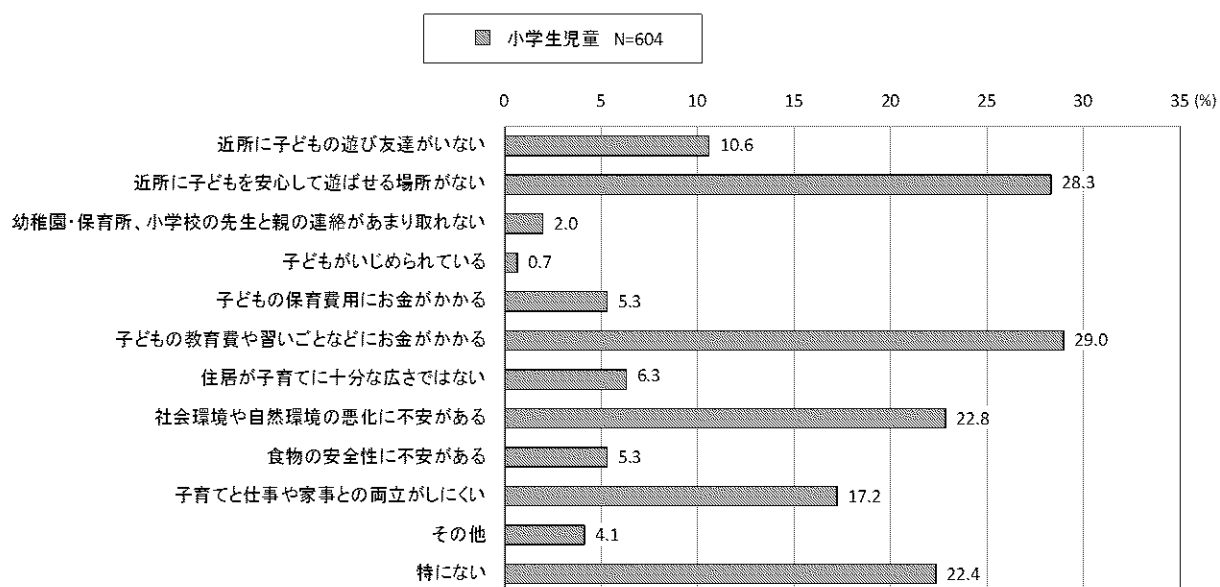


(3) 環境的な子育ての悩み（複数回答）

〈問 21〉

環境的な子育ての悩みについて、最も多かった回答は「子どもの教育費や習いごとなどにお金がかかる」(29.0%) となっています。次いで、「近所に子どもを安心して遊ばせる場所がない」(28.3%)、「社会環境や自然環境の悪化に不安がある」(22.8%)、「特にない」(22.4%)と続いています。

■ 環境的な子育ての悩み



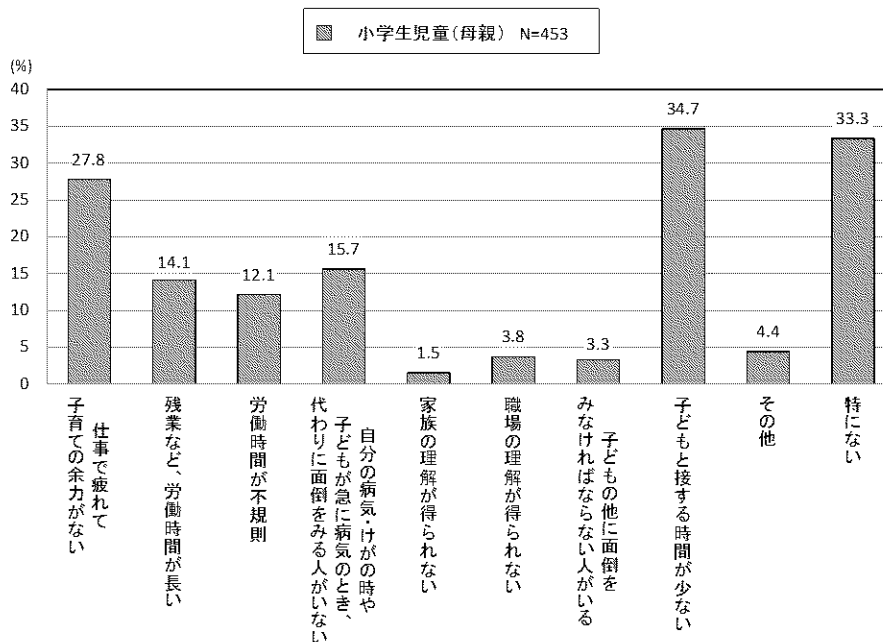
(4) 仕事と子育ての両立の上で困難と感じること (就労者のみ) (複数回答)

〈問 22〉

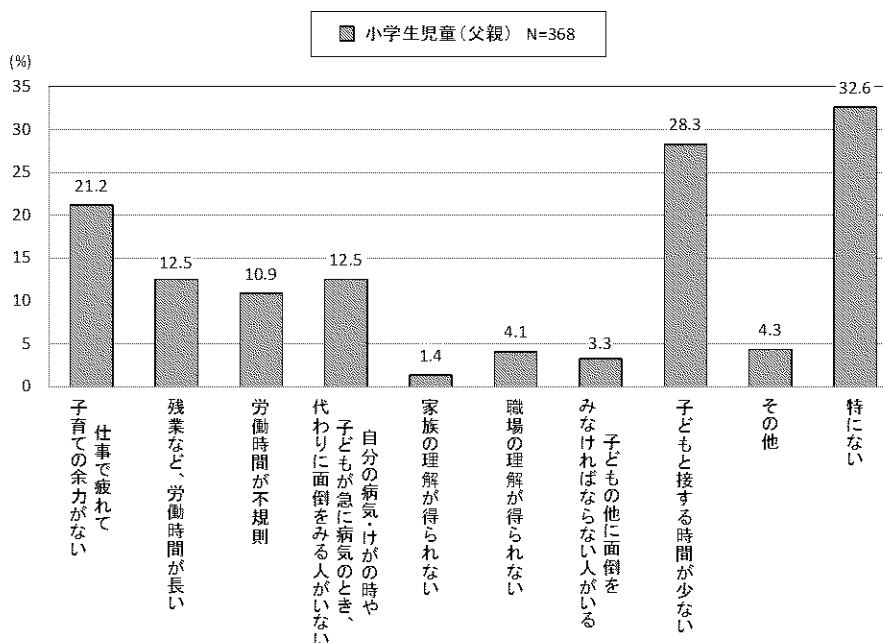
仕事と子育ての両立のうえで困難と感じることについて、母親の回答は「子どもと接する時間が少ない」が34.7%と最も多く回答があります。次いで、「特にない」(33.3%)、「仕事で疲れて子育ての余力がない」(27.8%)となっています。

父親の回答で最も多かったのは「特にない」で32.6%となっており、次いで、「子どもと接する時間が少ない」(28.3%)、「仕事で疲れて子育ての余力がない」(21.2%)が続いています。

■ 仕事と子育ての両立の上で困難と感じること (母親)



■ 仕事と子育ての両立の上で困難と感じること (父親)



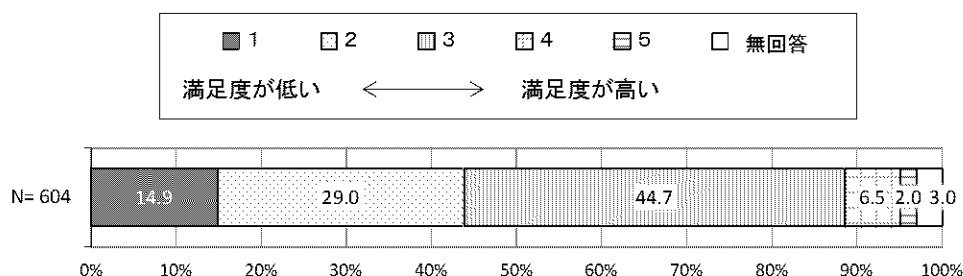
9. 中間市の子育て支援

(1) 中間市の子育ての環境や支援の満足度

〈問 23〉

中間市の子育ての環境や支援の満足度について、満足度「1」(14.9%)、「2」(29.0%)を合わせた43.9%は比較的満足度が低いと回答しており、「4」(6.5%)、「5」(2.0%)を合わせた8.5%は比較的満足度が高いと回答しています。このことより、中間市の子育ての環境や支援の満足度は低い傾向にあります。

■ 中間市の子育ての環境や支援の満足度

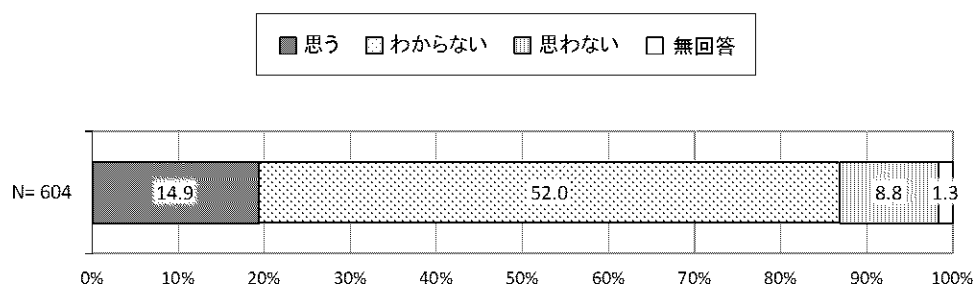


(2) 将来の中間市での子育ての意向

〈問 24〉

将来の中間市での子育ての意向については、全体の半数以上の52.0%が「わからない」と回答しており、今後も育てたいと「思う」が14.9%、今後も育てたいと「思わない」が8.8%となっています。

■ 今後も中間市で子どもを育てたいと思うか

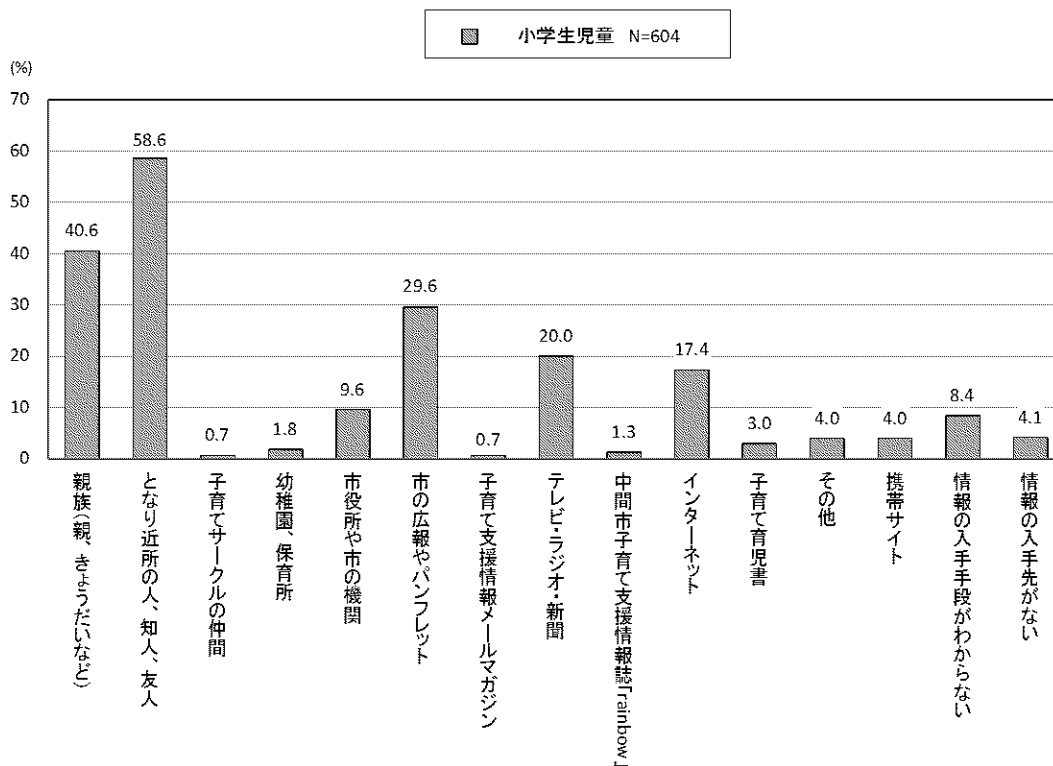


(3) 子育て情報の入手方法

〈問26〉

子育て情報の入手方法については、「となり近所の人、知人、友人」が最も多く 58.6%となっています。次いで、「親族」(40.6%)、「市の広報やパンフレット」(29.6%)、「テレビ・ラジオ・新聞」(20.0%)、「インターネット」(17.4%)と続いています。また、8.4%の人が「情報の入手手段がわからない」、4.1%の人が「情報の入手先がない」と回答しています。

■ 子育て情報の入手方法



(4) 子育ての充実に望むこと

〈問 27〉

子育ての充実に望むことについては、「乳幼児医療費の助成や児童手当などの充実」が39.9%と最も多く、次いで「安心して子どもが医療機関にかかることができる体制の整備」(32.1%)、「子ども連れでも出かけやすく楽しめる場の整備」(27.5%)、「子どもが自ら成長できるように体験活動を増やしてほしい」(24.8%)と続いています。

■ 子育ての充実に望むこと

